2021 年度版

思考力を鍛える

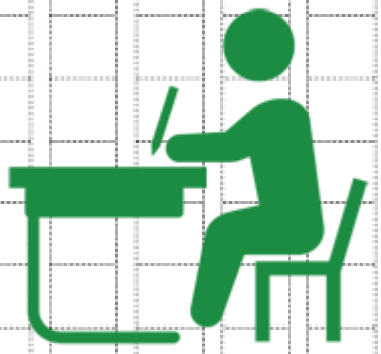
日本語文章表現の技法

［テキスト］編（β 版）

Elementary, my dear Watosn.

「基本だよ、ワトソン君」

ー映画「シャーロック・ホームズの冒険」よりー



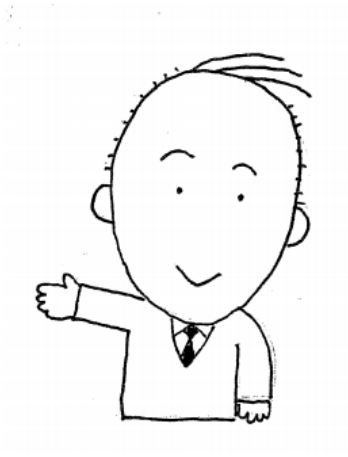
RITSUMEIKAN

編著　薄井 道正

目次

目次・はじめに……p. 1
§１：良い文章の書き手となる……p. 2
§２：語彙力を身につける……p. 6
§３：あいまい表現を避ける……p. 10
§４：文の構造（組み立て）をつかむ……p. 15
§５：一文一義の原則で文をつくる……p. 18
§６：段落をつくる……p. 22
§７：接続表現を使う……p. 29
§８：事実と推測と意見……p. 39
§９：論証する……p. 48
§10：要約する……p. 55
§11：説明する……p. 60
§12：コピペと言われない（正確に引用する）……p. 72
§13：パラフレーズする……p. 79
§14：クリティカル・リーディングの技法……p. 84
付録：レポート見本……p. 97

はじめに



文章を書くのは、〈自分の意見〉を書くためです。自分が書かなければ、他に誰も書いてくれないことを、身銭を切ってでも（過不足のない正確で適切なことばが見つからないことに、たえず身もだえしながらも）書くためです。ただし、誤解してはいけません。〈自分の意見〉を書くとは、「自分単独で考えた意見」を書くことではありません。というより、「自分単独で考えた」などということは原理的にできるはずがないのです。フランスの象徴詩人であるアルチュール・ランボー（1854－91）の「私とは一個の他者だ」ということばが端的に示しているように、常に私たちは「他者」との対話（コミュニケーション）をとおして考えているのです。ただし、この場合、他の人によって書かれた文献や作品、他の人によって調べられたデータも「他者」なのです（さらにいえば、自分の過去の経験や体験も「他者」ではあるのですが）。そして、そうした「他者」とのコミュニケーションを抜きにして、〈自分の考え〉などありえないのです。もし、「これは自分単独で考えたことだ」といって書いているものがあれば、それだけで読むに値しないもの（噴飯もの）といってよいでしょう。本テキストを通して、他者と対話する方法・技術と対話を通して〈自分の意見〉を形成する力を身につけてください。

§１:良い文章の書き手となる

［１］文章がヘタだと人が死ぬ

国内の原子力災害では東京電力福島第一原発事故（レベル 7）が史上最悪とされていますが、今から 21 年前、それに次ぐ深刻な原子力関連事故（レベル 4）が茨城県の東海村で起こっています。1999 年 9 月 30 日午前 10 時 35 分頃のことです。JCO（住友金属鉱山の子会社の株式会社ジェー・シー・オー）の核燃料加工施設内で核燃料を加工中に、ウラン溶液が臨界状態に達し核分裂連鎖反応が発生、この状態が約 20 時間持続し、中性子線やガンマ線などが周辺に放出されるという事故が起こったのです。そして、これにより、至近距離で中性子線を浴びた作業員 3 名中、2 名が死亡、1 名が重症となった他、667 名の被曝者を出すという深刻な結果を招きました。

いったい事故の原因は何だったのでしょうか。事故後、この原子力事故について、調査委員会は次のような報告をおこないました。

> 転換試験棟では、作業手順書が存在しないままに操業が実行されたり、実際の手順の変更の実施後かなり経ってから手順書の改訂を行ったりすることが常態化していた。記述内容は、それを読めば作業未経験者が実際の作業を実行できるものにはなっていないし、臨界安全管理上の注意等の記述もないし、臨界がどのように防止されているかなどの意味的情報が欠けている。

出典：日本原子力学会 JCO 事故調査委員会（2005）『JCO 臨界事故 その全貌の解明』p. 218

「作業手順書」の記述内容が「読めば作業未経験者が実際の作業を実行できるものにはなっていないし、臨界安全管理上の注意等の記述もない」、「意味的情報が欠けている」。これが事故の原因だと報告書は述べているのです。「マニュアルが意味の伝わるような文章ではなかった」「マニュアルの出来が悪かった」。要するに、「文章がヘタだと人が死ぬ」ということなのでしょう。

［２］「良い文章」とは

上記の報告書は、良い文章とは如何なる文章なのか、ということを（反面教師的にではありますが）教えてくれています。良い文章とは、目的をうまく果たせる文章なのです。文章には相手（他者である読み手）と目的があります。文章は、相手に読ませて、その相手の考えや状況・行動を変える（目的）ために書くものです。相手の考えや状況を変えるとは、何らかの事実を知らしめたり、筆者の判断・評価を書いて納得・同調させたり、問題を提起して考えさせたり、危機的状況を書いて行動への意志をもたせたりする、ということです。哲学者の戸田山和久さんは、そうした「良い文章」を書くためには、次の 8 つのことを考えるべきだと提唱しています。

> ①これから書く文章の目的は何か
> ②その相手は誰か
> ③相手は何を知っているのか（共通知識）
> ④相手は何を知らないのか（知識の非対称性）
> ⑤どのような知識を補えば相手に目的のことをしてもらえるか
> ⑥相手がその知識をどのような仕方で獲得すれば、その目的をうまく果たせるか
> ⑦相手にその知識を⑥のような仕方で獲得してもらうためには、どうすればよいか
> ⑧そうして設計された文章をどのように実現すれば、相手は気分よく読めるか

たいへん重要な指摘です。文章には必ず、相手（宛先）と目的がある。その相手は誰か、その相手に何をしてもらいたいのか。どのように書けば、その相手に〜をしてもらいたい、という目的をうまく果たせるのか。そして、相手と目的によって、いくつもの異なる書き方（文体）を使い分けられるか。そうしたことを意識することなしには、「良い文章」は書けないのです。

文章の読み手を想定することについては、内田樹さんが「身内の語法で書いていないか」ということを意識すべきだと指摘しています。身内以外の読者たちが読んでも十分にリーダブルな（読みやすい）ものか？　自分が言うことにつねに同意してくれる「自分と同じような読者」を前提にしていないか？　「わからない」「よく知らないこと」について平然と断定的に語る人たちは、自分が言うことにつねに同意してくれる「自分と同じような読者」を前提にして語っているのであり、それを「敬意の欠如」というふうにとらえている、と述べています。

［３］「達意の文章」を書く



『論語』衛靈公篇に「子曰、辭達而已矣」（辞は達するのみ）という一節があります。「ことばや文章は、相手にこちらのメッセージが伝われば、それで十分です。美しい文章、人を驚かせる文章を書く必要などありません」（高橋源一郎『一億三千万人のための「論語」教室』河出書房、2019 年、p. 423）という意味です。私たちは、名文や美文が書けることよりも、まずは「相手に伝わる文章」が書けることが大事です。立花隆さんが、「人を動かし、組織を動かし、社会を動かそうと思うなら、いい文章が書けなければならない。良い文章とは、名文ということではない。うまい文章でなくてもよいが、達意の文章でなければならない。文章を書くということは、何かを伝えたいということである。自分が伝えたいことが、その文章を読む人に伝わらなければ何もならない。」（立花隆『二十歳のころ』新潮社、1998 年、p. 15）と述べています。立花さんがいう「達意の文章」が書けるようになることこそ、「日本語文章表現の技法」の最終目標といってよいでしょう。

［４］書くこと（作文力）と読むこと（読解力）は表裏一体

文章が書けないのは、文章が読めないからでもあります。読解力がないということは、自分の書いた文章も読めないということです。そのため、自分の書いた文章を推敲することも、改善することもできず、結果として良い文章が書けないということになるのです。大学生のための塾を主宰する渡邊峻さんは、「教科書の内容が理解できない、授業についていけない、という学生は少なくありません。（中略）国語力の基礎は、文章を『読む』というインプットだと思います。インプットが少ないと、アウトプットのレパートリーも減ってしまいます。文章を書ける学生は「文章とはこういうものだ」というレパートリーをある程度、自分の中に持っています。つまり、国語の基本的な知識や型が身についています」（「書くためには『読む』習慣」2020 年 4 月 4 日付『朝日新聞』朝刊）と語っています。

§2 で「語彙力を身につける」ことをテーマとしますが、語彙力も語彙をただ暗記すれば身につくというものではありません。発達心理学者の今井むつみさんは、「豊かな語彙力、つまり知っている単語の数だけではなくて深い理解をともなった語彙力の持つのにもっとも有効なのは、**どれだけ授業の外でも読**

書をするかということなのです。学力に影響を与える要因の最も大事なものが語彙だとしたら、読書の習慣はほんとうに大事だということになりますね」（今井 2020、p. 127）と述べています。

そこで、本テキストも、「書くこと」と「読むこと」は一体のものである、と考えて作成しています。これからのセクションでとりあげていく「書く」ための技法は、「読む」ための技法でもあると考えてください。（「要約する」ということも、「その文章には何が書かれているのか」を読みとることに他なりません。）最終セクションが「クリティカル・リーディングの技法」（「読み」の技法）になっているのも、文章が書けるためには他者の文章を分析できる力が必要だからです。

読むためには、他者の文章であれ自分の文章であれ、その文章を客観化・相対化しなければ読めません。書く力を身につけるときにも、私たちが日常的に使っている日本語を相対化・客観化してとらえることが必要となります。国文学研究資料館長のロバート・キャンベルさんが、こんなことを語っています。

> 日本語を話すことが日本人の前提ではないし、日本人と日本語は同一ではありません。ですが、日本人が日本語を話すのは当たり前で、日本語は自分のアイデンティティや感覚と一体化し、空気のようなもの、と考えている人が多いのも事実です。
>
> （中略）
>
> 日本人が日本語を話すことは、英語を話すことと同様、「能力」です。母語と一体化し過ぎているとその事実を忘れ、外国語を習得するとき、気がつかない「壁」になってしまう懸念があります。
>
> 私が米国の教会付属小学校では、低学年から英語の授業で「文章の解析」を学びました。品詞や主節・従属節を分けたり、時制や話法を分析したりして、徹底的に解剖します。ピンセットで虫を標本箱に分類するように、母語である英語を「言葉」として客観視するのです。一方で、街に出れば、さまざまなまりの英語が飛び交い、母語が相対化されました。

出典：「『日本語』として客観的に」2020 年 4 月 4 日付『朝日新聞』朝刊

日本語を喋れるのだから日本語を書けるはずだ、ということにはならないのです。（いや、喋っている日本語すら、客観視できなければ危ういということでしょう。）

そこで、§2 以降では、（キャンベルさんの表現を借りれば）日本語を徹底的に解剖し（文章を解析し）、みなさんの日本語についての理解を深めることを通して、実戦的な「読み/書き」の技法を身につけてもらいます。

✎まとめ（Summary）

1. **良い文章とは上手く目的が果たせる文章である。**
2. **文章には相手（宛先）と目的があり、「自分と同じような読者（身内）」を前提にしてはならない。**
3. **目標は「達意の文章」が書けることである。**
4. **日本語を相対化・客観化できなければ、「読み/書き」の力は身につかない。**

Glossary：「です・ます」体（敬体）と「である」体（常体）

日本語の文末表現には、「です・ます」体（敬体）と「である」体（常体）があります。「です・ます」体は、当たりが柔らかで、礼儀正しく、丁寧な表現であり、相手への気遣いや遠慮のある言い方です。また、そこには上下関係へのこだわりが内在しており、私が私人として特定のあなたに語る文体であるともいえます。そこで、手紙や子ども向けの絵本、先生が読み手である作文などは、「です・

ます」体で書かれます。

一方、「である」体は、読み手への遠慮を排して、事実を力強く言い切る表現であり、書いた人の立場や実態から離れた、絶対の話者の文体です。また、私が公人として不特定の一般に対して語る文体であるともいえます。そこで、論文やレポートは「である」体で書かれるのです。

「だ・である」体といった言い方をすることもありますが、論文やレポートで「〜だ」という文末表現は避けたほうがよいとされています。「だ」は「である」体ではないからというだけではなく、「だ」は感情性を帯びた強調表現だからです。論文は，自分の論理を展開すべきであって、感情を表現すべきものではありません。

Glossary：「である」と「のである」

「である」はたんなる断定ですが、「のである」はたんなる断定ではありません。「とくに強く念を押したいとき」や「しっかりと言い聞かせたいとき」「これまで述べてきたことをまとめて結論的に言うとき」に「のである」を用います。理屈っぽいニュアンスや押しつけがましい感じもあり、乱用することは控えた方がいいでしょう。「のである」を極端に嫌う先生もいます。とくに強調したいとき以外は、できるかぎり使わないようにしましょう。

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

飯間浩明（2011）『伝わる文章の書き方教室』ちくまプリマー新書
森山卓郎（2013）『日本語の〈書き〉方』岩波ジュニア新書
今井むつみ（2020）『親子で育てることば力と思考力』筑摩書房

§２:語彙力を身につける

［１］語彙をふやそう

文章がヘタな人は、ことばに対して鈍感で、語彙が乏しいといえます。言い換えれば、うまい文章が書けるようになるためには、まずはことばに対して敏感になり、意識して語彙を増やそうとすることが大切なのです。

もちろん、語彙を増やすことが大切なのは、文章がウマくなるためだけではありません。哲学者の戸田山和久さんは、次のように述べています。

> 言葉は思考拡張装置だ。だとしたら、われわれは意識して語彙を増やそうとしなければならない。英単語知らなきゃ英語で考えることなどできない。これと同じで、日本語でも自在に使える語を増やさなければ、まともな思考はおぼつかない。日本に生まれて日本に生きてりゃ、自動的に日本語ができるようになると思ったら大間違いだ。

出典：戸田山和久（2020）『教養の書』筑摩書房、p. 218

> 語彙は思考と結びついている。語彙が貧弱だと思考も貧弱になる。複雑なことをうまくかんがえられなくなる。

出典：戸田山和久（2020）『教養の書』筑摩書房、p. 256

ジョージ・オーウェル（George Orwell: 1903-1950）の小説『一九八四年』（原著 1949 年、早川文庫［新訳版］2009 年）の中に、「真理省」という「報道、娯楽、教育及び芸術」を管掌する政府機関が登場します。そして、その「真理省」の建物壁面には、「戦争は平和なり／自由は隷属なり／無知は力なり」というスローガンが掲げられているのです。

小説『一九八四年』は陰鬱な未来世界（もちろん小説が発表された 1949 年から見た）を描いています。そこに描かれる社会は究極の管理社会です。イングソックと呼ばれる監視国家に暮らす人々は、余計なこと、とりわけ反体制的なこと、「異端の思想」を考えないように、新しく考案された人工言語ニュースピーク（Newspeak）を使わされています。ニュースピークについては、その「諸原理」が小説の「附録」の中で次のように解説されています。たとえば、「自由な」を意味する「free」という語は、「この犬はシラミから自由である」「その畑は雑草から自由である」という言い方のみ使うことができ、「政治的に自由な」「知的に自由な」という「古い意味」で使うことはできません。また、「名誉（Honor）」「正義（justice）」「道徳（morality）」「 国際協調主義（internationalism）」「学問（science）」「民主主義（democracy）」といった語はあっさりと消去され、それらは「犯罪思考（crimethink）」や「旧思考（oldthink）」という語に包括されています。

ニュースピークには「二重思考」「黒白」という言葉もあります。それは、「敵に対して使用する際には、あからさまな事実に反して黒は白であると厚かましく主張する態度のこと」であり、「黒を白と信じ込む能力でもあり、更には、黒は白だと知っている能力であり、かつてはその逆を信じていた事実を忘れてしまう能力のこと」で、「その為には絶えず過去を改変する必要が生じ、それは他の一切を包含する思考法によって可能となる」と述べられています。

ここに見られるのは、ものごとを疑ってかかること、批判的（critical）に考えようとするのは危険なことだ、という考え方です。残念なことに、私たちの現実社会においても、率先してニュースピークを語る人びとがいます。また、知らず知らずに多くの人びとがニュースピークをしゃべるようになってきてい

ます。（もちろん、私だって例外ではないと思っています。）精密で批判的な思考を可能にする豊かな概念と語彙は、私たちが精神の自由を獲得するために、前世代が私たちに託した貴重な贈り物なのにもかかわらず。

> われわれが多少なりとも込み入ったことを筋道立てて考えるためには、言葉という人工物を補助手段として使うことが不可欠だ。だとするなら、人々を考えないようにさせる、つまり**アホにさせるための一番の近道は、言葉を奪うこと**になるだろう。

出典：戸田山和久（2020）『教養の書』筑摩書房、p. 221

アホにさせられないために、精神の自由を奪われないために、言葉に敏感になろう。

［2］言葉で世界をとらえる

「自分の頭で考える」とは、まずもって「〈自分の言葉＝自分で理解している言葉〉で考える」ことです。それは言い換えができるような言葉を用いて考えたり、具体例を挙げられたり考え出せたりする、ということです。だからこそ、もっともっと世界をとらえることのできる言葉を獲得していくこと（自分の言葉にしていくこと）が、自分の頭で考えるためには必要となります。学問の世界では、日々さまざまな領域の研究者が、言葉を用いて世界を把握しようとしています。図書館には、世界をとらえようとする言葉（それがかたちとなった本や論文など）が充ち満ちています。大学の授業やゼミでは世界を把握する言葉が現在進行形でつくりだされています。すなわち、言葉を獲得し、その言葉を通して世界を把握していくことこそが、何よりも「学び」の中心となるのです。

［3］ことばの使い方を意識しよう

ことばは無意識のうちに、私たちの思考や判断に大きな影響を与えています。言語学者の白井恭弘さんは、次のように述べています。

> 同じ現象でもどのようなことばを使うかによって、人に与える印象は大きく変わってきます。また私たちは、人がどのようなことばを使うかによって、その話し手に対して知らず知らすにさまざまな印象を持ち、それが私たちの判断に微妙な影響を与え、時には差別につながることもあります。知らず知らずのうちに無意識の思考に支配されていることを「意識」しておけば、その支配から逃れることができるかもしれません。

出典：白井恭弘（2013）『ことばの力学』（岩波新書）岩波書店、p. ii

ことばの使い方に意識的になることで、偏りのない判断や批判的な思考もできるようになるのです。つまり、ことばを自覚的に運用できる力（これを「メタ言語能力」といいます）を身につけることが、「ニュースピーク」の話し手にならないために必要なことでもあります。

［4］日本語で思考する力を

『日本語の科学が世界を変える』（新潮選書）の中で、松尾義之さん（科学ジャーナリスト）は、「日本語の中に、科学を自由自在に理解し創造するための用語・概念・知識・思考法までもが十二分に用意されて」いて、日本人は母語（幼児に自然と習得した言語）である日本語で科学することができるからこそ、世界的な成果を上げてこられたのだ、と述べています。また、この本には、ノーベル賞の受賞者である益川敏英博士の次のようなコメント（2014 年 11 月 26 日「朝日新聞」「耕論」）も引用されています。

ノーベル物理学賞をもらった後、招かれて旅した中国と韓国で発見がありました。彼らは「どうやったらノーベル賞が取れるか」を真剣に考えていた。国力にそう違いはないはずの日本が次々に取るのはなぜか、と。その答えが、日本語で最先端のところまで勉強できるからではないか、というのです。自国語で深く考えることができるのはすごいことだ、と。彼らは英語のテキストに頼らざるを得ない。なまじ英語ができるから、国を出て行く研究者も後を絶たない。日本語で十分に間に合うこの国はアジアでは珍しい存在なんだ、と知ったのです。

「母語で培われた高度な言語能力」を身につけること、言い換えるなら、徹底的に鍛えられた日本語で読み・書きできる能力こそが学問の基礎であり、深みがあり独創的な思考を担保するものなのだということでしょう。そう言えば、2012 年に山中伸弥京都大学教授がノーベル医学生理学賞を受賞し、2014 年には天野浩名古屋大学教授ら三人の日本人がノーベル物理学賞を受賞して大きな話題となりましたが、2008 年にノーベル物理学賞を三人の日本人（一人は米国籍）が受賞したとき、韓国の新聞「韓国日報」（2008.10.9）が次のように報じていました。

日本の基礎科学がどうして強いのかについては様々な理由があるが、私が見るに、日本語で学問をするという点も大きいようだ。基礎科学、特に物理学のような分野は物質界の作動原理を研究するものであるから、どの分野よりも深みがあり独創的な思考が重要だ。深みがあり独創的な思考をするためには、たくさん思考せねばならない。そのためには基本的な概念を早くからきちんと身に付けねばならない。南部教授は小学校のときに理科の時間に感じた興味が彼を科学者に導いたという。基本概念はどうすればきちんと身につくか。理解しやすい言語で科学を説明することから始まるはずだ。

日本は初等・中等課程はもちろん、大学でも日本語で科学を教える。そのため、西洋で発達した科学を日本語に訳すのを当然の基礎過程だと考えている。漢字文化圏である東洋４国があまねく使っている「科学」「化学」「物理学」などの用語自体が、アルファベット圏言語を自国語で把握しようとした日本の知識人たちによる翻訳の所産だ。「素粒子」「陽子」「電子」などの用語も、すべて日本人が作ったものだ。

もちろん、日本語が他の言語よりも優れた言語であるということではありません。言語に優劣などありません。ただ、自分が生まれ育った国の言語を自在に駆使できてこそ、高度で独創的な思考も可能になるのです。

✎まとめ（Summary）

1. **精密で批判的な思考を可能にする豊かな概念と語彙は、われわれが精神の自由を獲得するために、前世代がわれわれに託した貴重な贈り物である。**
2. **ことばの使い方に意識的になることで、偏りのない判断や批判的な思考もできるようになる。**
3. **徹底的に鍛えられた日本語で読み・書きできる能力こそが学問の基礎であり、深みがあり独創的な思考を担保するものである。**

Glossary：「話し言葉」と「書き言葉」

たしかに、話し言葉と書き言葉の区別は意外と難しいものです。話し言葉と書き言葉の区別は、主観的な語と客観的な語の違いです。主観的というのは、話し手・書き手自身の判断に依存する度合いが強いこと、客観的というのは、話し手・聞き手の判断とは無関係に事実として存在する度合いが強いことを表します。そして、主観的な語は論文・レポートには不向きです。それが明瞭に現れているのは、下の表では、副詞の「絶対」と「ちっとも」、接続詞の「でも」と「だって」です。副詞「絶対」「ちっとも」、接続詞「でも」「だって」に共通しているのは、話し手・書き手が自分の先入観をあらかじめ持っており、それにもとづいて表現している点です。つまり、小児病的言葉？です。「絶対、絶対、行くもん」と、めったやたら「絶対」を連呼するのは子どもで、おとなはめったに「絶対」を使いません。したがって、論文・レポートでは話し言葉の使用を避け、書き言葉を使う必要があります。

	話し言葉		書き言葉	話し言葉		書き言葉
接続助詞	から	→	ので	したら	→	すれば
	して	→	し	のに	→	にもかかわらず
	しないで	→	せずに	けど	→	が
副詞	全然	→	まったく	一番	→	もっとも
	多分	→	おそらく	ちっとも	→	少しも
	絶対	→	かならず	もっと	→	さらに
接続詞	だから	→	そのため	けど	→	だが
	それから	→	また	だって	→	なぜなら
	でも	→	しかし	じゃあ	→	では

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

石黒　圭（2016）『語彙力を鍛える』光文社新書

今野真二（2019）『教科書では教えてくれないゆかいな語彙力入門』河出文庫

白井恭弘（2013）『ことばの力学ー応用言語学への招待』岩波新書

ジョージ・オーウェル 高橋和久訳（2009　原著 1949）『一九八四年［新訳版］』ハヤカワ epi 文庫



§３:あいまい表現を避ける

［１］あいまい表現－複数の解釈が可能な文－

次の文の意味がわかりますか。

(a) 彼は目が良い。
(b) 立命館パンサーズに勝ってほしい。

どちらの文もいくつかの意味で解釈することができます。こうした複数の解釈が可能な文をあいまい表現（多義文）といいます。

(a) の「目」という語（名詞）が多義語（一つでいくつもの意味をもっている言葉）であることから、文全体もいくつかの意味で解釈することができます。まず、「目」を「①物を見る能力」の意味で解釈すれば、彼は視力がよいということになります。また、「②見分ける力」であれば、彼は洞察力があるという意味で文全体を解釈できます。

次の文も「頭」が多義語であるために、いくつもの意味に解釈ができます。

(c)2 年 1 組は頭が良い。

(a)や(c)は、語そのものが多義的であるために文全体も多義的になっているので、「語彙的多義文」と呼びます。一方、(b)はどの語も多義的ではありませんが、やはり複数の意味に解釈できます。たとえば、立命館パンサーズと関学ファイターズの試合であれば、「立命館パンサーズが（関学ファイターズに）勝つ」ことを願っているとも、「立命館パンサーズに（関学ファイターズが）勝つ」ことを願っているとも解釈できます。このように文中の言葉のつながり方に原因がある多義文を、「構造的多義文」と呼びます。

あいまい表現がいつも悪いわけではありません。俳句などの文学作品は、多義的に解釈できるあいまい性を利用して、高い表現効果をあげる（芸術的な価値をもつ）こともできます。しかし、日常生活においては、表現のあいまい性が誤解を生んだり、トラブルの元になったりもするので、注意が必要となります

［２］あいまいな表現の種類

石黒圭さんは、あいまいな表現の種類を次のように分類しています。

(a) 複数の意味になる表現
「美しい水車小屋の娘」

(b) 文脈によって多様な解釈を生む表現
「体調どう？／明日暇？／お酒は飲める？／どちらへ行かれますか？」という質問に対する答え「ちょっと」

(c) 言い切らない表現
「多分難しいんじゃないかなあ」

(d) 数量・程度がはっきりしない表現
「年収 100 万円くらいまでなら税金は控除される」

出典：石黒圭（2005）『よくわかる文章表現の技術Ⅲ-文法編-』明治書院、pp. 151-154

(a)は、「美しい」のは、「水車小屋」なのか「娘」なのか、どちらにも解釈できる多義的な表現になっています。(b)の「ちょっと」は、「体調どう？」と訊かれても、「明日暇？」と訊かれても、「お酒は飲める？」と訊かれても、「どちらへ行かれますか？」と訊かれても、この一言ですべて用が足ります。でも、「ちょっとどうなのか」は、どのような文脈で用いるかによってちがってきます。多義的に解釈を生む表現といえます。(c)は、「難しいのか難しくないのか、どっちなんだ」とツッコミを入れたくなるようなあいまい表現です。「…とか」「…たり」といった表現も、「他に何があるんだ」とツッコミたくなる表現です。(d)の「…くらい」は、自分に正確な知識がないときに、わざとぼかして用いることがあります。

こうしたあいまいな表現のうち、文章を書くことに強く関わるのは(a)です。そこで、石黒さんは、(a)を他の種類と区別して、「あいまい表現」と名づけています。このテキストでも文章に関わる場合は、石黒さんに倣って「あいまい表現」と呼ぶことにします。

[3]あいまい表現の形

あいまい表現（複数の意味になる表現）を形（言語形式）から整理すると次のようになる、とも石黒さんは前掲著で述べています。

① 2項関係（「ＡのＢ」「ＡはＢ」）
② 連体修飾
③ 連用修飾
④ 否定
⑤ 疑問
⑥ 相対的空間
⑦ 換喩

出典：石黒圭（2005）『よくわかる文章表現の技術Ⅲ-文法編-』明治書院、pp. 156-165

①の「2項関係によるあいまい表現」は、「ＡのＢ」と「ＡはＢ」という基本的な関係を扱います。「私の本」（ＡのＢ）を例にして説明しましょう。

(a) 最近出版された私の本はよく売れているらしい。

(b) まだ読んでいないのなら、私の本を貸そうか。

(c) 図書館に行くなら、私の本も返してきて。

(a)は私が著者である本という意味で、「著者が私」の本です。(b)は私が持っている本という意味で、「所有者が私」の本です。(c)は私が借りた本という意味で、「借りた人が私」の本です。このように文脈によって意味が異なってきます。「の」というのは多様な意味に解釈されうるので、文脈によって「の」を一義的に解釈できるように限定するか、「私が書いた本」「私が持っている本」「私が借りた本」といったように分析的に表現するか、いずれかの方法を選択すべきです。「私は本」（ＡはＢ）の「は」も同じです。

②「連体修飾によるあいまい表現」は、「美しい日本の古都」といったようなパターンです。「美しい」が「日本」と「古都」を修飾する可能性をもつ（「美しい」のは「日本」とも「古都」とも解釈できる）あいまい性です。この連体修飾には、限定用法と非限定用法の問題もあります。

(d) 生徒たちが嫌がる宿題はもう出さないことにした。

何とはなしに読むと、「宿題は（どんなものでも）生徒が嫌がるから一切出さない」（宿題全面廃止解釈）といった解釈が可能です。しかし、「宿題は生徒が嫌がるものとそうでないものがある。これからは生徒が嫌がるような宿題は出さない」（宿題一部廃止解釈）といった解釈も可能です（前者を非限定用法、後者を限定用法といいます）。英語の場合、限定用法と非限定用法は、連体修飾節の場合、関係代名詞の前にカンマを打つか打たないかによって区別できます。しかし、日本語の場合、表記上の区別の方法がないためにしばしば混同されます。そこで、次のように文脈によって一義的に解釈できるようにする必要があります。

(e)　宿題を生徒たちは非常に嫌がっている。だから、生徒たちが嫌がる宿題はもう出さないことにした。

(f)　生徒たちが嫌がる宿題はもう出さないことにした。これからは、生徒たちが喜ぶ宿題だけを出すことにした。

ただ、(f)は、第1文を読みはじめたとき、「これまで宿題を出していて、その宿題を生徒たちは嫌がっていたのだな」と非限定用法として解釈し、次の文を読んで、宿題には2種類あって、それを区別するために「生徒たちが嫌がる」という情報がついている限定用法だったと気づきます。こうした行きつ戻りつさせる（解釈のし直しをさせる）ことは、読み手に余計な負荷をかけることになります。そこで、「宿題には二つのタイプがある。」といった情報を先に提示しておくことが重要です。

③「連用修飾によるあいまい表現」は、②の連体修飾でも起きることが連用修飾でも起きるということです。

(g)　友人から今日そちらに行くから泊めてほしいというメールが入った。

「今日」「そちらに行く」のか、「今日」「メールが入った」のか、解釈が分かれます。連体修飾の場合にもいえることですが、読点を打つことで多義性を回避することができます。「友人から今日、そちらに行くから泊めてほしいというメールが入った。」とするか、「友人から今日そちらに行くから泊めてほしい、というメールが入った。」とするかです。

④「否定によるあいまい表現」が問題をもつのは、全面否定と部分否定の違いと「～のように」にかかわる否定です。

(h)　まだ全員来ていない。

「誰も来ていない」（全面否定）のか、「来ていない人がいる」（部分否定）のか、解釈が分かれます。全面否定にしたければ、「全員」のかわりに「誰一人」などを使えば誤解を避けられます。部分否定にしたければ、「全員」を「全員は」とするか、「来ていない」を「来てはいない」「来ているわけではない」とすればよいでしょう。部分否定で大切なことは、「わけではない」や係助詞「は」などを使って否定の焦点を明確にすることです。

「～のように…ない」といったパターンも注意が必要です。「ペンギンはダチョウのように空を飛べない」「ペンギンはカモメのように空を飛べない」といった文であれば、「ダチョウは空を飛べない」「カモメは空を飛べる」という知識があるので、誤解を生じることがありません。しかし、読み手の知識が期待できないような文脈、たとえば、「ウイルスは細菌のように生物ではありません」といった場合、細菌についての知識がないと、2通りの解釈が可能となります。そのような場合、「～のように…ない」のあいまい性を解消するために、同じということを表したいときには「～と同じように」「～と同様に」とする必要があります。一方、違うということを表したいときには「～とちがって」「～とことなり」「～のよう

には」とする必要があります。

⑤「疑問によるあいまい表現」は、次のような表現です。

(i)　なんで来たの？

これは、(h)のように理由を訊いているとも、(g)のように手段を訊いているとも解釈できます。

(j)　今日は都合が悪いと言っていたのに、なんで来たの？

(k)　予定よりも早い到着だったけど、なんで来たの？

疑問文も否定文とならんで、あいまい表現を生みやすい文のタイプなので、注意が必要です。

⑥「相対的空間によるあいまい表現」は、言語で切り取られる現実世界が多様であることから生まれるあいまい性です。駅のホームに立っていると、「黄色い線の内側で2列になってお並びください」といったアナウンスが流れることがあります。そんなとき、「黄色い線の内側」ってどこなの？と思ってしまうことがあります。私から見て黄色い線の手前が「内側」なのか、黄色い線の向こう側が「内側」なのか、もしかして黄色い線の上が「内側」なのかといったように、「内側」という言葉で切り取られる現実は多様です。「黄色い線」そのものには内側も外側もありません。「黄色い線」を基準として話し手がどちらの向きを「内側」と想定しているか（視点のとり方）によって違ってきます。「家の奥」といった表現も、「奥」がどこを指しているか、これだけでは一義的には解釈できません。

(l)　子ども部屋は廊下を挟んで家の奥にある。

(m)　外に出ると竹藪が家の奥にある。

(l)は、家屋内で入り口から遠い所を指しています。一方、(m)は、家屋外にある所を指しています。

⑦「換喩によるあいまい表現」の換喩とは、比喩の一種で、隣接性・近接性にもとづく比喩であると一般的に定義されています。「赤い頭巾」をかぶっている少女を「赤頭巾ちゃん」と呼ぶのが、その典型的な例です。換喩は、上位・下位（包含・被包含）の類概念にもとづく提喩とは区別されます。「親子丼」「嵐山に花見に行く」は提喩です。多様な種類の動物・植物を包括する（上位の概念である）「親子」「花」という語で、（下位の概念である）「鶏」「桜」という特定の動物・植物を表しているからです。換喩は「赤頭巾（をかぶっている少女）」の（　　）の中を省略するという発想が根底にあるので、あいまい性が生じる可能性があり、注意が必要です。

文をつくるときには、多義文になっていないか気をつけましょう。いくつもの意味に解釈できる文になっていると、読み手に正しく情報が伝わりません。また、とんでもない誤解をあたえてしまうこともあります。自分の書いた文が多義になっていないか、読み手の立場に立って見直すことが大切です。また、他人が書いた文も、多義の可能性がないかどうか、注意しましょう。

最近、「ご飯論法」と呼ばれる「論点のすり替え」「はぐらかし」を意図した答弁が、言葉のあいまい性を逆手にとって国会の場で横行しています。「ご飯論法」と名づけたのは上西充子さんで、2018年5月6日のツイッターに書かれている具体例を見ておきましょう。

Q「朝ごはんは食べなかったんですか？」

A「ご飯は食べませんでした（パンは食べましたが、それは黙っておきます）」

Q「何も食べなかったんですね？」

A「何も、と聞かれましても、どこまでを食事の範囲に入れるかは、必ずしも明確ではありませんので・・」



Q「では、何か食べたんですか？」

A「お尋ねの趣旨が必ずしもわかりませんが、一般論で申し上げますと、朝食を摂る、というのは健康のために大切であります」

Q「いや、一般論を伺っているんじゃないんです。あなたが昨日、朝ごはんを食べたかどうかが、問題なんですよ」

A「ですから・・」

Q「じゃあ、聞き方を変えましょう。ご飯、白米ですね、それは食べましたか」

A「そのように一つ一つのお尋ねにこたえていくことになりますと、私の食生活をすべて開示しなければならないことになりますので、それはさすがに、そこまでお答えすることは、大臣としての業務に支障をきたしますので」

もちろん、これは実際の国会でのやりとりではありません。戯画化したものではありますが、同じような虚偽答弁やごまかし、論点ずらしや言い逃れ等がなされているのです。関心をもった人は「国会パブリックビューイング」(https://twitter.com/kokkaiPV) を参照してください。

言葉のあいまい性に敏感であることは、民主的な議論を大切にすることにもつながるのです。

✎まとめ (Summary)

1. 日本語のあいまいな表現は、(a)複数の意味になる表現、(b)文脈によって多様な解釈を生む表現、(c)言い切らない表現、(d)数量・程度がはっきりしない表現であるが、文章を書くときに気をつけるべきは、(a)複数の意味になる表現である。
2. 複数の意味になる表現を形から整理すると、①2 項関係（「ＡのＢ」「ＡはＢ」）②連体修飾、③連用修飾、④否定、⑤疑問、⑥相対的空間、⑦換喩がある。こうした表現が出てきたときには、複数の意味が生じていないかどうかチェックする必要がある。
3. 文学作品などでは、複数の意味が生じることを利用して、高い表現効果（芸術的な価値）をあげることもできる。
4. 「論点ずらし」や「言い逃れ」のためのあいまいな表現を許してはいけない。

✎さらに学びたい人へ (Further reading)

岩淵悦太郎編著 (2016)『悪文』角川ソフィア文庫

石黒　圭 (2005)『よくわかる文章表現の技術Ⅲ-文法編-』明治書院

§４:文の構造（組み立て）をつかむ

［１］日本語は述語中心の言語

まず、以下の 6 つの文を見てください。

① 私は先週友だちと四条で映画を見ました。
② 私は友だちと四条で映画を見ました。
③ 私は四条で映画を見ました。
④ 私は映画を見ました。
⑤ 映画を見ました。
⑥ 見ました。

どれも日本語の文として不自然ではありません。日本語の文としてちゃんと成立しています。つまり、日本語は述語さえあれば文が成立する「述語中心」の言語なのです。その証拠に、述語の位置は文末と決まっていますが、その他の要素はどのようにでも入れ替え可能です。たとえば①の文は次のようにも書き換えられます。

①-1 私は先週友だちと四条で映画を見ました。
①-2 先週四条で私は友だちと映画を見ました。
①-3 友だちと映画を先週私は四条で見ました。
……

このようにして、120 通りの文ができます。このことから、「私は」「先週」「友だちと」「四条で」「映画を」という 5 つの要素が、すべて対等な資格をもって「見ました」という述語にかかっていることがわかります。

そして、その述語に着目すると、日本語の文は次の 3 つ文型に分類できます。

日本語の文型

Ⅰ属性を叙述する文

「何が何だ」「何がどんなだ」の文型

①名詞文（名詞で終わる文）

薔薇は花です。

②形容詞文（形容詞で終わる文）

薔薇は美しい。

Ⅱ事象（出来事）を叙述する文

「何がどうする」の文型

③動詞文（動詞で終わる文）

薔薇が咲く。

※文の中で動作（～する）や、状態・性質（どのようだ、何だ）を表す語を述語と呼ぶ。

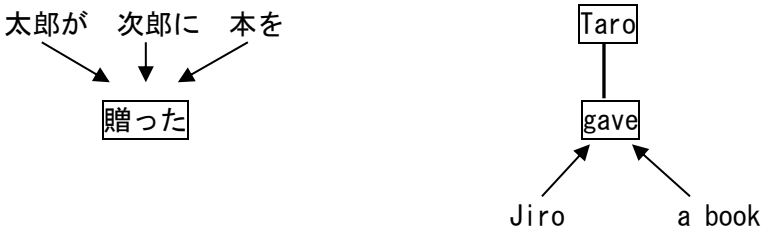
まずは、「日本語の文は述語中心であり、文末の述語にむかってすべての要素がかかっていく」という（あるいは、「修飾（係る）－被修飾（受ける）」という）日本語の基本的な文構造をしっかり頭に入れておいてください。これが「わかりやすい文」を書くための出発点です。



言語学者の金谷武洋さんは、上記のような日本語の文構造を「盆栽型」、英語の文構造を「ツリー型」と呼んでいます。

日本語：太郎が次郎に本を贈った。

英語：Taro gave Jiro a book.



盆栽型　　**ツリー型**

出典：金谷武洋（2003）『日本語文法の謎を解く』（ちくま新書）筑摩書房、pp. 62-65

［2］単文・重文・複文

日本語の「単文」「重文」「複文」についての理解は、「わかりやすい文」を書くための必須の要件です。

単文＝文中に述語が 1 つだけある文のこと。

カメが駆ける。

重文＝1 つの文に並列的に 2 つ以上の節が結ばれている文のこと。（単文を 2 つ以上並列させ、結びつけた文のこと。）

カメが駆け、ウサギは眠る。

（単文「カメが駆ける」＋単文「ウサギは眠る」）

複文＝1 つの文に節が複数存在し、節同士に主 - 従といった階層性がある、入れ子構造になっている文のこと。（文中に修飾語・修飾部があり、その中に述語の含まれる文のこと。）

ウサギを追い抜いたカメが駆ける。

ウサギを追い抜いて、カメが駆ける。

注：「修飾語・修飾部」とは、ある言葉に意味内容を限定する（修飾する）ために付け加える言葉です。

「節」とは、大きな文（主文・主節）に部品として組み込まれた文（埋め込み文）のことです。

ウサギを追い抜いたカメが駆ける。…①

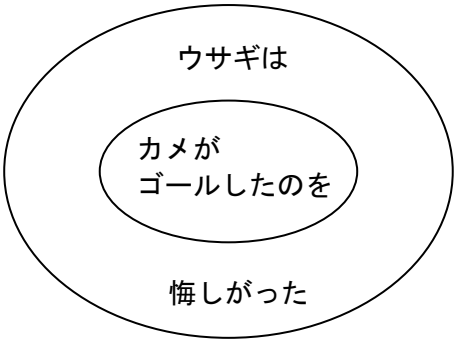
ウサギを追い抜いて、カメが駆ける。 …②

①の「ウサギを追い抜いた」や②の「ウサギを追い抜いて」は、「カメ」や「駆ける」にかかる修飾部で、その中に「追い抜いた」「追い抜いて」という述語（埋め込み文）が組み込まれています。こういった文を「複文」と呼びます。

複文は「入れ子構造」になっていると捉えることもできます。たとえば、

ウサギはカメがゴールしたのを悔しがった。

という文であれば、次のような図でその入れ子構造を表すことができます。



複文はこうした入れ子構造になるため、「係り－受け」が複雑なわかりにくい文になることがあります。また、「係り－受け」がねじれている文（ねじれ文）になることがあります。

わかりやすい（読みやすい）文にするためには、まずは主語と述語の関係をはっきりと把握しながら書くことが必要です。主語を省略したときも、読み手がその主語を正確に把握できるかどうか、読み手の立場に立って吟味してください。また、できるかぎり複文になることを避け、単文をつなげる書き方をしましょう。「係り－受け」の関係が把握しやすいように、係る語句と受ける語句をできるだけ近づけるといった工夫も大切です。

✎まとめ（Summary）

1. 日本語の文型は、属性を叙述する名詞文・形容詞文と事象を叙述する動詞文の三つに分類できる。

2. 文には、単文と重文と複文がある。

3. 複文は主文と埋め込み文の入れ子構造になっているため、係り-受けの混乱やねじれが生じやすい。

4. 日本語の文は、係り-受けの関係を正しく把握し、修飾する語と修飾される語を接近させたほうがよい。

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

金谷武洋（2003）『日本語文法の謎を解く』（ちくま新書）筑摩書房

本多勝一（2004）『中学生からの作文技術』（朝日選書）朝日新聞社

本多勝一（1982）『日本語の作文技術』（朝日文庫）朝日新聞社

§５:一文一義の原則で文をつくる

［１］複数のアイデアが詰め込まれた文

次の文の意味を一読して理解できますか。

(a)　学校で学ぶことが役立たないと主張する人は、学ぶことの「内容」のみを言っていることがほとんどで、「内容」が役に立たない場面は当然あるだろうが、学校で学ぶのは「内容」だけではなく、知的な作業に従事する「姿勢」を身につけることができ、社会に出てからさまざまな場面でその人と周囲の人を必ず助けるだろう。

(a)は一つの文であるのに、次のような五つのアイデア（考え）が詰め込まれています。（こうした文を「一文多義」と呼んでいます。）

①　学校で学ぶことが役立たないと主張する人は、学ぶことの「内容」のみを言っていることがほとんどである。
②　「内容」が役に立たない場面は当然あるだろう。
③　学校で学ぶのは「内容」だけではない。
④　知的な作業に従事する「姿勢」を身につけることができる。
⑤　その「姿勢」は社会に出てからさまざまな場面でその人と周囲の人を必ず助けるだろう。

このように一つの文にいくつものアイデアが詰め込まれると、わかりにくい文になってしまいます。そこで、わかりやすい文をつくるためには「一文一義（1 センテンス/1 アイデア）」の原則を適用します。

［２］一文一義（1 センテンス/1 アイデア）」の原則

文はひとまとまりの思考（考え）を表現するためのものですから、ひとまとまりの思考は一つの文で表現するのが原則です。これを「一文一義＝1 センテンス/1 アイデア」の原則と呼びます。

この原則で書くと、当然、一つの文は短くなります。そして、ひとまとまりの思考が短い文で表現されるのですから、文と文の論理的な関係が把握しやすくなります。また、それは思考と思考の関係を把握することにもつながります。そして、その論理的な関係を接続表現や指示語で明示化することで、文と文にどのような論理関係をつくろうとするのか、しっかりと自覚して文章を書くことができます。(a)の文であれば、次のように「一文一義」で書き直すことができます。

①学校で学ぶことが役立たないと主張する人は、学ぶことの「内容」のみを言っていることがほとんどである。②**たしかに**、「内容」が役に立たない場面は当然あるだろう。③**しかし**、学校で学ぶのは「内容」だけではない。④知的な作業に従事する「姿勢」を身につけることができる。⑤**その**「姿勢」は社会に出てからさまざまな場面でその人と周囲の人を必ず助けるだろう。

［３］「一義一文＝一文は短く」ではない

文章作法の定番に、次のような「一文は短く」というセオリイがあります。

簡潔な文章を書く第一のコツは、「一文は、できるだけ短くする」ことです。（外岡秀俊『「伝わる文章」が書ける作文の技術』）

短く、短く、短く。／とにかくそれを絶えず念頭に置いてほしい。そして、短い一文に、全力を傾けていくことである。／ひとつの文に、あいまいさを残さぬことである。／文章を短くすることによって、意味のつながりを明瞭にすることができる。（馬場博治『読ませる文章の書き方』）

平明な文章を志す場合は、より長い文章よりも、より短い文を心がけたほうがいい。／私は、新聞の短評を書いていたころ、文の長さの目安を平均で三十字から三十五字というところに置いていました。（辰濃和男『文章の書き方』）

一センテンスの長さは、４０～５０字以内になるようにつとめるべきである。とくに、文章の書きだしのセンテンスは、力が入りすぎて、長いセンテンスになることが多いので、注意して短くする。（安本美典『説得の文章術』）

ただし、すべてのセオリイについていえることですが、それはあくまで原則で、長い文がすべて「わかりにくい悪文」というわけではありません。評論家の斎藤美奈子さんは「新語は禁じ手、紋切り型も御法度、ひたすら短くわかりやすく書く。じつに正しい。そして正しいだけである。正しさを貫いた結果は、朝の新聞受けの中にある。彼らのいいつけを守っていたら、文章はなべて新聞レベルの正しく退屈なものになる」（『文章読本さん江』筑摩書房）と、「短い文＝良い文」説を一刀両断です。斎藤さんの主張は極端としても、たしかに「とにかく短い文にすればよい」というわけではありません。長い文には長い文のもつ効用が、短い文には短い文のもつ効用があるはずです。

たとえば、

(a)　私は寝坊した。面接に遅刻した。

(b)　私は寝坊したので、面接に遅刻した。

という二つの文では、「一文は短く」のセオリイからすれば、(a)が良い文ということになります。しかし、(a)では「寝坊した」という述語も「遅刻した」という述語も、おなじ比重になってしまいます。以前のセクションでも述べたように、日本語は「述語中心」の文（述語に重心がある文）であり、また文末決定性の強い言語です。

ここでは「寝坊した」ことよりも、それが原因で「遅刻した」ことのほうに重心があるはずです。したがって「遅刻した」にフォーカスをあて、そのことを強調するためには、(b)のほうがよいでしょう。つまり、複数の述語を一文に入れたほうが述語の比重を操作することができるのです。また、

(c)　今日の１限目は語学の授業に出席した。3 限目は基礎演習の授業に出席した。

(d)　今日の１限目は語学の授業に、3 限目は基礎演習の授業に出席した。

というように、「短い文」を 1 つにまとめて「長い文」にしたほうが、述語の重複を避けることもできて、表現の冗長さもかえって軽減されます。



複数の文を一つにまとめることのメリットは四つあります。第一のメリットは、重要な述語を文全体の述語にし、その述語を目立たせる（読み手がポイントを絞りやすくなる）効果があることです。第二のメリットは、同一の述語を繰り返す冗長さをなくし、すっきりとした文にする経済性です。第三のメリットは、一連の出来事を一続きのものとして表現できることです。文章の流れを切らずに、一連の出来事に継続性を持たせることができます。第四のメリットは、同一の階層にある述語を一つの文のなかにとりこむことで、前後の文脈の階層性が明確になるというメリットです。(e)のように長い文であっても、文を頭から読んだときに予想しやすい文は、それほど読みにくくなりません。また、(f)のように長くても読みやすい文は、バランスがよく、読点の打ち方が適切です。

(e)　おいしいコーヒーの入れ方、3 回講座です。今週はコーヒー豆の鮮度の重要性についてお話しし、来週は器具に合わせたコーヒー豆の挽き方を紹介し、再来週は適切なお湯の温度とその注ぎ方を考えます。（下線部のように順を追って似たような内容を並列させていると読みやすい。）

(f)　行きたい気持ちがまったくなければ、断ってくれてもかまいませんが、もし少しでも行きたい気持ちがあるなら、ぜひ一緒に行きませんか。（下線部のような条件を表すタラレバは一文に入れたほうが読みやすい。）

もちろん、「短い文」にも効用があります。それは何よりも、文の構造がシンプルになることで読みやすくなることです。長くなればなるほど（述語の数が増えれば増えるほど）文はねじれや混線を起こしやすくもなります。また、思いつくままに書いていると、文はどんどん長くなっていきます。（とくに「…が、」でつないでいくとエンドレスです。）したがって、「ここは長すぎないか。短い文にしたほうがよくないか」ということは意識して書くほうがよいでしょう。短い文の繰り返しはポイントが絞れず単調になる反面、リズムがよくなるというメリットもあります。

①　山路を登りながら、こう考えた。

　智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。

これは、夏目漱石の小説「草枕」の冒頭です。これを一文で書くと、次のようになります。

②　智に働けば角が立つし、情に棹させば流されるし、意地を通せば窮屈だし、とかくに人の世は住みにくいと、山路を登りながら考えた。

やはり原文のように短い文をたたみかけるほうが、リズミカルで印象に強く残ります。

ともかくも、「短い文（述語が 1 つの文）」「長い文（述語が複数の文）」それぞれの効用を活かすことが大切です。また、「一文は短く」のルールと「一文一義」のルールは別のものです。「一文一義」のルールで書いた結果、必然的に「一文は短く」なるということです。

参考文献：石黒圭（2009）『よくわかる文章表現の技術Ⅰ　表現・表記編［新版］』明治書院、pp. 217-235

✎まとめ（Summary）

1. 文はひとまとまりの思考（考え）を表現するためのものである。

2. 一つの文には一つのトピックや一つのアイデアだけを書き、論理関係に自覚的になることが大切

である。（一文一義の原則）。
3. 複数の文を一つの文にまとめることにはメリット（焦点化・経済性・継続性・階層性）もある。

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

野口悠紀雄（2002）『「超」文章法』（中公新書）中央公論新社
石黒　圭（2009）『よくわかる文章表現の技術Ⅰ-表現・表記編-［新版］』明治書院

§６:段落をつくる

［１］段落とは何か

「段落」については、小学校のときから習ってきたはずです。教科書にも、段落について次のように書かれています。

> 文章の中の、内容のひとまとまり。いくつかの文があつまってできています。段落の始めは一字下げて書き出し、その段落がおわると行をかえます。（教育出版小３上）

> 文章中で改行され、一字下げて書き始められているまとまりを段落という。（光村図書中１）

形式的には「改行一字下げ」、内容的には「ひとまとまり」であることが、段落の要件であるというのがほぼ共通した定義になっています。では、なぜ、文章には段落が必要なのでしょうか。石黒圭さんは次のように述べています。

> 文章を書くことは、書き手の頭のなかにある情報を、文章をつうじて読み手の頭のなかに移動させる、いわば情報の引っ越しです。文章の場合、情報という小物は文に入っています。引っ越しのときと同じように、文一つひとつをばらばらに伝えてしまうと、情報の整理もつきませんし、そもそも情報伝達の効率が下がってしまいます。引っ越しの小物を段ボール箱に入れて積み込むように、文もまた段落という箱に入れて読み手の頭に積み込む必要があります。
>
> 段落の仕組みがわかったら、つぎに考えたいことが、読み手に優しい段落の作り方です。引っ越しの段ボール箱は小さすぎても大きすぎてもいけません。小さすぎる段ボール箱は効率が悪く、荷台に運びこむのが大変です。一方、大きすぎる段ボール箱はかさばるため、一人で持ち運ぶのに苦労します。同じように、段落もまたちょうどよい大きさであることが求められます。適切なサイズの段落を選ぶことが、段落作りの大切なコツです。

出典：石黒圭（2020）『段落論』光文社新書、p. 4

また、段落の形態・意味・機能に着目して、次のように定義しています。

> 段落とは、形態的には、改行一字下げで表される複数の文の集まりであり、意味的には、一つの話題について書かれた内容のまとまりである。こうした段落という単位があることで、読み手は文章構成を的確に理解できる。

出典：石黒圭（2020）『段落論』光文社新書、p. 17

では、そうした段落は、どのように作ればよいのでしょうか。以下、石黒さんが前掲著で述べていることをお借りして解説していきます。



［２］段落の作り方

まず、大きな流れとして、段落は次のような手順で作成することになります。

段落を作成する手順

①Aについて書くことに決める（「話題」の決定）

②Aの下位的な話題として「ａ」「ｂ」「ｃ」「ｄ」…を列挙する（「小話題」の列挙）

③「ａ」の段落を作る小主題文を書く（「小主題文」の作成）

④小主題文に続く内容を考えて段落を完成させる（「支持文」「小結論文」の作成）

「ミネラルウォーター」を話題として書くと決めたとき、その下位的な話題（小話題）として「ペリエ」「エビアン」「ボルヴィック」「おいしい水」「い･ろ･は･す」「アルプスの天然水」等を列挙します。そして、それぞれの小話題でそれぞれの段落を作るために、小話題文を作成します。小話題文が書けたら、それに続く支持文と小結論文を作って段落を完成させます。例えば、「ペリエ」を小話題とした場合、次のような段落が作成できます。

フランスが生んだペリエは、世界的に有名な、炭酸が特徴のミネラルウォーターです。ペリエは南フランスの小さな町ヴェルジェーズで採取され、ナポレオン三世が「フランスの誇り」と賞賛したことでも知られる歴史ある天然水です。現在では、ヨーロッパのレストランを中心に、世界中で愛されています。ピレネー山脈の造山活動によって生まれた天然ガスの地層と地下水が出逢い、「奇跡の水」と呼ばれる発泡水が生まれました。その炭酸はきめが細かく、長くはじける特徴があります。フランス原産のペリエは、質の良い炭酸を含む点で他のミネラルウォーターと異なる特徴を持ち、世界で愛飲されるようになったと考えられます。

［３］段落の内部構造～段落は三部構造が基本～

段落は、上の例のように「小主題文」「支持文」「小結論文」という三つの要素で構成された三部構造が基本型となります。

小主題文（トピック・センテンス）

フランスが生んだペリエは、世界的に有名な、炭酸が特徴のミネラルウォーターです。

支持文（サポーティング・センテンス）

ペリエは南フランスの小さな町ヴェルジェーズで採取され、ナポレオン三世が「フランスの誇り」と賞賛したことでも知られる歴史ある天然水です。現在では、ヨーロッパのレストランを中心に、世界中で愛されています。ピレネー山脈の造山活動によって生まれた天然ガスの地層と地下水が出逢い、「奇跡の水」と呼ばれる発泡水が生まれました。その炭酸はきめが細かく、長くはじける特徴があります。

小結論文（コンクルーディング・センテンス）

フランス原産のペリエは、質の良い炭酸を含む点で他のミネラルウォーターと異なる特徴を持ち、世界で愛飲されるようになったと考えられます。

この小主題文・支持文・小結論文については、次のように定義されています。

小主題文（トピック・センテンス topic sentence）：その段落の話題（topic）とメッセージ（main idea）を含む文で、書き手がその段落で言いたいことを端的にまとめている。段落内の他の文をまとめる働き（統括機能）をもつ。

支持文（サポ―ティング・センテンス supporting sentences）：段落の具体的な内容を詳しく語る部分。

小結論文（コンクルーディング・センテンス concluding sentence）：段落全体の内容をまとめる文で、小主題文と重なる部分もあるが、段落全体の内容をより深く踏まえ、次に続く内容を意識して書かれる。小主題文とおなじように段落内の他の文をまとめる働き（統括機能）をもつ。

出典：石黒圭（2020）『段落論』光文社新書、pp.26-32

［４］段落とパラグラフ

英語にはパラグラフ・ライティングという作文技法があり、日本語の段落は英語のパラグラフに相当すると考えられます。ただし、相当であって、同一ではありません。根本的な違いがあります。

英語のパラグラフは、下記のようなルールや型が先にあって、そのルールや型に則って作られるものなのです（ルール先行の作文技法）。また、アメリカでは、そうしたパラグラフの作り方からエッセイの組み立て方へという段階的な学習法が、初等教育から高等教育まで一貫して教えられています。

「パラグラフ」の２大ルール

1.統一性（Unity）のルール

ある１つのパラグラフにおいて単一のメイン・アイデアについてのみ言及することをさす。メイン・アイデアはトピック・センテンスで述べられており、各サポーティング・センテンスはそのアイデアを展開するために用いられる。仮に、トピック・センテンスで「[トピック]について２つのことを述べる」と書いたら、その「2つ」以外言及してはならない。それ以外は関連があることでも一切言及してはならない。

2.関連性(Coherence)のルール

パラグラフの内容が次の２点により理解しやすくなっていることをさす。

①サポーティング・センテンスがなんらかの論理的配列になっている。

②適切なつなぎ、接続によりアイデアが有機的に結合している。

パラグラフの型

①トピック・センテンス（Topic Sentence：ＴＳ）

パラグラフの中心となる話題や考えを１文で表現したものであり、論証では主張、結論にあたる部分である。原則としてパラグラフの冒頭に置く。

②サポーティング・センテンス（Supporting Sentence：ＳＳ）

ＴＳの内容を支援、支持、補強する文で、二つのタームから構成される。

Ａ．サポーティング・ポイント（Supporting Point ：ＳＰ）１

ＴＳを支援、支持、補強する内容をまとめ的に一般化した表現の文のこと。また、この後のサポーティング・ディテールの見出しともなり、原則としてＴＳの後に置く。

ａ．サポーティング・ディテール（Supporting Detail：ＳＤ）１

ＳＰで述べた事柄の具体的な例を示す文のこと。

ａ．サポーティング・ディテール（Supporting Detail：ＳＤ）２

Ｂ．サポーティング・ポイント（Supporting Point ：ＳＰ）２

ｂ．サポーティング・ディテール（Supporting Detail：ＳＤ）１

ｂ．サポーティング・ディテール（Supporting Detail：ＳＤ）２

③コンクルーディング・センテンス（Concluding Sentence：ＣＳ）

パラグラフの最後にＴＳで述べたことを再確認したり、ＳＳの内容を含めてＴＳで述べた考えをまとめ直したりする文のこと。パラグラフの末尾に置く。

次に示す例は、このようなルールと型によって作られたパラグラフです。

①金は貴重であり 2 つの点で重要である。②第一に金は美しくかつ化学的変化に強い。③そのため宝石、金貨、装飾にむいている。④金は磨く必要がなく、永遠にその美をとどめる。⑤例えば、マセドニアの金貨は 2,300 年前に作られて以来現在でもその色があせていない。⑥金の重要な第二の点は工業的、科学的に有用であることである。⑦長年にわたり、おおくの工業的応用に使用されてきた。⑧最近の応用としては宇宙飛行士の服がある。⑨宇宙飛行士は船外で作業する際、熱から身を守るための金加工された服を着る。⑩結論として、金はその美しさだけでなくその有用性においても重宝なものである。

この文章は典型的なパラグラフ構造になっています。パラグラフとは、一つの主張・結論を導くために用いられる、論理的に相互に関連のある複数の文の集まりです。私たちが何かを書く場合、いろいろと理由らしきものを書き連ねて、最後に「したがって、これこれしかじかなのです」という具合に、結論や主張をもってきます。確かにこの順番は何かを思考している場合には生じる順番でしょう。しかし、パラグラフでその思考を表現するには、その思考の順番どおりに書くことはしません。最初に登場するトピック・センテンス （TS）で、まとめや主張、結論等を最初に書いてしまいます。そして、その主張、結論を支える内容（具体例、根拠、データなど）をサポーティング・センテンス（SS）を使って書いていきます。そのため、トピック・センテンス （TS）はパラグラフの先頭に書き、読み手が当のパラグラフで何が述べられるか最初から期待・予測がもてるように書きます。また、サポーティング・センテンス（SS）は論理的な配列（各文の関係が接続語句で結合している）が必要です。

(TS)①金は貴重であり 2 つの点で重要である。

(SP1)②第一に金は美しくかつ化学的変化に強い。

(SD1)③そのため宝石、金貨、装飾にむいている。

(SD2)④金は磨く必要がなく、永遠にその美をとどめる。

(SD3)⑤例えば、マセドニアの金貨は 2300 年前に作られて以来現在でもその色があせていない。

(SP2)⑥金の重要な第二の点は工業的、科学的に有用であることである。

(SD1)⑦長年に亘り、おおくの工業的応用に使用されてきた。

(SD2)⑧最近の応用としては宇宙飛行士の服がある。

(SD3)⑨宇宙飛行士は船外で作業する際、熱から身を守るための金加工された服を着る。

(CS)⑩結論として、金はその美しさだけでなくその有用性においても重宝なものである。

「金」という 1 つのトピックについて「重要である」という 1 つのアイデアを TS で提示し、SS はその TS（メイン・アイデア）を支援するために展開されています。裏を返せば、SS では TS で予告された「2 つの点」以外について一切言及されていません（統一性のルール）。また、SS では 2 つのサポーティング・アイデア（「金は美しい」「金は有用である」）が 2 つの SP で示されています。そして、各 SD では各サポ

ーティング・アイデアについて具体的に述べられており、例が提示されています。これは１つの論理的オーダーです。さらに、アイデア間の関係が“第一に”、“第二の”、“例えば”、“結論として”などの適切な接続表現（メタ言語）によって示されています（関連性のルール）。

一方、日本語の段落には、こうしたパラグラフのような厳格なルールや型はありません。しかし、先行するルールや型はなくても、パラグラフのような作り方を段落づくりに活用することで、伝えたい内容が読み手に確実に伝わる文章を作成することができます。それが、［３］で紹介したような三部構造の段落づくりなのです。ただ、下記のような柔軟な捉え方も必要です。

> 英語の「パラグラフ」とは異なり、日本語の「段落」の場合、段落の中心的な内容を示す小主題文ではなく、段落の単なる話題を示す小話題文で始まることも少なくありません。**小主題文**では「～は…だ」「～は…した」のように「～」の話題部と「…」の叙述部がセットで示されますが、**小話題文**では「～です」のように話題部のみが示され、叙述部は直後の支持文で説明されます。
>
> 小主題文…札幌市内の閑静な住宅街でヒグマが相次いで目撃されています。
> 小話題文…札幌市内の閑静な住宅街での出来事です。
>
> しかし、小主題文であっても小話題文であっても新しい話題を導入することには変わりはなく、新しい話題を導入するにふさわしい姿を備えているのが一般的です。

出典：石黒圭（2020）『段落論』光文社新書、p. 44

同じ型（構造）の段落が機械的に続くと、文章が単調になりかねないということもあり、型とルールが先行するパラグラフ・ライティングは受け入れにくいという人もいます。しかし、そのメリットは、やはり柔軟に活用していくべきだと考えます。

［５］小主題文を深める５つの方法

段落は、先頭の小主題文によって示された枠のなかを、支持文が埋めることによってできる箱です。そして、その埋め方（深め方）には、次のような５つの方法があると石黒さんは説いています。

①説明（詳しい説明や解説をおこなっていく）

文庫本とは、多くの人に読まれることを目的とした小さいサイズの本である。単行本とは異なり、似たジャンルのものを決まった形式で編集した叢書（シリーズ出版）の一種である。すでに刊行され、一定の支持を得た単行本を文庫本として再録するケースが多い。叢書という点で新書と似ているが、新書よりもサイズが小さく、実用書が多い新書とは異なり、小説が採録されることが多い。ただし、編集方針によっては、漫画や実用書が採録されることもある。

②例示（具体的な例を挙げていく）

文庫本の特長は読者にとって便利なことである。たとえば、サイズが小さく、電車のなかでもすぐに取りだして読むことができる。カバンに入れて、持ち運びやすいし、しまうときに場所を取らないというのも文庫本のありがたいところである。単行本にくらべて値段が安く、気軽に買えるのも文庫本の特長と言えるだろう。寿命が比較的長いため、単行本が絶版になったあとも比較的に手に入りやすいのも文庫本の

長所である。

③理由（理由や根拠を示していく）

新潮文庫は、側面や下面はきれいに裁断されているのに、上面だけギザギザになっている。なぜ上面だけギザギザなのだろうか。それは、上面にこげ茶色のヒモがついているからである。このヒモはスピンと呼ばれ、シオリの役目を果たしている。文庫本のような並製本の場合、表紙やスピンは製本の過程で先に付け、最後にまとめて裁断を行うが、上面を裁断すると、新潮文庫のこだわりのスピンが切断されてしまう。そのため、新潮文庫の上面は、きれいに裁断することができず、ギザギザが残っているのである。

④経緯（一連の出来事を時間的な順序によって示していく）

まずは、文庫本が成立した歴史を紹介したい。シリーズ出版としては、明治・大正期の袖珍名著文庫（しゅうちんめいちょぶんこ）立川文庫（たつかわぶんこ）などが先駆けとして知られるが、現在のような文庫本のスタイルが定着したのは、昭和に入った岩波文庫（一九二七年創刊）からである。小型で安く買えるＡ六判のシリーズ本は当時ブームとなり、改造文庫、春陽堂文庫、新潮文庫などが相次いで創刊され、戦前の文庫本の基礎が築かれた。戦後は、新潮文庫が復刊されるとともに、角川文庫、現代教養文庫が創刊されたほか、七〇年代の講談社文庫や中公文庫など、八〇年代の光文社文庫やちくま文庫など、文庫本のすそ野は広がった。さらには、ＳＦや推理小説のハヤカワ文庫、ビジネスや生活・文化の知的・生きかた文庫のように、分野も細分化され、現在では文庫本は多様化の時代を迎えている。

⑤場面（小主題文が状況設定文で始まり、一連の出来事が時間的な順序で並べられていく）

ある晴れた日、私は近所の大型書店に足を運んだ。そこは、文庫本の棚が充実していて、岩波文庫、新潮文庫、講談社文庫、集英社文庫といった大手出版社の文庫レーベルの文庫本が所狭しと並んでいた。私は、目に留まった文庫本を棚から取りだしては、手に取って目次を眺め、それを棚に戻すという無機質な作業を繰り返していた。そんなときに目に飛びこんできたのが、三浦しをん『舟を編む』光文社文庫であった。『舟を編む』というタイトルは耳にしたことがあったが、どんな話かという中身は知らなかった。何気なく手に取って、冒頭を読みはじめると、話の世界にぐんぐん引き込まれた。これが国語辞典との本格的な出逢いであり、この出逢いがその後の自分の人生を変えることになるとは、そのときは気づきもしなかった。

出典：石黒圭（2020）『段落論』光文社新書、pp. 174-179

［６］論証型の段落（パラグラフ）

段落やパラグラフは、説明型と論証型に大別することもできます。上記の 5 つの方法は広義の説明型といえます。論証については後のセクションで詳しく扱いますが、ここでは「論証とは、自分の主張を十分な根拠でサポートすること」といったくらいに理解しておいてください。サンプル１では、

論証型の段落（パラグラフ）のサンプル１

これは 2013 年にサザンオールスターズが復活したとき、新聞に掲載された内田樹の応援メッセージ「サザンオールスターズ復活に寄せて」です。（なお、本文の一部を加工修正しています。）

> ①サザンオールスターズの音楽はおそらく「最後の国民歌謡」として日本音楽史に名前をとどめることになると思います。②「国民歌謡」の条件は三つあります。③第一の条件は特定の年齢や性別や階層を排他的に標的にせず、「老若男女」すべてに全方位的に歌いかけていること。④第二の条件は

「異文化とのハイブリッド」であること。土着的なものと舶来のものの混淆こそ日本文化の正統のかたちです。桑田佳祐の歌唱法はエリック・クラプトン的かつ前川清的ですが、これこそ国民歌謡の王道。⑤第三の「国民歌謡」の条件は、これがいちばんたいせつなのですけれど、「国土を祝福する歌謡」であること。「江ノ島が見えてきた」以来サザンはさまざまな地名を歌い込み、それらの土地を豊かに祝福してきました。⑥これは古代の「国見」儀礼や山河の美しさを言祝ぐ「賦」の系譜に連なるものだと私は思っております。⑦国民国家が解体しつつある時代に敢えて再登場した「最後の国民歌謡」バンドに連帯の拍手を送ります。

出典：『朝日新聞』2013 年 8 月 7 日、16 面

論証型の段落（パラグラフ）のサンプル２

①日本では「子供は結婚している夫婦から生まれなければならない」という規範が働いている。②この主張を支持する根拠として、人工避妊率、婚外子出生率、および婚外子出生率の日欧比較の三点が挙げられる。③第一に、出生に対する人工避妊率は過去 50 年間にわたる統計で確認しても 20%代であり、2002 年においても 28.5%という低水準に留まっている（国立社会保障、2004 年)。④第二に、婚外子の出生においても、1925 年に全出生に対して婚外子出生率は 7.26%、1965 年以降 1987 年までは 1%を下回る水準で推移している。⑤2002 年の時点でも 1.87%と 1953 年当時の水準にとどまっている（国立社会保障、2004 年)。⑥第三に、先進諸外国と日本の婚外子出生率を比較してもきわめて低い水準である。⑦たとえば、スウェーデンにおける婚外子出生率は 2001 年で 55.5%、デンマークは 1999 年で 44.9%、フランスは 1989 年で 40.9%である（婚差会、2004 年)。⑧これらの根拠から、日本では「子供は結婚している夫婦から生まれなければならない」という規範が働いているといえる。

出典：嶋﨑尚子「『できちゃった婚』から見える日本の結婚規範」をもとに加工修正

※　以下、本テキストでは、トピック・センテンスと小主題文、サポーティング・センテンスと支持文、コンクルーディング・センテンスと小結論文、それぞれ同値のものとみなしてください。使い分けにそれほど特別な意味はないと思ってください。英語式／米国流のパラグラフ・ライティングを意識したときには「トピック・センテンス（TS)」等を、日本語式の段落を意識したときには「小主題文」等を用いているくらいに思ってください。

✎まとめ（Summary）

1. **段落は引っ越しのときの段ボール箱である。**
2. **段落は基本的に小主題文・支持文・小結論文の三部で構造化する。**
3. **小主題文は説明・例示・理由・経緯・場面の 5 つの方法で深めていく。**

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

石黒　圭（2020）『段落論』光文社新書
篠田義明（1986）『コミュニケーション技術－実用的文章の書き方』中公新書
倉島保美（2012）『論理が伝わる 世界標準の「書く技術」』ブルーバックス

§７:接続表現を使う

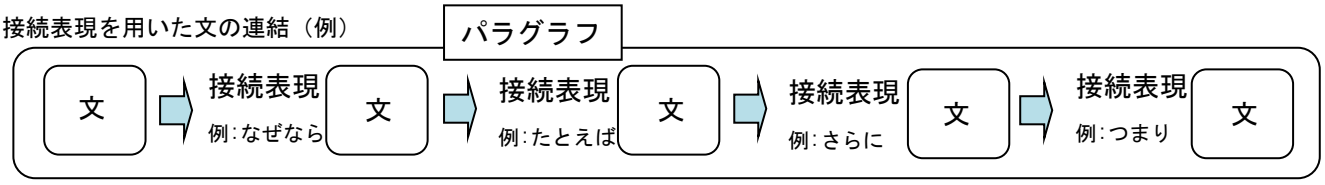
［１］接続表現は新たな関係を紡ぎだす

文がつながって段落・パラグラフに、段落・パラグラフがつながって節[注1]や章になります。そして、文や段落・パラグラフをつなぐ役割を果たしているのが接続表現[注2]です。文や段落・パラグラフを論理的に連結させるために、前後の論理関係を明確にするために、接続表現を適切に用いられるようにしましょう。

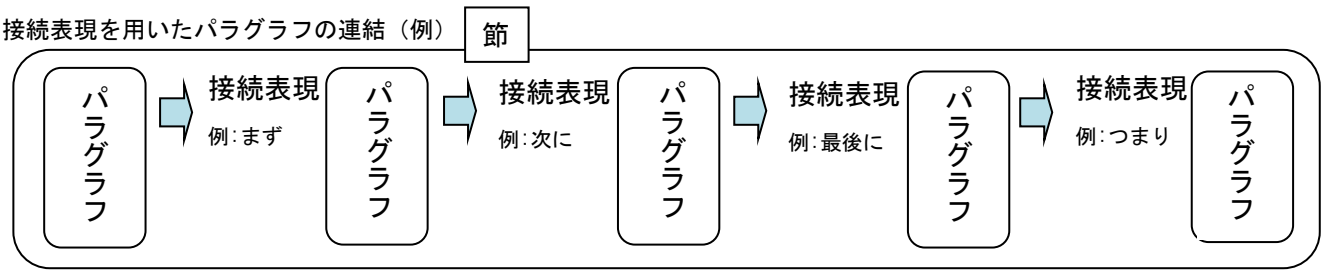
注１:論文・レポートを書くときには、「論文・レポート全体→章→節→段落・パラグラフ→文」と階層に分けて構造化します。

注２:接続語や接続詞ではなく、接続表現という言い方をするのは、「一方で」「その例として」「言い換えれば」「第一に、第二に、第三に」「まず、次に、最後に」といった文相互・パラグラフ相互の関係を明示する幅広い表現を意味しているからです。こうしたコトバをメタ言語（メタ・メッセージ）とも言います。メタ言語（メタ・メッセージ）とは、文章の内容（コンテンツ）そのものではなく、話の展開を読み手に説明して、話を追いやすくする機能をもったコトバを指します。

接続表現を用いた文の連結（例）



接続表現を用いたパラグラフの連結（例）



ただし、接続表現は文や段落・パラグラフを、論理的に連結させるだけのものではありません。
あなたは、①文と②文を、「だから」と「しかし」、どちらの接続表現でつなぎますか？

① 天気予報で「今日は曇り時々雨です」と言っていた。
② 傘を持って出かけよう。

「天気予報の信憑性は高いから、きっと雨は降る」あるいは「天気予報の信憑性は低いから、時々雨どころかきっと大雨になる」と考えれば、「だから」を入れて①文と②文を理由と帰結の関係（順接の関係）で繋ぐことができます。一方、「天気予報の信憑性は高いから、きっとたいして雨は降らない」あるいは「天気予報の信憑性は低いから、まったく雨は降らない」と考えれば、①文と②文を逆接の関係で繋ぐことができます。

このように、ものごとの関係は接続表現によってつくりだされるのです。ものごとの関係性をつくりだす創造的な働きがあるといってもよいでしょう。

吉野弘に「自分自身に」と題した詩があります。

他人を励ますことはできても
自分を励ますことは難しい
だから――というべきか
しかし――というべきか
自分がまだひらく花だと
思える間はそう思うがいい
すこしの気恥ずかしさに耐え
すこしの無理をしてでも
淡い賑やかさのなかに
自分を遊ばせておくがいい



「だから」で繋ぐか、「しかし」で繋ぐかによって、異なった関係性が創りだされることを、みごとにあらわしています。接続表現は、新たな関係を紡ぎだすためにさまざまな工夫を試みるべき、創造的な装置でもあるのです。

［２］書き手の思考を整理し、読み手の先読みを助ける

接続表現は、書き手にとっても読み手にとっても、非常に便利なツールです。

書き手にとって接続表現を使うと、続きをどのように書き継ぐかという後続文脈の方向が定めやすくなり、長い文章が楽に書けるようになります。そして、接続表現をうまく使うと、思考のテンポがリズミカルになり、流れのよい文章になるのです。次の文章を例に、説明しましょう。

> メジャーリーガーロビンソンの誕生は、次の三つの点で、その後のアメリカ社会に大きな影響を残すことになった。
>
> 第一に、黒人に対する偏見の軽減あるいは払拭である。それまで黒人の野球選手は、臆病で、運動能力や知的能力が足りず、白人メジャーリーガーを相手にプレイできないと見なされていた。しかしロビンソンの実力は、そのような先入観を根底から覆すものだった。
>
> 第二に、スタジアムで繰り広げられるチームプレイやチームワークが、白人と黒人による共働の可能性を実証して見せてくれたことである。白球が結び、紡ぎあげるアスリート間の信頼や協力の関係は、やがて実社会の市民間の関係へと発展することになる。
>
> そして第三に、アメリカ社会における人種関係の将来像を国民に提示したことである。

出典：川島浩平（2012）『人種とスポーツ』中公新書、p. 144

「第一に」「第二に」「第三に」という整理の仕方は、書き手自身の思考展開に枠をはめることになるので、思考の混乱を防ぐことができます。［４］で述べる「…。そして…。しかし…。したがって…。」や［５］で述べる「なぜなら…。例えば…。さらに…。それゆえに…。」も、その組み合わせの枠が書き手の思考の整理に役立っています。

このように、接続表現は、複雑な内容を整理し、書き手があらかじめ立てた計画に沿って確実に文章を展開させたいときに力を発揮するのです。

一方、読み手にとっても接続表現があると、先行文脈の流れのなかで後続文脈の内容をあらかじめ絞り込むことができ、読むのが楽になります。脳にとってわかりやすい文章とは、先読みが効いて次に何を言うか予想のつく文章です。そうした予測のつく文章は、予想を確認していくだけですむので、速く読み進むことができるのです。接続表現は、そんな読み手の予測（先読み）を助ける役割を果たしてくれるのです。

たとえば、「天気予報の降水確率は９０％である」という文のあとに「だから」があれば、「傘を持っていく」といった順当な帰結が書かれることを予測させます。一方、「しかし」があれば「傘を持っていかない」といった順当な帰結を覆すことが書かれることを予測させます。つまり、接続表現は行き先表示（水先案内）や道路標識の役割を果たしてくれるのです。前方に学校や幼稚園、保育園がある場所には、学童の絵の標識があります。それでドライバーは慎重に運転し、とっさのときにも素早く反応できるのです。接続表現の役割も同じで、「このあとをどういう風に読まなければならないか」が表示されるので読みの心構えができるのです。

ところが、接続表現の使われていない先読みの効かない難解な文章は、行きつ戻りつして読まなければなりません。読み終わったあとで、「ああ、これは前の文の理由なのか」とわかって、もう一度理由として読み直さなければならない、といったこともあるでしょう。つまり、読み手に余分な負荷をかけることになるのです。

［３］接続表現は発想を広げる

また、接続表現は、書き手の発想を広げてくれる、すぐれたツールでもあります。

「雨の日は楽しい。」という一文のあと、「たとえば、……」「たとえば、……」…と、つづけてみてください。

雨の日は楽しい。
たとえば、いつもはいっぱいで入れないカフェが空いている。
たとえば、落ち着いて読書にふけることができる。
たとえば、ごろごろして日々の疲れを癒やすことができる。
たとえば、のんびりと家でビデオ鑑賞ができる。
たとえば、……

無理して「たとえば」で繋ぐことで、思いも及ばなかったアイデアが頭に浮かぶこともあるのです。

大ヒット映画にもなったTVドラマ『踊る大捜査線』の脚本家でもある君塚良一さんが、『コーチ』というTVドラマの興味深い裏話を、次のように語っています。（面白いエピソードなので、少し長い引用になりますが、省略を最小限にして紹介します。）

> 『コーチ』というドラマでのこと。
> 田舎にあるサバの缶詰工場を舞台に、毎回ヒューマンなドラマを重ねていった。終盤、倒産の危機に瀕した缶詰工場が奇跡的に立ち直るという局面を迎えた。最終回への盛りあげのためにも大切な場面である。サバの缶詰が売れなくなった工場がどう立ち直るのか。新製品がヒットして大きく展開す

るというのがあらかじめ決められたストーリーにあった。
　が、その新商品が何か思い浮かばないまま、この局面を迎えてしまったのだった。わたしもスタッフも頭を抱えた。中途半端なアイデア商品を描いては、見ている人が、そんなのヒットするわけないだろうと白けるだろう。このドラマが成功するか失敗するかという番組の根源にかかわる問題だった。
　サバを使ったどんな新商品を作ろうか。集まったわたしや監督からアイデアは出なかった。脚本ミーティングの席は重苦しい沈黙に包まれた。

そして、二時間ほどたったとき、唐突にＩプロデューサーが話し始めます。

「発想の仕方を変えましょう。サバを使った美味しい料理を考えるんじゃなくて、みなさん、サバを使った、まずい料理を考えてください！」
　彼の論理はどこか変だと一同は思ったが、これ以上考えても何も出てこない。ギブアップ寸前だった。時間はない。
「まずいサバの料理か……」
　途端に、一同の口が賑やかになった。サバのハンバーグ。まずそう！　サバのチャーハン。吐きそう！　サバのパスタソース。ゲッ！　サバのお好み焼き。やめてよ！
　その場は異常な盛り上がりを見せ、誰かが調子に乗って叫んだ。
「サバカレー！」
　まずそうなサバ料理のチャンピオンが決定した。
　Ｉプロデューサーも興奮して、
「それでいきましょう！　サバカレーを考案して商品にしたら大ヒットした。これしかない！　待てよ、意外といいかも！　子供はカレー好きですもんね！　子供が喜ぶもの、すなわち、ヒット商品！　決定！」
　（中略）
　数週間後、サバカレーという商品が街でヒットするという回が放送された。放送を見たサバの加工業者が本当に作ってみた。作って、発売してみた。これが売れてしまったのである。本当に、サバカレーの缶詰が街のスーパーマーケットに並んだのだ。ドラマから現実の新商品が生まれたのである。

出典：君塚良一（2001）『テレビ大捜査線』講談社、pp. 120-122

「サバを使った新製品を作る。だから、…」と順接的に発想するのではなく、「サバを使った新製品を作る。しかし、…」と逆接的に発想した結果、意外なアイデアが生まれたというのです。

学習指導要領改定の基となった中教審答申の「論点整理」に、「予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である」という一節があります。〈「予測できない未来」＝「行き先不透明な」社会である。だから……〉という論理構成になっています。

でも、この「だから」を「しかし」で繋げれば、どうでしょうか。「予測できない未来」＝「先行き不透明な」社会は、今に始まったことではありません。人類が誕生する以前から未来は予測困難で、不確実性に満ちています。80 年代前半の日米貿易摩擦後のプラザ合意がバブル経済をもたらすことも、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災とそれが福島第一原子力発電所の事故をもたらすことも、2011 年春の新型コロ

ナウイルス感染症が全世界的に拡大することも、予見・予測できたのでしょうか。

ダン・ガードナー著・川添節子訳『専門家の予測はサルにも劣る』飛鳥新社を読めば、いつの時代だって私たちは予測困難なこと（不確実性）に直面してきたのだということがわかります。「しかし」急激な変化や断層的な変化が何の前兆もなく生じるわけではありません。「しかし」予想できない変化に対応できたと見なすことのできる事例もあったはずです。「だから」と繋げてしまえば、不安しか生まず、抽象的な議論の罠に陥ってしまいます。

苅谷（2020）は、「過去において、私たちが不確実な未来にどのように対応できていたのか、できていなかったのかを調べる方が、具体的で実際的な人々の思考や行動を跡づけることができる。その痕跡の中に、教育がすくいあげるべき課題が埋め込まれているはずだ」(p.25）と述べています。安直に「だから」と思考停止や「エセ演繹型思考[注]」に陥るのではなく、「しかし」によって思考の陥穽から抜け出すこともできるのです。それも接続表現の力なのです。

注：苅谷（2020）は、「中途半端にわかったつもりで、抽象度の高い概念の間を行ったり来たりするだけで、現実からの事実に基づいた帰納的思考を排除する思考の様式」を、「エセ演繹型思考」と名づけています。演繹や帰納については、あとのセクションで詳しく説明します。

参考文献

苅谷剛彦（2020）「『不確実性の罠』にはまった主体性論」朝日新聞社『Journalism』2020 年 3 月号、p.19-25

［4］接続表現「ＡＢＴ」でストーリーをつくる（ＡＢＴテンプレート）

「科学研究に携わる人々にとって、自らの研究内容を文章やプレゼンテーションの形で説明する機会は少なくない」にもかかわらず、多くの研究者が「伝わらない」という課題に直面しているといわれています。そして、その根本的な原因として、『なぜ科学はストーリーを必要としているのか』の著者・ランディ・オルソンは、「物語（narrative）の欠乏」を挙げています。

> 科学はストーリーに満ちている。科学研究の手法も、科学を伝えることも、何かを語るためのプロセスだ。それにもかかわらず、ストーリーの持つ力と構造のことは、広く教えられてはおらず、公に提唱されてもいない。
>
> （中略）
>
> 物語によって脅かされるものは、何もない。物語は、人間の文化のあらゆる側面に浸透している。科学者は、科学が物語のプロセスであること、物語はストーリーであること、したがって科学にはストーリーが必要であることを認識しなければならない。

出典：ランディ・オルソン（2018）『なぜ科学はストーリーを必要としているのか』慶應義塾大学出版会、p.1

では、どうすれば「ストーリー」をつくることができるのでしょうか。オルソンは、「ストーリー」をつくる方法として、「ＡＢＴテンプレート」（あるいは「ＡＢＴフレームワーク」）というツールの活用を提唱します。「ＡＢＴテンプレート」とは、Ａ（And：そして）、Ｂ（But：しかし）、Ｔ（Therefore：したがって）の三つの語を元にした構造のことです。そして、この三つの語を使うと、話をストーリー化（構造化）できると説いています。（ＡＢＴは普遍的な物語テンプレートだ、とも述べています。）

> 僕は、これ（ストーリーテリング：引用者注）を**ＡＢＴ**（And〔そして〕、But〔しかし〕、Therefore〔しかがって〕）という、シンプルな一つの穴埋めの形式に発展させた。その型がこれだ。
>
> **（　　）そして（　　）しかし（　　）したがって（　　）**

どのストーリーも、この一つの構造に縮めることができる。僕はあなたに、「カンザス州の農場に住み。そして、退屈な暮らしをしている女の子がいる。しかし、ある日、竜巻が彼女をオズの国に吹き飛ばしてしまう。したがって、彼女は家に帰る道を探す旅に出なくてはならなくなる」〔「オズの魔法使い」のストーリー〕という話をすることができる。これがＡＢＴの活用例だ。

出典：ランディ・オルソン（2018）『なぜ科学はストーリーを必要としているのか』慶應義塾大学出版会、p.26

オルソンは、ＡＢＴを用いた次のような実例も挙げています。

八〇〇〇年の間、海水面の高さは安定していた。**そして**、海辺で文明が築かれてきた。**しかし**、ここ一五〇年間の間に、海水面は急激に上昇してきた。**したがって**、今、沿岸地域のための新たな管理計画を考え出さなければならない時が来ている。

出典：ランディ・オルソン（2018）『なぜ科学はストーリーを必要としているのか』慶應義塾大学出版会、p.208

このＡＢＴに対して、「そして（And）、そして（And）、そして（And）」の構造を「ＡＡＡ」と名づけています。これは非物語的で、語られるストーリーはなく、単なる事実の提示があるだけだと指摘しています。そして、「この話は退屈になる。退屈になることは、コミュニケーションがとりうる、二つの最悪の形の一つだ」（p.136）とも述べています。また、「二つの最悪の形」のうち、もう一つは「混乱を招くこと」で、「それもかかわらにず（Despite）、しかしながら（However）、それでも（Yet）]」の構造（「ＤＨＹ」形式）がそれにあたるとしています。これは物語性が過剰で、方向性が多すぎ、聞き手（読み手）を混乱させてしまうと指摘しています。

ＡＢＴが「物語」の唯一の型ではないとしても、話や文章を構造化する有効な型であることは確かです。また、接続表現を的確に使うことで、文章が構造化され、読みやすくなることもまちがいありません。

なお、ＡＢＴは類似する別の言葉に置き換えることもでき、「ＡＢＴの言葉と相互に入れ替えられる言葉」として、下記のような例を挙げています。

合意：ａｎｄ（そして）

also, equally, identically, uniquely, like, moreover, as well as, furthermore, likewise, si-milarly

［日本語での例：また、同様に、同じく、例えば、それに、さらに、その上、しかも］

対立：but（しかし）

despite, however, yet, conversely, rather, whereas, although, oth-erwise, instead, albei

［日本語での例：それにも関わらず、しかしながら、だが、むしろ、一方で、でも、それでも、その代わり、反対に、そうではなくて、それどころか］

帰結：therefore（したがって）

so, thus, consequently, hence, thereupon, accordingly, as a result, henceforth, for this reason, in that case

［日本語での例：そのため、よって、それゆえ、ゆえに、そこで、それを受けて、その結果、結果として、これより、この理由から、それなら］

参考文献

ランディ・オルソン著 坪子理美訳（2018）『なぜ科学はストーリーを必要としているのか』慶應義塾大学出版会

［５］接続語で書く論理的な文章

前節のオルソンと同じように、西田みどりさんも、「接続語[注]を使って論理的な文章を書く」というメ

ソッドを提唱されています（『接続語を使えば、誰でも書ける』知玄舎、2014 年)。意見を主張したいときは、「なぜなら→例えば→さらに→それゆえに（したがって)」と接続語で文を連結していくことによって自然に論理的な展開になると述べています。また、意見に反論するときも、「確かに→しかし→したがって」と接続語を連結することで論理的に書くことができると説いています。そして、次のような例文を挙げています。

注：西田みどりさんは「接続語」という言葉を用いています。

〈意見文の例文〉

原子力発電所は即刻廃止すべきである。**なぜなら**、事故を起こしたとき、周辺に住む人々に大きな被害をもたらすからである。**例えば**、福島第一原発事故では、周囲 20 キロ以内に住んでいた人は放射能被害で家に住めなくなり、生活の基盤を失った。**さらに**、事故から 2 年以上たった 2013 年 8 月でも、汚染水が海に漏れ続けていることが明らかになり、相馬双葉漁業協同組合は試験操業中止を決定した。**それゆえに**、原発は即時廃止して、太陽エネルギー等に変えていくべきなのだ。

自分の意見
なぜなら→理由（論拠）
例えば→論拠の強化
さらに→論拠の強化
それゆえに（したがって）→論証できた

〈反論の実例〉

確かに、大学図書館に漫画を入れるというのは非常識かもしれない。**しかし**、最近の漫画はかつての滑稽本とは異なり、本格的な考証を行い、現地取材も丁寧に行った読みごたえがあるものが増えている。例えばヤアザキ・マリの『テルマエ・ロマエ』（Ⅰ～Ⅵ巻、エンタープライズ刊、2009～2013）は浴場を比較文化的視点から論じた漫画で、ラテン語が吹き出しに入るという前代未聞のものだ。**したがって**、漫画だからといって排除するのではなく、質の高さで蔵書するか否かを判断するべきである。

（ある意見・見解）
確かに＝受容
しかし＝受容した意見の穴（論理的欠陥、視点の欠如）を指摘する
したがって＝（その欠陥を超えた）自分の意見を述べる

出典：西田みどり（2014)『接続語を使えば、誰でも書ける』知玄舎、p. 12-17

文章を構造化するためのツールとして、ぜひ接続表現を大胆に活用してみてください。

［6］接続表現の分類

接続表現は、その機能によって幾種類かに分類することができます。本テキストでは、接続表現を文章作成や文章読解の技術として使うえで、きわめて有用性が高いと思えた石黒圭さんと野矢茂樹さんの分類を紹介しておきます。

石黒圭の〈「接続詞」の分類〉※石黒圭さんは「接続詞」という言葉を用いています。

論理の接続詞 読者に期待させる	予想にそった結果を示す（順接）	帰結：だから/したがって/そのため 対応：そこで/そんなわけで/というわけで 推移：すると/その結果 仮定：ならば/そうなると/そうすれば
	予想に反した結果を示す（逆接）	齟齬：しかし/だが/ところが 抵抗：にもかかわらず/そのくせ/それでいて 制限：ただ/とはいえ/だからといって
整理の接続詞 複雑な内容を整理する	似たものどうしを並べる（並列）	添加：また/それから/そして 累加：そのうえ/さらに/しかも 共存：かつ/あわせて/同時に
	対照的なものを並べる（対比）	対立：これにたいして/それにたいして 他面：一方/他方 反対：反面/半面/ぎゃくに 選択：または/もしくは/あるいは
	順番をつけて並べる（列挙）	番号：第一に・第二に・第三に 順序：最初に・ついで・最後に 序列：まず・つぎに・さらに
理解の接続詞 読者に歩み寄る	適切な言葉に言い換える（換言）	加工：すなわち/つまり/ようするに 代替：むしろ/そのかわり/というより
	イメージしやすい例を挙げる（例示）	列挙：たとえば/具体的には 例証：事実/実際/じつは 特立：とくに/とりわけ/なかでも
	情報の穴を埋める（補足）	理由：なぜなら/というのは/というのも 付加：なお/ただし/ちなみに
展開の接続詞 全体の流れを示す	話題を大きく切り替える（転換）	移行：さて/ところで 本題：では/だとすれば 回帰：そもそも/思うに/それにしても
	それまでの話をまとめる（結論）	帰着：このように/こうして 終結：というわけで/ということで/結局 不変：いずれにしても/どちらにしても 無効：とにかく/ともかく/ともあれ

参考文献

石黒　圭（2016）『「接続詞」の技術』実務教育出版

野矢茂樹の〈「接続表現」の分類〉※野矢茂樹さんは「接続表現」という言葉を用いています。

順接　主張の方向や議論の流れが変わることなく繋がっていく関係

①換言（詳しく解説したり、別の表現で言い換えたり、概括的に要約したりする）

例）言い換えれば／つまり／すなわち／要するに

②例示（具体例やたとえでわかりやすくする）

例）たとえば／その例として／具体的には

③付加（新たな主張を付け加える）

例）さらに／また／しかも／くわえて／そして／次に／第二に／では

④推論（「理由と帰結」「前提と結論」「根拠と主張」の関係にあることを示す）

例）その根拠は／その理由は／なぜなら／したがって／それゆえ／～ので／～から

逆接　主張の方向や議論の流れが転換されて繋がっていく関係

①転換（前の主張とは対立する主張を示す）

例）しかし／だが／ところが

②対比（前の主張とは対比的な主張を示す）

例）一方／それに対して／反対に／他方

③制限（前の主張に制限を加える）

例）ただし／だが／もっとも／とはいえ

参考文献

野矢茂樹（2006）『新版 論理トレーニング』産業図書

野矢茂樹（2001）『論理トレーニング 101 題』産業図書

野矢さんが分類した七つの接続関係は、次の四つにまとめることができます。文章は、この四つの関係で論理的に連結しながら、ひとまとまりの内容をつくっているとも考えられます。

換言・例示……広い意味での「換言」であり、Ａ＝Ｂの関係

推論……Ａ→Ｂの関係

付加・制限……広い意味での「付加」であり、Ａ＋Ｂの関係

転換・対比……広い意味での「転換」であり、Ａ↔Ｂの関係

注：上記のような接続関係こそ、実は広い意味で「論理」と呼ばれるものです。

✎まとめ（Summary）

1. **接続表現は、文や段落・パラグラフを論理的に連結するためのツールであり、新たな関係を紡ぎだすための創造的な装置でもある。**
2. **接続表現によって、書き手は後続文脈を書きやすくなり、読み手は予測（先読み）がしやすくなる。**
3. **接続表現は発想を広げるツールともなる。**
4. **接続表現を使って文章をストーリー化・構造化することができる。**
5. **接続表現は、その機能（関係のつくり方）によって、幾種類かに分類される。**

Glossary：論証の「から」「ので」と説明の「から」「ので」

同じ「から」でも、次のＡとＢでは意味がちがいます。

Ａ：みんな傘をさしているから、雨が降っている。

Ｂ：低気圧が近づいてきたから、雨が降っている。

ビルの 3 階の窓から下を見ると、みんな傘をさして歩いている。その客観的な「事実」から「雨が降っている」と推測しているのがＡです。つまり、「みんな傘をさしている」という結果から「雨が降っている」という原因を推論するという仮説形成がなされているのです（これを「論証」といいます）。「雨が降っている」は推測なので、2014 年 9 月に香港で始まった民主化要求運動（雨傘革命）のような、別の原因（「催涙ガスを防いでいる」「抗議デモをおこなっている」等）も推測できます。

一方、Ｂは、「雨が降っている」という結果を「低気圧が近づいてきた」という原因で説明しています。つまり、「雨が降っている」という「事実」は「低気圧が近づいてきた」という「事実」の言い換えといえます。

Ａ：みんな傘をさしている（結果）から、雨が降っている（原因）。

推論関係［論証］＝結果から原因を推測している［仮説形成］

Ｂ：低気圧が近づいてきた（原因）から、雨が降っている（結果）。

因果関係［説明］＝原因で結果を説明している

✐さらに学びたい人へ（Further reading）

石黒　圭（2008）『文章は接続詞で決まる』（光文社新書）光文社

石黒　圭（2016）『「接続詞」の技術』実務教育出版

吉岡友治（2017）『文章が一瞬でロジカルになる接続詞の使い方』草思社

野矢茂樹（2001）『論理トレーニング 101 題』産業図書

野矢茂樹（2006）『新版 論理トレーニング』産業図書

西田みどり（2012）『〈型〉で書く文章論』知玄舎

西田みどり（2014）『接続語を使えば、誰でも書ける』知玄舎

§8:事実と推測と意見

［1］事実と意見は区別できるのか

「事実と意見の区別」を提唱した、その先駆けでもある『理科系の作文技術』（中公新書、1981）の著者・木下是雄さんは、次のように述べています。

> 前章でも〈事実〉,〈意見〉ということばがたびたび出てきたが，レポート・論文の類を書くときに第一に必要な心得は，この二つをはっきり別ものとして取り扱うことだ．欧米では，事実と意見（自分または他人の考え）とを峻別する訓練が言語技術教育の礎石とされているのである。

出典：木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、p. 25

また、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「国語編」にも「事実と感想，意見とを区別する」（p. 51）といった記述があります。「事実」と「意見」は二分法的に対置される概念として扱われているようです。

では、「この本の著者は 1942 年生まれである.」という記述は、「事実」でしょうか、「意見」でしょうか。おそらく二分法的には「事実」に分類されるのでしょう。

しかし、「事実」と「意見」を区別することは、そう簡単なことではないのです。木下さんも、「事実とは証拠をあげて裏づけすることのできるものである．意見というのは何事かについてある人が下す判断である．ほかの人はその判断に同意するかもしれないし、同意しないかもしれない」（米国小学校用言語技術教科書）という定義では、「この本の著者は 1942 年生まれである.」という記述を「事実」とすることはできないと述べています（木下 1994、pp. 36-37）。なぜなら、「証拠をあげて裏づけ」しようとして、裏づけできれば「事実」と呼んでもよいけれど、筆者の記憶ちがいや書き間違いで、ほんとうは「1943 年生まれ」だったということもあるからです。

もちろん、「この本の著者は 1942 年生まれである.」という文を、書き手は「事実」として書いたのであって、「意見」として書いたわけではありません。それでも、上記のように真である事実も偽である事実も「事実」だというのでは、「事実」ということばの意味に混乱が生じます。2020 年 3 月 9 日の国会で、森雅子法相が、「東日本大震災の時、検察官はいわき市から国民が、市民が避難していない中で最初に逃げた。その時に身柄拘束をしている十数人を理由なく釈放した」と発言し、その後、「個人の見解だった」と弁明、「法務省が確認した事実と異なる事実を発言した。真摯に反省している」と謝罪しました（2020 年 3 月 13 日『朝日新聞』朝刊）。まさに、「個人の見解」も「事実」として述べることができ、偽である事実も「事実」だということになれば、「事実」ということばが意味をもちません。なぜなら、「それは事実である」と言ったときに、日本語では「それは真実である」「それはまちがいない」といった意味を含みむからです。

そこで、木下さんも、「事実」ではなくて「事実の記述」と呼ぶべきであるとして、「事実の記述」を「しかるべきテストや調査によって真偽を（それがほんとうであるかどうか）を客観的に判定できるもの」と定義づけています。また、「意見」を「事実に対比すべきものとしての〈考え〉である」と定義づけています。そして、「事実は、ことばによる記述の対象にはできるが、元来ことばの世界の外のものである．これに対して考えは、ことばによって組み立てられるもの、ことばの世界の中にあるといってもいいものだ．〈事実の記述〉と書いた一方で〈意見〉と書くのは、この事情の反映である」（木下 1994、p. 39）という注記を付しています。

［２］すべての文（記述）は書き手の「意見（主張・考え）」である

木下さんの付した注記は、きわめて重要なことを指摘しています。それは、意見はことばであるけれど、事実はことばではないということです。事実と意見は、そもそも異なるカテゴリーに属しているのです。「この本の著者は 1942 年生まれである.」という文は事実（あるいは「事実の記述」）なのか意見なのかと問うのは、バナナは植物なのか食糧なのかと問うようなものなのです。「ことば」という同一のカテゴリーで事実と意見を区別することなどできるはずがありません。文が「ことばによって組み立てられるもの」である以上、文はすべて意見なのです。あえていえば、すべての文は意見を述べているし、事実を述べてもいるのです。「夏目漱石の小説は面白い。」という文は、書き手の感想を述べている文でもあり、感想という心理状態が書き手のなかに存在するという事実を述べている文でもあります。つまり、「事実を述べている文」と「意見を述べている文」があるという考え方そのものがまちがいであり、記述された文は、すべて事実についての書き手の意見（主張・考え）を述べているのです。

［３］根拠（裏づけ・証拠・理由）を問う

もし、あえて記述された文を区別するなら、下記のように「記述的主張」と「規範的主張」に二分することになるでしょう。

記述的主張（DESCRIPTIVE　CLAIMS）

例）みぞれが降った。地球は動いている。

ものはどうであるか、どうであるように見えるかという主張。調べる・実験する・体験するといった経験をすれば確かめられる（経験して確かめるまで「確かさ」は保留される）。事実主張（factual claim）あるいは経験的事実（empirical fact）ともいう。

規範的主張（PRESCRIPTIVE　CLAIMS）

例）死刑制度は廃止すべきである。

ものはどうでなければならないか、どうであるべきかという主張。「～は善い」「～は悪い」「～するのは正しい」「～するべきである」「～してはならない」などのことばで表される。価値主張（value claim）ともいう。

大事なことは、事実か意見かではなく、何かを記述（言明）するとき、あるいは何かが記述（言明）されているとき、そこに根拠や証拠があるかどうかです。



Does this post provide strong evidence about the conditions near the Fukushima Daiichi Power Plant? Explain your reasoning.

スタンフォード大学の研究グループが 2015～16 年、こんな調査をおこないました。まず、ネット上に出回っていた変形した花の写真を、170 人の高校生に「福島の花」として画像投稿サイトにアップされたと説明します。そして、「福島第一原発近くの状況を示す強い証拠となるか」と訊いたところ、約 8 割が「証拠となる」と答え、そのうち約 4 割は「写真があることが強い証拠だ」と答えました。疑問を持った生徒は２割程度でした。たしかに、この写真の存在は事実です。しかし、それが福島第一原発付近で撮影された写真であるという根拠や証拠は何も示されていません（写真の出所も撮影者も明示されていません）。どんな写真を選択してネットにアップするかを考える段階で、すでに写真をアップした人の価値判断（意見）は働いているのです。だか

らこそ、「根拠や証拠はあるのか？　それは何か？」「その事実を選択したことに、どのような価値判断（考え）が働いているのか？」と問うことが、つねに必要なのです。

かつて、ネット上に、こんな記事が拡散したことがあります。

> 米人類学者 Cavalii-Sforza の遺伝子勾配データによれば、 朝鮮人は世界でも類を見ないほど均一なＤＮＡ塩基配列の持ち主であり、これは過去において大きな Genetic Drift（少数の人間が近親相姦を重ねて今の人口動態を形成）か、あるいは近親相姦を日常的に繰り返す文化の持ち主だった事を表します。
>
> （文献：The Great Human Diasporas: The History of Diversity and Evolution.1995.. Luigi Luca Cavalii-Sforza and Francesco Cavalli-Sforza. Addison Wesley Publ. ISBN 0-201-44231-0）

調べてみると、Cavalii-Sforza（カヴァーリ=スフォルツァ）は「米人類学者」ではなく、「イタリアの遺伝子学者」でした。また、出典とされる『The Great Human Diasporas: The History of Diversity and Evolution』（邦訳書：千種堅訳『わたしは誰、どこから来たの　進化にみるヒトの「違い」の物語』三田出版界、1995 年）には、朝鮮人の近親相姦の話どころか、朝鮮人の話すら出てきません。ましてや、出典の著者であるカヴァーリ=スフォルツァは人種差別を激しく憎んだ人物で、「人種差別とはある人種が他の人種よりも生物学的にすぐれているという信念だ。そこから出てくるのが、『人種の純粋さを維持』しなくてはという差別主義者の懸念で、この人種の優位がなくなったり、弱まったりしないようにというのだ。だが、知っての通り、いかなる人種も純粋ではなく、したがって、純粋さの維持は矛盾した懸念となる」（前掲邦訳書 p.402）と述べ、「今日、ヨーロッパの多くの国で毎日のように行われている人種差別の活動は残忍な犯罪」である（前掲邦訳書 p.413）とも主張しています。

大事なことなので繰り返しますが、記述された文は、すべて事実についての書き手の意見（主張・考え）なのです。上記の記事も、それを書いた人やネットで拡散した人の「他の人種を差別しよう」とする意志（心理状態）が存在するという事実を記述したものであり、「他の人種を差別しよう」という意志を記述したものです。

［４］それでも事実と推測と意見を区別する意味

かなり複雑な話になってしまいました。しかし、事実と意見（主張・考え）を区別することは、そう簡単な話ではないことだけは理解してください。哲学者の野矢茂樹さんも、「『事実』とは何か、それは『考え』とどう違うのか。これは簡単に答えられる問いではない。そして、事実と考えはしばしば切り離すことができない」（『【増補版】大人のための国語ゼミ』筑摩書房、2018 年、p.39）と述べています。そのうえで、野矢さんは、事実と推測と意見を仮に次のように定義づけしています（前掲書 pp.39-40）。

事実：その正しさがすでに確定していることがら
推測：事実だと思われるが、まだ不確かであることを述べたもの
意見：あることがらに対して価値や重要性を評価したり、「どうすべきか」という規範を述べたり、賛成・反対の態度を表明したりするもの

- 事実として述べている
- 考えとして述べている
  - 推測としてのべている
  - 意見として述べている

そして、「事実でないことがらについては、あくまでも自分の考えにとどまるものとして主張しなければならない。（中略）自分の考えにすぎないことを、あたかもすでに正しさの確定した事実であるかのようにして述べるのは、詐欺である」（前掲著、p.40）と述べています。たしかに、前述した森法相の発言などは「詐欺」というべきでしょう。そう考えれば、書き手のモラルとして、読み手を誤誘導しないために、事実と推測と意見を明確に書き分けることは重要かもしれません。

次のような記事が新聞に載っていました。

地震後に差別的ツイート相次ぐ　法務省が注意喚起の投稿

近畿地方を 18 日に襲った大阪北部地震後に、ツイッター上で外国人に対する差別的な投稿が相次いでいる。「地震に乗じてヘイトをあおっている」などと批判も出ており、法務省も「真偽をよく確かめて」と注意を呼びかけている。

「地震が起きると外国人が悪事を働く可能性が高い」「重要文化財が壊れている。地震のせい!?　外国人の可能性も!?」――。地震後、ツイッターにはこうした投稿が相次いだ。

これに対し、ネット上では「震災をダシに差別をあおるな」などと批判が殺到。法務省人権擁護局もツイッターで「災害発生時には、インターネット上に、差別や偏見をあおる意図で虚偽の情報が投稿されている可能性もあり得ます」などと冷静に行動するよう呼びかけた。

同省によると、災害時にこうした投稿をするのは初めて。「災害時はデマがありうるため、いち早く注意喚起した」という。ツイッター日本法人によると、人種差別的な投稿などがあった場合は投稿者に削除を求め、応じなければアカウントを永久に凍結するなどの措置をとっているという。

過去には、2016 年の熊本地震の際に「朝鮮人が井戸に毒を投げ込んだ」といったデマがネット上で出回った。95 年前の関東大震災でも、同様のデマにより朝鮮人らが殺害される事件が起きたとされる。

出典：2018 年 6 月 19 日 19 時 58 分「朝日新聞 DIGITAL」https://www.asahi.com/articles/ASL6M5H7WL6MUTIL02S.html（参照日 2020.4.8）

「自分の考えにすぎないことを、あたかもすでに正しさの確定した事実であるかのようにして述べる」ことが差別や偏見を煽ることにもなるのです。ただ、この記事には気になるところもあります。それは、「95 年前の関東大震災でも、同様のデマにより朝鮮人らが殺害される事件が起きたとされる。」という末尾の一文です。「とされる」というような、不確かな伝聞にすぎないという書き方を、なぜするのでしょうか。関東大震災のときに多くの朝鮮人や社会主義者が虐殺されたことは、中学校の教科書にも書かれている「その正しさがすでに確定していることがら」（事実）です。なぜ、「事件が起きたという人もいる。私は知らないけど。だから責任もたないよ」といった「まだ不確かであること」のように書いているのでしょうか。自分には不確かな認識しかないというなら、自分で調べて確かな認識にして書くべきでしょう。それこそが、ものを書くことを職業とした人間の責務であるはずです。この記事を書いた記者は、やはり「1945 年 8 月 6 日、広島に原爆が投下されたとされる」と書くのでしょうか。

たしかに、「95 年前の関東大震災でも、同様のデマにより朝鮮人らが殺害される事件が起きた」という事実を否定する人もいます。しかし、否定論があるからといって、それを事実と同値にあつかってよいはずがありません。朝鮮人が虐殺された事件について明確な意思表示を避け、「さまざまな歴史的な認識があろうかと思う」と発言した政治家もいましたが、事実を認識（意見）にすりかえることも、「両論併記」

の立場をとることも、あきらかに「詐欺」です。

たしかに誠実に学問的検討をして議論が分かれる場合には、肯定と否定の双方の主張を吟味することが不可欠です。しかし、関東大震災時の朝鮮人虐殺の否認と歴史学の一般的見解とを併記すれば、前者が後者と並び立つ重要な見解であるような錯覚を与えるでしょう。「生物は進化したという説もありますが、一方、生物は神が創ったのだとの説もあり、今後論議を呼びそうです」といったぐあいに、進化論と創造説（アンチ進化論）を「両論併記」で報道したら、どうでしょうか。トンデモ説（疑似科学）と科学を同じ土俵に上げるべきではありません。

『否定と肯定 ホロコーストの真実をめぐる闘い』[注]に、次のような一節があります。

> 物事を捉えるには『事実』『意見』そして『嘘』の３つの見方があります。例えば、第二次世界大戦があったことは『事実』。そこで大量殺人は起きていないというのがホロコースト否定論者の『意見』。個人的な意見を持つことは自由ですが、事実と混同すると、それは『嘘』になるのです。昨今の歴史修正論者はカギ十字付きの制服を着ません。あたかも羊の皮を着た狼のように。そして、白人優越主義者はおしゃれなプレッピー風ファッションで、『白人のアイデンティティを祝福させてください』などといいます。これを私はエスノナショナリズムだと思い、危険に感じています。今後、白人優越主義者が行進するとき、彼らはわかりやすい旗など振らないでしょう。

出典：デボラ・Ｅ・リップシュタット著・山本やよい訳（2017）『否定と肯定 ホロコーストの真実をめぐる闘い』ハーバーbooks、

注：リップシュタットは著書『ホロコーストの真実』の中で、イギリス人歴史学者Ｄ・アーヴィングを「ホロコースト否定論者であり、極右派である」と書き、名誉毀損で訴えられます。裁判で勝つには、「ホロコーストは事実だ」と法廷で証明するしかありません。かくして、イギリスにおいて「ナチスによる大量虐殺はあったのか」を判断する世紀の裁判が、世界中が注目するなかで開廷します。本書は、その経緯を詳細に認めています。「オルタナティブファクト（事実に対するもうひとつの事実）」を奉じる動きが世界中で見られる今、必読の一冊です。映画化もされていますから、ぜひDVDも見てください。

［５］どの角度から事実を切りとっているのか

あえて記述された文を区別するなら、記述的主張と規範的主張に二分することになると前述しましたが、野矢さんも事実と推測と意見を三つの主張として区別し直しています。

> 事実として主張……発言者はその主張の正しさはすでに確定していると考えている。
> 推測として主張……発言者はたぶん事実だろうと考えているが、まだ不確かである。
> 意見として主張……価値、重要性、規範、賛成・反対の態度などに関わる。

出典：野矢茂樹（2018）『【増補版】大人のための国語ゼミ』筑摩書房、p. 44



ただ、このように定義づけても、事実と意見を明確に区別することは、やはり容易ではありません。なぜなら、事実は多面的であり、どの角度（視角）から事実を切り取るのかに、切り取る人の価値や態度といったバイアスが働くからです。

①ペットボトルの水が半分残っている。

②ペットボトルの水が半分減っている。

どちらも事実です。しかし、「残っている」水にフォーカスしているか、

「減っている」水にフォーカスしているかで、書き手の考え（楽観的か悲観的か）は異なります。空のペットボトルを基準点にするか、満タンのペットボトルを基準点にするか、何を基準点にするかによって、書き手のものの見方は変わってくるともいえます。ただ、飲んだ覚えがないのに、机の上に置いていたペットボトルの水が半分になっていれば、②が事実ということになります。

学級日誌に「太郎君が今日は遅刻をしなかった。」と書かれていれば、太郎はいつもよく遅刻をする生徒なのだと思うでしょう。でも、これまで一度も太郎は遅刻をしていません。では、「今日は遅刻をしなかった」のは嘘かといえば、「今日」「遅刻しなかった」のですから事実です。「は」一語が見方（主観）を左右するともあるのです。

③太郎君は授業に一回も欠席しなかった。しかし、よく遅刻した。

④太郎君は授業によく遅刻した。しかし、一回も欠席しなかった。

どちらも事実です。でも、「しかし」の前後を入れ替えると見方が変わります。「A。しかし、B」という表現では、Bに言いたいことがきます。そのため、③には否定的なニュアンスが感じとれ、④には「よくがんばってるよね」と評価する印象が感じとれます。

［6］論拠が事実の描き方を変える

このように事実は複数の見方でとらえられ、多面的です。したがって、ものの見方が読み手（相手）と共有されているかどうかが、事実か推測か意見かよりも前に重要になるのです。

内田樹さんが姜尚中さんとの対談の中で、次のようなエピソードを紹介しています。

> 前に村上龍がエッセイで書いていましたけど、彼がテレビクルーと一緒にパリ＝ダカール・ラリーに取材に行ったとき、日本人のテレビスタッフがミネラルウォーターのボトルに自分の名前を書いておいたら、現地のスタッフたちが「こんなやつとは仕事はできない」と言って辞めると言い出したそうです。日本人は「砂漠では水が大切だから、私的に独占するのが当然だ」と考える。でも、遊牧民はそうは考えない。「砂漠では水が大切だから、私的に独占してはならない」と考える。その差はなかなか僕たちには理解できないんじゃないですか。

出典　内田樹・姜尚中（2016）『世界「最終」戦争論』集英社新書、p. 105

「砂漠でペットボトルに入った水が手元にある」という事実については、日本人スタッフも現地スタッフも共有できています。しかし、そこから引き出された主張は相反しています。

↗それを私的に独占するのは当然だ

砂漠でペットボトルに入った水が手元にある

↘それを私的に独占してはならない

このように同じ事実から相反する結論が導き出されるのはなぜでしょうか。日本人スタッフは〈事実と主張の結びつき〉が自明のものだと思っていますが、現地スタッフからすれば自明のものとはかぎらないのです。言い換えれば、日本人スタッフは「それを私的に独占するのは当然だ」という主張を誰もが共有している事実だとみなしているのです。しかし、「砂漠でペットボトルに入った水が手元にある」という事実と「それを私的に独占するのは当然だ」という主張が論理的に結合するには両者を架橋する（飛躍を埋める）何かが必要なのです。それがものの見方、すなわち論拠と呼ばれるものです（「暗黙の了解」「暗

黙の前提」「フレーミング前提」と呼ばれることもあります)。

苅谷剛彦さんは、この論拠にあたるものを「枠組み」と呼んで、次のように述べています。

> 僕たちが世界を見る時、見え方はひと通りではなく、そこでかけている眼鏡や枠組みをどれだけ意識できるかによって世界の見え方が変わってくる。あるいは「他の人はどうも自分と意見が違うな。どうしてかな」と考える時も「他の人がある対象（出来事）を見ているときの枠組みって何だろう」と想像してみる。そのことによってわかることがけっこうある。

出典：苅谷剛彦他（2019)『教え学ぶ技術』ちくま新書、p.113

日本人スタッフは「人は自立的であるほうが生き延びやすい」といった信念・価値観を、現地スタッフは「人は相互扶助的であるほうが生き延びやすい」といった信念・価値観を、それぞれが論拠（枠組み）として採用していたと考えられます。事実について一致ができても、このように論拠が異なっていると議論が噛みあわないこともあります。まして、厄介なことに、何を論拠にしているかについては、自覚することがほとんどなく、明言することもほとんどないのです（だから、「暗黙の」と呼ばれているのです)。なぜなら、論拠は、その人が生きてきた環境や個人的経験、体験によって無意識に形成されるものだからです。

もちろん、だからといって論拠の相違を明らかにすることが、対立する主張の解消に即つながるわけではありません。しかし、論拠の確認と検討によってこそ、お互いの議論をクリアにすることができ、合意形成のための建設的な議論の土台をつくることが可能になることも確かです。「グローバル化」といわれるものが、「視点や価値観が異なりすぎて、前提を共有していない人」どうしの接触が増えていく経験（與那覇潤『日本人はなぜ存在するのか』）だとすれば、この論拠という考え方は今後ますます重要になっていくでしょう。

[7]論拠を問うことの意義

高校国語の教科書教材に「水の東西」（山崎正和）という評論があります。この評論では、日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」との対比（根拠）を基にして、次のように結論が述べられています。

> いうまでもなく、水にはそれじたいとして定まったかたちはない。そうして、<u>かたちがないということについて、おそらく日本人は西洋人とちがった独特の好みを持っていたのである</u>。「行雲流水」という仏教的なことばがあるが、そういう思想はむしろ思想以前の感性によって裏づけられていた。それは外界にたいする受動的な態度というよりは、<u>積極的に、かたちなきものを恐れない心の現れではなかっただろうか</u>。（下線は引用者）

この結論に同意できるかどうかは、やはり論拠にかかっています。この論証（推論）における論拠は、「日本人」という枠組みが明確に存在するという暗黙の前提です。しかし、「日本人」という枠組みはけっして自明のものではありません。

小熊英二著『〈日本人〉の境界』を読むと、「日本国籍」も「日本民族」も、歴史上のある時点で人為的に発明された制度ないし概念であり、それらを通じて再帰的なかたちで、「日本人」の輪郭が作られていったことがわかります。あらかじめ実態として存在する日本人を私たちが日本人として認識しているのではなく、私たちが「日本人」と認識したものが日本人として出現するといえます。

だから、ここでいう「日本人」とは誰のことかという問いに対しては、「西洋人とちがった独特の好み

を持っていた」「積極的に、かたちなきものを恐れない」人を「日本人」と認識したとき、日本人が出現するとしか答えようがありません。言い換えれば、「西洋人とちがった独特の好み」である「積極的に、かたちなきものを恐れない」という特性を備えた存在を日本人とみなすと定義し、その定義を満たす人びとが「日本人」だと呼ばれている、としかいいようがない自己撞着に陥ることになるのです。

それはちょうど、実態として「赤い夕焼け」が存在するから人には夕焼けが赤く見えるのではなく、人が夕焼けを赤いと認識するから「赤い夕焼け」という現象が出現するのとおなじです（もともと光はどの波長も「無色透明」であり、色は人間が恣意的に定義づけた概念です）。

また、日本人は西洋（＝普通）とは異なる特殊な存在である（これを有標化と呼ぶ）という考え方も論拠として働いていないでしょうか。そして、それは「自分たちは普通とはちがうからこそ、優れている」という「日本人スゴイ」観につながるものであり、自分たちの特殊性を強調して他を否定・排除する方向にすすむものとなりかねません。

このように論拠を問うことは、書かれていない書き手の前提や私たち自身が無意識に「当たり前」としている前提を俯瞰的にメタ認知する（創造的に思考する）ことを意味しています。言い換えれば、論拠を問うことは、自分の「ものの見方」を相対化し、当たり前だとわかったつもりになっている思考停止の状態から救い出してもくれるのです。

［８］狡猾な議論に屈しない

「ミネラルウォーターのボトルに自分の名前を書いておく」という行為も、相手とものの見方（論拠）が共有されていなければ、相手には意図しないメッセージとして伝わってしまいます。したがって、文章を書くときに、「事実として主張」するのか、「推測として主張」するのか、「意見として主張」するのかは、相手と論拠を共有しているかどうかにかかってくるのです。地球平面説が人びとの「常識」であった時代には、地球球体説に基づく事実は「意見として主張」しなければ、人びととのコミュニケーションは成立しないでしょう。また、「95 年前の関東大震災でも、同様のデマにより朝鮮人らが殺害される事件が起きたとされる。」「1945 年 8 月 6 日、広島に原爆が投下されたとされる。」といった書き方をすれば、この人とは議論が成立しないと思われるかもしれません。

野矢さんは、こう警告しています。

> 議論の土俵に上がるということは、その土俵を受け入れることを意味する。そうして本当は議論すべきことを、議論せずに、しかも無自覚の内に、認めさせられてしまうのである。狡猾な人はこれを意図的に行い、自分の意見にすぎないものをいつの間にか既定のことにしてしまう。そんな罠にかかってはいけない。
>
> （中略）
>
> 狡猾な人は、議論の余地のあることがらなのに決めつけ、議論の俎上にのせることなく、受け入れさせようとする。もっとも単純なやり口は、断定的に、しかも自信満々に言うことである。そして同意しない人を上から目線で「無知」呼ばわりする。だが、こんな態度に屈してはいけない。

出典：野矢茂樹（2018）『【増補版】大人のための国語ゼミ』筑摩書房、p. 61-62

✎まとめ（Summary）

1. 記述された文は、すべて事実についての書き手の意見（主張・考え）を述べたものである。
2. 事実であれ推測であれ意見であれ、その根拠や証拠、選択理由を明らかにすべきである。
3. 事実は複数の見方でとらえられ、多面的であるため、どの角度（視角）から事実を切り取るのかに、切り取る人の価値や態度といったバイアスが働く。
4. 共有されていない論拠を、共有されているかのようにして議論してはならない。
5. 共有されていない論拠を既定のことのようにして議論してくる相手に対しては、その決めつけをこそ問題視すること。

Glossary　フレーミング前提

論拠をフレーミング前提と呼ぶこともある。フレーミング前提としては、

①何が重要な社会的価値（リスク・自然・自由）なのかという価値態度

②行為や責任（個人や組織の自律性、責任など）についての信念

③競合するさまざまな知識・主張のうちどれが信頼できてどれが重要なのかに関する判断

③物事の因果関係や関連性・重要性に関する特定の理論モデル

などが挙げられる

※①～④は、伊勢田哲司他『科学技術を考える』名古屋大学出版会から引用した。

Glossary：「と考える」と「と考えられる」

「と考える」「と思う」は主観的に感じたり思ったりしていることをあらわす表現です。一方、「と考えられる」は、「…というデータに基づいて分析したり、考察したりした結果、このように結論できる」というように、「合理的な判断に基づく結論」であることを明示することができる表現です。アメリカの大学では「I think…」という表現は、厳しく禁止されています。「あなたがどう感じているかは学問研究とは何の関係もないことだ」と叱責されるそうです。

「考えられる」のかわりに、「推測する」「推察する」「解釈する」といた言い切り方をすることもできます。ただし、「推測する」と「推察する」では、意味に若干の違いがあります。調べてみましょう。

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

木下是雄（1981）『理科系の作文技術』中公新書

野矢茂樹（2018）『【増補版】大人のための国語ゼミ』筑摩書房

福澤一吉（2002）『議論のレッスン』（生活人新書）NHK 出版

§９:論証する

［１］論証の要件

１．議論構造を特定する

事実[注]を根拠にして結論を導き出すという構造を持つような発言・言説を「議論」といいます。

左の新聞記事には、ある研究の成果が紹介されています。この記事を例に、議論の構造について考えてみましょう。

注：このセクションでは、前セクションで述べたように、「事実」を「記述的主張」、すなわち〈ものはどうであるか、どうであるように見えるかという主張。調べる・実験する・体験するといった経験をすれば、誰でも確かめられる（経験して確かめるまで『確かさ』は保留される）「事実主張（factual claim）」あるいは「経験的事実（empirical fact）」〉と定義づけて用いています。

マウス、画風見分けた　慶大、巨匠の絵画で実験

実験動物のマウスはもともと夜行性で、目が悪いと考えられてきたが、実は絵画を見分け、画家の画風を認識する能力があることが、慶應大の渡辺茂名誉教授の研究でわかった。米科学誌プロスワン（電子版）に７日、論文を発表した。

渡辺さんは、抽象絵画の巨匠として知られるカデンスキーとモンドリアンの絵のペアをタッチパネルに表示するようにした。

特定の画家の絵を鼻でつついた時だけミルクがもらえる実験を４回繰り返したところ、マウスは、別のペアを見せられても８割近い確率でその画家の絵を正しく選べるようになった。

カデンスキーは自分の内面を表現するような画風で、モンドリアンは線分や点を描くのが特徴。マウスもそうした画風を区別できていることになる。

渡辺さんは「画家の特徴をとらえて一つのグループとして区別できることがわかった。何を手がかりに区別しているのか、今後調べていきたい」と話している。渡辺さんは。１９９５年、ハトがピカソとモネの絵を区別できることを報告している。

出典　2013 年 6 月 8 日付「朝日新聞」朝刊

この研究の議論を理解するためには、次のように議論構造を特定する（分析的に思考する）必要があります。

根拠　カデンスキーとモンドリアンの絵のペアをタッチパネルに表示するようにし、特定の画家の絵を鼻でつついた時だけミルクがもらえる実験を４回繰り返したところ、マウスは、別のペアを見せられても８割近い確率でその画家の絵を正しく選べるようになった。

↓ **推論**（根拠と結論をつなぐ関係）

結論　マウスには絵画を見分け、画家の画風を認識する能力がある。

このように具体的な議論から根拠と結論の関係だけを抽出したものを「論証」と呼びます。言い換えれば、論証とは一定の結論・主張を前提となる根拠から導き出すことです（これを「推論」と呼ぶこともあります)。また、論証における根拠とは、結論を導き出すよりどころとなる証拠・データのことであり、根拠は事実でなければなりません。

こうした議論構造を備えた思考は何も特別なものではありません。私たちの日常生活においても頻繁に見ることができます。たとえば、

「朝の天気予報で夕方の降水確率は50%だと言ってたよ」

「じゃあ、今日は傘を持って出かけるべきだよね」

といった会話は、次のような議論構造で成り立っています。

根拠　朝の天気予報で夕方の降水確率は50%だと言っていた

↓**推論**（だから・したがって）

結論　今日は傘を持って出かけるべきだ

「朝の天気予報で夕方の降水確率は50%だと言っていた」ことは、誰でも確認することができます（検証可能性です)。また、その事実を根拠にして「今日は傘を持って出かけるべきだ」という新しい情報を導き出しています。したがって、これも論証です。ただし、ここで注意すべきは、同じ根拠から「今日は傘を持って出かけるべきではない」という結論も導き出せることです。では、なぜ同じ根拠から相反する結論が導き出せるのでしょうか。それは前セクションで述べた論拠が異なるからです。「天気予報は信憑性が高い」という論拠を採用すれば「今日は傘を持って出かけるべきだ」という結論が導き出されます。でも、「天気予報は信憑性が低い」という論拠を採用すれば、「今日は傘を持って出かけるべきではない」となります。議論や論証を評価・吟味するときには、必ず論拠（隠れた前提）を見つけてください。

２．根拠の評価・吟味

議論構造を特定すれば、議論を評価・吟味することもできます。その方法の一つが次の指標の適用です。

根拠を評価・吟味する指標

①証拠・データの個数や範囲は適切か（偏りはないか)。

②公正・公平に比較対照されているか。

③可能性のある要因をすべて検討しているか。

マウスの画風認識能力の研究にあてはめれば、この指標を用いて次のように評価・吟味することができます。

①モンドリアンとカディンスキーの絵（抽象絵画）のペアだけで実験は十分か。複数のマウスで実験したのか。

②もう一方の画家の絵でミルクがもらえる実験をしても同じ結果が得られるか。（モンドリアンの絵でミルクがもらえる実験をしたと別の記事には書かれていた。）

③モンドリアンの絵は、水平線と垂直線のみによって格子状に分割された画面に三原色（赤・黄・青）と無彩色（白・黒・灰）の組み合わせですべてが構成されている。画風というより線分や四角形という幾何学的要素あるいは色だけをマウスは認識しているのではないか。あるいは、一定のパターンを記憶しているだけではないのか（「何を手がかりに区別しているのか、今後調べていきたい」と述べているが、手がかりの推測は容易である)。マウスが幾何学的要素を認識できるとしたら、画風を認識できること以上に興味深い結果ではないのか。

もう一つの方法は、推論の妥当性についての評価・吟味です。推論が納得できるかどうかは、追認可能性の高さにかかっています。「A。だからB」という推論において、AからBを導き出すときには少なからず飛躍（創造的な思考）を伴います。もちろん、飛躍があるから新しい情報を生み出せるのですが（飛躍がなければ何も新しい情報は生み出しません)、その飛躍には追認できるだけの合理性があるかどうか（無理なくジャンプできるかどうか)、その評価・吟味が必要となります。

［２］推論の種類

1. 演繹的推論

推論とは一定の結論を前提となる根拠から導き出すことであり、それは飛躍を伴う行為でもある、と前述しました。でも実は、推論には飛躍を伴わないものもあります。それが狭い意味で「論理」と呼ばれる演繹的推論（以下、演繹と呼ぶ）です。

［例１］

佐藤さんはトロピカルパフェか栗きんとんかのどちらかが好きである。（前提１）
佐藤さんは栗きんとんが好きではない。（前提２）
ゆえに、佐藤さんが好きなのはトロピカルパフェである。（結論）

これが演繹の具体例です。もう一つ例を挙げましょう。

［例２］

すべての鳥類は飛ぶことができる。（前提１）
ペンギンは鳥類である。（前提２）
ゆえに、ペンギンは飛ぶことができる。（結論）

このように前提を正しいとみとめたならば、結論も 100％正しいと認めなければならない（前提が真であれば、必ず結論も真になる）推論を演繹といいます。なぜ「100％正しい」「必ず真になる」結論が導き出されるかといえば、結論がすでに前提に含まれているからです。ただ、そのために演繹は新しい情報を生み出すことはなく、演繹によって情報量が増えることはありません。上の例でいえば、「佐藤さんはトロピカルパフェか栗きんとんかのどちらかが好きである」と「佐藤さんは栗きんとんが好きではない」のなかに、「佐藤さんが好きなのはトロピカルパフェである」という情報がすでに含まれています。「すべての鳥類は飛ぶことができる」と「ペンギンは鳥類である」という情報のなかに、すでに「ペンギンは飛ぶことができる」という情報が入っています。つまり、演繹は前提で述べられていない新しい情報を何一つ結論で述べていないのです。結論は前提のなかで暗に述べている情報を取り出しているだけであり、だから前提が 100％正しければ、結論は 100％正しいのです。

もちろん、前提が正しくない場合には、つまり［例２］のように「すべての鳥類は飛ぶことができる」という前提が正しくない（鳥類の中にはダチョウ、エミュー、キーウィ、ペンギン、ヒクイドリなど、飛翔能力の欠如している鳥が存在する）場合には、正しくない結論が導き出されます。しかし、演繹としては成立しています。前提や結論の正しさと演繹として成立しているかどうかとは別の問題です。

２．非演繹的推論

演繹とは対照的な性格をもつ推論が、非演繹的推論（以下、非演繹と呼ぶ）と呼ばれる「帰納」「投射」「類推（類比）」「アブダクション（仮説形成）」の 4 種類の推論です。この非演繹の特徴は、前提が正しくても、結論が 100％正しいとはいえない（必ずしも正しいとは限らない）ことです。しかし、前提には含まれていない情報が結論には付加され、情報量が増える推論でもあります。つまり、非演繹は、結論が蓋然的（ある程度は確か）であるかわりに、何らかの新しい情報を生み出すのです。

失敗したときに滋賀では「シモータ」と言う。京都でも「シモータ」と言う。大阪でも「シモータ」と言う。（前提）

ゆえに、近畿のあらゆる地域で、失敗したときに「シモータ」と言うだろう。（結論）

これは、個別の例から一般的な法則を導く帰納の例です。結論で一般的な法則ではなく、「ゆえに、奈良でも『シモータ』と言うだろう」と、別のケースについて推論するときには投射と呼ぶこともあります。

類推（類比）とは、「二つのものにいくつかの共通する性質があれば、一方にみられる性質はきっと他方にもあるはずだ」という推論です。「シイタケとツキヨタケは色、形、生え方に共通性があり、シイタケは食べられる。ゆえに、ツキヨタケも食べられるだろう」が、その例です（もちろんツキヨタケは毒キノコなので食べてはいけません）。

アブダクション（仮説形成）とは、起こった現象（観察された結果）をもっともうまく説明できる仮説を思いつき、形成する推論です。「南アメリカ東岸とアフリカ大陸西岸の海岸線がよく似ており、両大陸の古生代の植物化石も一致する。これは、もとは一つの大陸であった両大陸が水平移動した結果である」と主張したウェゲナーの大陸移動説が、その例にあたります。

このように、非演繹では私たちが見聞きした情報から、それを超える情報を導き出してくれます（まだ見ぬ世界を見せてくれます）。ただし、それは仮説であって、正しさまで保証してくれるわけではありません。だからこそ、非演繹では、「反証例はないか」「その共通点は二つのものの本質的な共通点といえるのか」「別の有力な仮説は立てられないか」といった吟味・評価が不可欠となるのです。

また、その仮説の確かさを高めるためには、演繹と組み合わせることも有効な方法となります（仮説演繹法）。2017 年 9 月 29 日の新聞に「アインシュタインが約 100 年前に存在を予言した『重力波』の観測に成功したと 28 日、イタリアなどの国際共同研究チームが発表した」という記事が載りました。非演繹で「仮説」を立て、演繹で仮説から「予言」を引き出し、その「予言」を確かめる。これは科学の重要な方法とされています。

［３］因果推論

１．因果推論とは何か

次の実験結果から、子どもは映画やテレビで暴力的シーンを見ると暴力的傾向や攻撃性が増すと結論づけられました。

> アルバート・バンデューラという心理学者は、子どもを対象にして次のような実験を行った。
> その実験は 2 つの段階からなっていた。第 1 段階では、子どもに映画を見せた。その映画には、ビ

ニールを空気でふくらませたボボという人形が出てきた。子どもたちは、「実験条件」（暴力を見る条件）か「統制条件」（暴力を見ない条件）にランダムに割り当てられた。実験条件の映画には、ボボが大人にぶたれたり蹴られたりするシーンがでてきた。一方、統制条件の映画には、ボボがいじめられるシーンはなかった。

第2段階では、子どもは別の部屋に連れて行かれ、そこに1人で残される。その部屋には、さきほど映画で見たボボの実物があり、子どもは「自由に遊んでいていい」と言われる。じつは、その部屋にはマジック・ミラーがあって、隣の部屋から，子どもが遊んでいる様子が観察できるようになっている。実験者は、子どもが何回ボボに暴力をふるったかを記録するのである。

もし、映画で大人の暴力を見ると、子どもが自分でも暴力をふるうようになるのだとすれば、実験条件の子どもたちは、統制条件の子どもたちより、暴力をふるう回数が多くなるに違いない。バンデューラが行ったこの実験では、まさしく、そのとおりの結果になったのである。

出典　高野陽太郎・岡隆［編］(2004)『心理学研究法』有斐閣、p. 21-22

上記のように、A「映画やテレビで暴力的シーンを見る」ことが原因となって、B「暴力的傾向や攻撃性」が結果として生じたとき、この二つのあいだに因果関係があるといいます。ただし、A（あるいはB）につられてB（あるいはA）も変化しているように見えるものの、原因と結果の関係にない場合は相関関係があるといいます。そして、AとBの関係が因果関係にあるかどうかを評価し、結論を導くことを因果推論と呼びます。

２．因果推論の吟味

目の前の結果（データ）を証拠として、その原因を探るタイプ（因果関係を探るタイプ）の推論を因果推論といいますが、あなたは次の因果推論に納得しますか。

テレビを長時間見ている子どもほど、成長過程で暴力的な傾向が現れる―という研究結果が公表された。

コロンビア大学のジェフリー・ジョンソンさんらが子どもたち七百人以上を17年間、追跡調査した。全体的な傾向としては、毎日最低1時間以上テレビを見ている子どもは将来、暴行やけんか、強盗などに関係するケースがすくなくないという。

14歳の時点で1日1時間以下のテレビ視聴時間の児童が、16‐22歳の間に暴力的な行為を引き起こした例は5.8％だったのに対し、1時間から3時間テレビを見ているケースでは22.5％、3時間以上だと28.8％に一気に跳ね上がることがわかった。

ジョンソンさんは「テレビが子どもたちにもたらす影響は調査結果から歴然」とし、家庭でテレビを見る時間をしっかり制限することが大切で、親は関心を持つべき―と強調している。

出典：「長時間ＴＶ見る子ほど暴力的？」2002年4月26日『産経新聞』

これはコロンビア大学がおこなった「追跡調査」とその「研究結果」を紹介した記事であり、「テレビを長時間見ている子どもほど、成長過程で暴力的な傾向が現れる」が「主張」です。そして、その主張を支援している「根拠」は、「14歳の時点で1日1時間以下のテレビ視聴時間の児童が、16‐22歳の間に暴力的な行為を引き起こした例は5.7％だったのに対し、1時間から3時間テレビを見ているケースでは22.5％、3時間以上だと28.8％に一気に跳ね上がる」というデータです。

言い換えれば、この記事では「14歳の時点で1日1時間以下のテレビ視聴時間の児童が、16‐22歳の

間に暴力的な行為を引き起こした例は 5.7%だったのに対し、1 時間から 3 時間テレビを見ているケースでは 22.5%、3 時間以上だと 28.8%に一気に跳ね上がる」という結果を「証拠」として、子どものときに「テレビを長時間見ている」ことが「成長過程で暴力的な傾向が現れる」原因である、というコロンビア大学の推論が示されているのです。

因果関係を探るタイプの因果推測には、ときに怪しいものがあります。たとえば、野球の実況中継で解説者の人が「代わった選手のところに打球が飛んでいく」とコメントをするのを何度か聞いたことがありませんか。あるいは、「満月の日には交通事故や殺人事件が多発する」といった話を耳にしたことがないでしょうか。もちろん、そんなことがあるはずはありません。ところが、そんな因果関係を私たちが容易に信じてしまうのは、別の選手のところに打球が飛んでも注目されないが、代わったばかりの選手のところに打球が飛ぶと注目され、強く印象に残ってしまうからです。

「満月」の話もそうで、交通事故や殺人事件が満月の日に起こると、事件と満月が結びつけられて「満月のときに起こった事件」として印象に残りやすい。ところが、同じような事件が満月でない日に起こっても、「満月でないときに起こった事件」として記憶に残るようなことはない。つまり、「満月の日の事故」というような意味のあるパターンの方が、「満月でない日の事故」といった意味のないパターンよりも、記憶に残りやすいのです（これを「パターンの非対称性」といいます）。そして、その記憶に残ったパターンが私たちに因果関係の成立を確信させてしまうのです。



そこで、このような推測（現象Ａ→現象Ｂ）がなされているときには、次のような指標で評価（吟味）する必要があります。

① たんなる偶然（パターンの非対称性が要因）ではないか
② 原因と結果を取り違えてはいないか（逆の因果関係の可能性はないか）
③ ＡとＢの二つに共通する原因（第 3 の要因）はないか（スプリアス効果＝複数の変数の表面上の相関関係が、どれも 1 つの共通の原因から生じていること）

この指標を用いれば、先述の「テレビを長時間見ていることが成長過程で暴力的な傾向が現れる原因である」という因果推論の妥当性を吟味することができます。

✎まとめ（Summary）

1. 何らかの主張、結論があり、それらが何らかの根拠と共に提示される場合、それを論証（推論）という。
2. 論証（推論）には、演繹的推論と非演繹的推論がある。
3. 演繹的推論とは、前提を正しいとみとめたならば、結論も 100%正しいと認めなければならない（前提が真であれば、必ず結論も真になる）推論である。
4. 非演繹的推論には、「帰納」「投射」「類推（類比）」「アブダクション（仮説形成）」の 4 種類があり、、前提が正しくても、結論が 100%正しいとはいえない（必ずしも正しいとは限らない）推論である。
5. 根拠の確かさは次の 3 つの指標で測れ。

①データの範囲や個数は適切か

②比較対照されているか

③可能性のある要因はすべて検討しているか

6.因果推論は3つの指標で吟味せよ。

①たんなる偶然（パターンの非対称性が要因）ではないか

②原因と結果を取り違えてはいないか（逆の因果関係の可能性はないか）

③ＡとＢの二つに共通する原因（第3の要因）はないか（スプリアス効果＝複数の変数の表面上の相関関係が、どれも1つの共通の原因から生じていること）

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

福澤一吉（2002）『議論のレッスン』（生活人新書）NHK出版

福澤一吉（2005）『論理表現のレッスン』（生活人新書）NHK出版

T.ギロビッチ著・守一雄・守秀子訳（1993）『人間この信じやすきもの』新曜社

§10:要約する

[1]要約とは何かー柱と柱以外を区別するー

文章には、建物とおなじように、柱にあたる部分とそれ以外の部分があります。消失した古代の建物が、柱の跡（柱の大きさや配置）を手がかりに復元されることがあります。つまり、柱がわかれば、全体の構造をつかむことができます。文章もおなじで、柱にあたる部分がわかれば、文章の全体の構造をつかむことができるのです。もちろん、建物の中で暮らすにあたって大事なのは、屋根であったり窓であったり、部屋の装飾であったり、柱以外の部分です。文章もおなじで、読んで面白いのは、細部の描写であったり巧みなレトリックであったり、小説であれば洒落た会話のやりとり（ストーリーからすれば飾りの部分）であったりです。けっして、柱だけの建物に住みたいとは思いませんし、ストーリー（あらすじ）だけを知りたくて小説を読むわけではありません。評論だって、著者の主張だけが知りたいわけではありません。具体例としてあげられているエピソードや横道にそれた雑談に、筆者のオリジナリティを感じることもできます。しかし、文章の柱がわかれば、迷路のように複雑な文章であったとしても、読み迷うことなく筆者の主張と論理をつかむことができます。また、柱が決まれば、建物の全体（大きさや高さ、部屋の配置等）が決まるように、文章の全体的な構造も決まります。

柱でイメージすることがむつかしければ、動物の骨格でイメージしてください。発掘された恐竜の骨格から、生きていたときの恐竜の姿が復元されることがあります。骨格がわかれば、筋肉のつき方や姿形、生活の仕方や食性までわかるといいます。つまり、そのような動物の骨格にあたるのが、建物や文章の柱なのです。

すなわち、文章の肉（具体例やエピソード、修辞的な表現）をそぎ落とし、文章の骨格（＝柱）だけをつかむことで、その文章では何がメインとして書かれているのか（筆者のメインの主張は何か）を端的につかむことができるのです。また、文章を書くときも、柱と柱以外を明確に区別して書くことで、読み手にとっても読みやすい構造化された文章になります。

ちなみに、野矢茂樹さんは文章を木に喩えて、幹と枝葉に区別しています。そして、「幹と枝葉を区別することは、自分で文章を書くときにも決定的に重要な力となる。その区別を無視して書くと、たんに藪のような文章になってしまうだろう」（野矢 2018、p. 132）と述べています。そして、「文章から枝葉を切り取り、幹だけを残す」ことが要約であり、この「要約の練習は、国語力を鍛えるもっとも効果的な方法なのである」（野矢 2018、p. 132）とも述べています。野矢さんの考えにまったく同意です。ただ、このテキストでは、幹と枝葉ではなく、柱と柱以外（骨格と肉づき）という言い方をしてきます。それは、文章を構造化されたものとしてとらえるとき、幹よりも柱（骨格）といった言い方のほうが適切と考えるからです。（なお、柱と柱以外という術語を用いて文章読解と要約の方法を最初に提唱されたのは、、国語教育の実践者であり研究者であった大西忠治さんです。）

では、以上のことを踏まえて、要約とその手順について、まとめておきます。

① 要約とは、文章の本質的な部分を抽出する抽象化の作業である。

② 要約のためには、まず文章が全体として何について書かれたものであるか（文章全体のテーマ）を見いだす。

③ テーマは、どのように組み立てられているか（文章の構造）をつかむ。そのために、柱（筆者の主張）と柱以外（その主張に説得力をもたせるための工夫）の関係をつかむ。

④　テーマと筆者の主張を柱にして、上の構造をわかりやすく単純なものにする。そのとき、不要と見なした柱以外の要素は切り捨て（元の文章の書かれている順序も無視し）、柱を使ってまとめる。

1　そのときに、時系列や因果関係に従って語句や文を並び替える。

2　繰り返しや冗長な表現は省き（あるいは簡略化し）、具体例や比喩なども捨てる（不要な部分を省く）。

3　とくに「言いたいこと（筆者の主張）」を中心として、組み立ての上で関係の深い段落の内容を因果関係や時系列を整理して指定字数にまとめる。

［２］柱と柱以外の関係

要約ができるためには、柱と柱以外、言い換えれば、柱の文と柱以外の文、柱のことばと柱以外のことばの関係が把握できなければなりません（上記手順の③）。柱は、その機能上、柱以外を包括する表現になっており、その関係は次の３つパターンに整理できます。

(1)［柱］＝［詳しい説明や比喩で柱を言い換えている］

例１　①日本の大学の先生たちには、今でもある種の知識網羅主義が蔓延していますね。②つまり、ある分野の知識をすべて穴のないような仕方で学生たちに教え込まなくてはいけないという、ある種の生真面目さです。③教科書に書かれていることはすべて授業でやらなくてはいけない、授業で教えていないことは試験に出してはいけない、だから授業では単元に関連する全体を教えるという高校までの受験勉強型の教育が大学まで続いてしまっているのかもしれません。

出典：苅谷剛彦・吉見俊哉（2020）『大学はもう死んでいる？』集英社新書、p.65

①（主張：柱）＝［②＋③］（換言）

例２　①目的を達成するために、彼らは「くさび戦略」を用いた。②自分たちの信仰を人々の議論の場にくさびのように打ち込む、という意味である。③その方法は、進化をただの「理論」に格下げして、自分たちのＩＤと同等なものとして扱うことを求め、学校でもそう教えさせること。

出典：デビッド・ロバート・グライムス著 長谷川圭訳（2020）『まどわされない思考』角川書店 p.305

注：ＩＤ＝Intelligent Design（インテリジェント・デザイン）の略。宇宙や生命は、人知を超えた偉大な知性によって設計され創造されたとする理論。

①（主張：柱）＝［②＋③］（解説）

(2)［柱］＝［例や事実で柱をわかりやすくしている］

例３　①現在の制度や慣習が、（現代の人々の都合よりも）歴史的な経緯によって大きく形づくられることは広く知られており、社会科学では経路依存性と呼ばれている。②経路依存の例としてよくもち出されるのは、ＱＷＥＲＴＹ式キーボードである。③キーボード上段は左からＱ・Ｗ・Ｅ・Ｒ・Ｔ・Ｙ……と奇妙な配列になっている。この配列は現代ではなんら合理性がないが、歴史のある時点ではたしかに合理性を備えていた（一九世紀におけるモールス符号の送信上の都合だという）。その事情は時代ともに失われたが、すでに市場を席巻してい

たＱＷＥＲＴＹ配列は二一世紀にもレガシーとして生き残ったのである。

出典：寺沢拓敬（2020）『小学校英語のジレンマ』岩波新書、pp. 150-151

①（主張：柱）＝［②＋③］（例）

例４　①スピリチュアリズムの流行は、水をめぐる悪しき言説へも波及している。②きれいな言葉で話しかけると美しい氷の結晶ができ、汚い言葉だと美しくない氷の結晶ができるという氷の結晶神話「水からの伝言」などはその一端だろう。③また、「ピュア」で「清潔」な水への過度の信仰は、怪しげな還元水の跋扈を許している

出典：渡辺政隆（2020）『一粒の柿の種』岩波現代文庫、p. 163

①（主張：柱）＝［②＋③］（例）

(3)［柱］←［柱を支援する理由や根拠、条件、前提を述べている］

例５　①《想定事故を上回る事故が仮りに起これば、それは、いわば天災の類であって、当事者にとって免責とされる》（『原子力工業』一九七三・九）

②やはり事故は起こりうるのである。

出典：井上ひさし（2020）『井上ひさし発掘エッセイ・セレクション　社会とことば』岩波書店、p. 93

①（根拠）→②（主張：柱）

例６　①そもそも情報処理はタダではできない。②時間とかエネルギーといったコストがかかる。③ヒトの脳の重さは体重の 2%なのに、摂取した全エネルギーの 18%も使っている。④一方、処理すべき情報は多様で大量。⑤しかもまったなしだ。⑥そうすると、正確さや厳密さばかりを求めてコストをかけすぎるのは有利な戦略ではない。

出典：戸田山和久（2020）『教養の書』筑摩書房、p. 162

［①＋②＋③＋④＋⑤］（理由）→⑥（主張：柱）

上記のように、［詳しい説明や比喩］［例や事実］［理由や根拠、条件、前提］によって支援されている表現（文やことば）を「柱の文」や「柱のことば」と呼びます。そして、柱の文や柱のことばは、柱以外の文やことばを包括しているので、当該文章の要約となっていることが一般的です。段落における小主題文（トピック・センテンス）も、その段落の柱の文にあたります。したがって、小主題文（トピック・センテンス）をもって、その段落の要約とすることができるのです。各段落の小主題文をつなげれば、その文章全体の要約をつくることもできます。逆にいえば、それをつなげれば文章全体の要約になるような文を、まず小主題文（トピック・センテンス）＝柱の文としてつくることが、文章全体を構造化するうえで、不可欠であるといえるでしょう。建物をつくるときに、まずは柱の太さや高さ、配置を決めて、柱を立てることから工事をはじめるのと同じです。

具体例について、補足的に解説しておきましょう。

例１で使われている「つまり」は、先行文脈の内容をわかりやすく言い換えることを予告する置換（換言）の接続表現です。「すなわち」「ようするに」「いかえると」「換言すると」「いわば」「いってみれば」なども同類の接続表現です。ただ、「すなわち」は言い換えるときに書き手の主観や解釈がもっとも入りにくい接続表現（記号論理の「＝」に近い）ですが、「つまり」は内容や表現を読み手にわかりやすくなるように咀嚼しようとするため、書き手の主観や解釈が入りがちです。しかし、読み手の理解に寄り添う

ようにわかりやすく表現しようとしていることは確かです。ただ、「つまり」は結論を導くのにも用いられます。ときに、結論を導くのか、内容を説明するのか、判別がつきにくいケースが多々あり、両方を兼ね備えたかたちでも用いられます。

例２は、②文で①文中の「くさび戦略」ということばの意味を説明し、さらに③文でその内容を詳しく説明しています。

例３は、①文中の「経路依存性」ということばについて、②文で例をあげて読み手にわかりやすくしています。例４も、②文で２つの例をあげて、①文を理解しやすくしています。

例５は、井上ひさしさんの「反原発運動は保険料である」(『朝日ジャーナル』1988 年 8 月 6 日 13 日合併号、朝日新聞社）という批評文の一部です。原子炉安全委員会委員長（当時）であった東大の内田秀雄教授が、雑誌のインタビューで、日本の原子炉では「事故は起こりません」と言い切っていました。例としてあげたのは、その記事を読んだ井上さんが、内田教授の以前の発言「《想定事故を上回る事故が仮りに起これば、それは、いわば天災の類であって、当事者にとって免責とされる》(『原子力工業』一九七三・九)」（①文）を根拠にして、「やはり事故は起こり得るようである。」（②文）と主張している部分です。そのあと、井上さんはこう続けています。「インタビューの中で二度も繰り返された『起こりません』は冗談だったのだ。そして起こってもそれは天災だから原発をつくった側は責任がありません、とチラリ本音が出た」。山形に生まれた井上さんは 2010 年 4 月 9 日に亡くなっていますが、その一年後に起こった福島第一原発事故を目の当たりにしていたら、と思ってしまいます。

例６は、①～⑤文を前提として、⑥文「正確さや厳密さばかりを求めてコストをかけすぎるのは有利な戦略ではない」の結論が導き出されています。

柱と柱以外の関係を考えることは、演繹的思考と帰納的思考を行き来することでもあります。演繹的思考とは、抽象度の高い理論的な表現から、少しずつ具体的なことがらへ論理的に推論をすることで、具体化していく思考です。帰納的思考とは、具体的なことがらをもとに推論することで、そこから一般化し、抽象度を上げていく思考です。苅谷剛彦さんのことばを借りれば、この２つの思考の往還（行ったり来たり）によって思考は深まるのです。文章を書くときも、柱と柱以外を考えることで、抽象と具体を往還する思考の訓練ができるといえます。

［３］要約の実例

では、次の文章を、先述した要約の手順に則って実際に要約してみましょう。

> ①何世紀にわたってヨーロッパでは、白い肌は大陸最北地域に限定される現象だったのだ。②この状況が変わったのは、近東から最初の農民がやって来たときだ。③彼らは明るい肌と暗い肌の両方の遺伝子をもっていた。④彼らが土着の狩猟採集民と交配し、時間がたつにつれて、ヨーロッパ全土で明るい肌の色が一般的になっていったのである。⑤かつてはまれだった遺伝子変異体ＳＬＣ２４Ａ５が大陸全土で爆発的に増えたのだが、それが起こったのはわずか五千八百年前に過ぎない。⑥つまり、本質的な特徴などと呼べるものではないということ。⑦白い肌が一般的なものになるまでに、長い年月にわたって多くの異なるグループの交配が必要だったのだから。⑧白人至上主義者は自らの人種的純血を誇示するが、この態度は欺瞞であり、不快だと言わざるをえない。

出典：デビッド・ロバート・グライムス著 長谷川圭訳（2020)『まどわされない思考』角川書店 p. 305

⑥文に「つまり」という接続表現が使われています。これは先述したように、結論を導く「つまり」と

考えられます。すなわち、①～⑤文を根拠として、「(白い肌が、白人の) 本質的な特徴などと呼べるものではない」という結論を導いている、あるいは①～⑤文を総括していると読みとれます。⑦文は、①～⑤文を抽象化・一般化した表現 (①～⑤＝⑦) で、文末に「から」とあるように、⑥文の理由にあたります。つまり、①～⑤文と⑦文は、⑥文に包括されているのです。そして、この⑥文を根拠に、⑧文「白人至上主義者は自らの人種的純血を誇示するが、この態度は欺瞞であり、不快だと言わざるをえない」という主張を導いているのです。したがって、この文章の柱の文は⑧文ということになり、この一文をもって要約とすることができます。

ただ、要約するときには、何字で要約するかという条件がつきます。もっとも短く (句読点を含んで 40 字程度で) 要約すると、

要約１：白人至上主義者が自らの人種的純血を誇示する態度は欺瞞であり、不快である。(36 字)

となります。

もう少し長めに (句読点を含んで 60 字程度で) で要約するときは、⑥文 (根拠) を入れて、

要約２：白い肌は白人の本質的な特徴ではないから、白人至上主義者が自らの人種的純血を誇示する態度は欺瞞であり、不快である。(56 字)

となります。根拠や理由、前提を要約するときに入れるかどうかは、その文章における根拠や理由の重要度と要約の字数によって決めることになります。

さらに長めに (100 字程度) で要約するならば、⑦文 (①～⑤文を抽象化した文) を加えて、

要約３：白い肌が一般的なものになるまでに、長い年月にわたって多くの異なるグループの交配が必要だったのだから、白い肌は白人の本質的な特徴ではない。ゆえに、白人至上主義者が自らの人種的純血を誇示する態度は欺瞞であり、不快である。(108 字)

となります。

✎まとめ (Summary)

1. **要約とは、文章の肉 (説明や具体例、修辞的な表現) をそぎ落とし、文章の骨格 (＝柱) だけをつかむ (文章の本質的な部分を抽出する) 抽象化の作業である。**
2. 要約のためには、文章の**柱と柱以外 (柱の文と柱以外の文、柱のことばと柱以外のことば) の関係を、まず把握すること。**
3. **［詳しい説明や比喩］［例や事実］［理由や根拠、条件、前提］が柱以外となり、これらは要約するときにはそぎ落とす。**
4. 思考は、**抽象と具体を往還 (行ったり来たり) することで深まっていく。**

✎さらに学びたい人へ (Further reading)

大西忠治 (1981)『説明的文章の読み方指導』明治図書

大西忠治 (1991)『大西忠治教育技術著作集　説明的文章「読み」の指導技術』明治図書



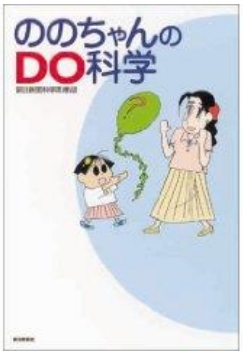
§11:説明する

［1］「説明する」とはどういうことか

§1で次のように述べました。、「文章は、相手に読ませて、その相手の考えや状況・行動を変える（目的）ために書くものです。相手の考えや状況を変えるとは、何らかの事実を知らしめたり、書き手の判断・評価を書いて納得・同調させたり、問題を提起して考えさせたり、危機的状況を書いて行動への意志をもたせたりする、ということです」(p.2) と。

説明する文章とは、上記で述べた「何らかの事実を知らしめる」ことを主な目的として、事実が「どのようであるか」をわかりやすく述べる文章です。

2013年2月16日付「朝日新聞」の「Do科学」というコーナーに「なぜ雨雲は黒いの？」というタイトルで、次のようなコラムが掲載されています。その一部を紹介します。（このコラムはいしいひさいちの4コマ漫画の登場人物である「ののちゃん」と「藤原先生」の対話で構成されています。）



ののちゃん　このまえ大雨が降ったとき、雲が真っ黒だったよ。白いときもあるし、色はなぜ変わるの？

藤原先生　たしかに晴れの日に空に浮かんでいる雲は、白く見えるわね。これは雲そのものに色がついているわけではないのよ。

のの　どういうこと？

先生　雲はとても小さな水の粒がたくさん集まってできていて、その水の粒が太陽の光をあちこちに反射させることで、私たちには白く見えているのよ。雲そのものの色は、あえて言うならば透明かな。

のの　透明なのに色が変わるの？　よけいにわからなくなっちゃった。

先生　太陽の光について説明するわね。私たちに見える光は、（省略）

…省略…

のの　それなら、黒い雲は光を吸収するから黒いの？

先生　それは違うの。（省略）

のの　厚い雲ってどれくらい？

…省略…

のの　太陽が出ていない夜でも、雲が白く見えることがあるのはなぜ？

先生　それは月の光が原因ね。ただ、太陽の光よりずっと弱いから厚い雲だと真っ暗なはず。月の光以外でも、街にあふれている灯りが空の低いところにある雲を照らして、白く見えることもあるわよ。

ののちゃんの「どういうこと？」「なぜ？」という疑問に答えることで、藤原先生は「なぜ雨雲は黒いのか」を説明しています。説明する文章とは、この「ののちゃん」のような読み手を想定して、予想される疑問・質問に答えるように書いていく文章であるともいえます。

〈大きな状況から小さな状況へ〉〈全体から細部へ〉〈抽象から具体へ〉〈既知から未知へ〉が説明するときの原則ですが、そのタイプには「手順・過程」「分類・列挙」「例示・引用」「比較・対照」「定義・喩え」「原因・結果」などがあります。

では、タイプ別に説明する文章の実例を見ていきましょう。



［２］説明する文章のタイプ

⑴「手順・過程」タイプ

よく見かける手順を説明する文章の１つが、「道順（行き方）案内」です。

例１　以下は、JR 山手線高田馬場駅から徒歩で点字図書館へ行く順路です。まず、早稲田口改札を出て、階段を６段下りて直進し、駅コンコースから早稲田通りに出ます。その早稲田通りを右方向すなわち早稲田大学方面に、早稲田通り右側歩道を直進します。８分ほど歩くと、早稲田通りと明治通りとの大きな交差点に出ます。次に、そこを点字ブロックに沿って右折し、明治通りを新宿方面に直進します。５分ほど歩くと、明治通りと諏訪通りとの諏訪町交差点に出ます。新宿方面に横断歩道を渡って直進します。そして、30ｍほど直進すると、１階にセブンイレブンの入ったマンションがあり、その次の建物が毎日新聞社早稲田別館です。その１階には点字出版所が入っています。毎日新聞社早稲田別館と新宿北郵便局の駐車場入り口との間の通路を入り、10ｍほど直進します。階段を５段上り、さらに５ｍほど直進します。最後に、門扉を開けて、右斜め前方向に５ｍほど進みます。点字図書館は、右側の建物の外階段を上った２階にあります。

出典：「東京ヘレンケラー協会」ホームページ（一部加工）

手順・過程は、時間的順序に沿って説明します。何よりも順序を明確にする必要があるので、「まず」「次に」「そして」「さらに」「最後に」など、ものごとや動作・行動の順序を表すメタ言語を使います。また、「８分ほど歩くと」「30ｍほど直進すると」のように、「ＡするとＢ」「ＡしたらＢ」といった動作・行動の順序を示す表現を用います。とくに手順は、相手が知らないことを教えるわけであり、もし読み手がまちがった手順で動作・行動すれば、まったく目的が達成されず、多大な負担をかけることになります。したがって、具体的な数字を入れるなど、ていねいでわかりやすい説明が特に求められます。

例２は、止血の過程を説明している文章です。

例２　自然治癒は、生きている証であるが、皮膚の内部ではさまざまな物質が働いている。②まず、皮膚が損傷を受けると、傷口に血液中の血小板が集まり、血液を固めて止血する。働き始めた血小板によって、血管の血管内皮から傷口の接着・凝固が始まる。そして一次止血栓と呼ばれる物質ができる。今度はその一次止血栓より放出される因子によって血液中の繊維素（フィブリン）が絡み合って血液が外に漏れるのを防ごうとする。傷口にネットを張るようなもので、赤血球のような大きなものはここに引っかかる。するとこれが血餅となり、完全に止血される。

出典：今泉忠明（2014）『小さな生物たちの大いなる新技術』（KK ベストセラーズ）

ここでも、「まず」「そして」「今度は」「すると」といったメタ言語が効果的に用いられています。〈大きな状況から小さな状況へ〉〈全体から細部へ〉が説明の原則であると述べましたが、例１も例２も、冒頭で「以下は、JR 山手線高田馬場駅から徒歩で点字図書館へ行く順路です」、あるいは「自然治癒は、生

きている証であるが、皮膚の内部ではさまざまな物質が働いている」と、全体（大枠）を提示して、細部を時間的順序に沿って説明しています。

次の「分類・列挙」タイプも、〈大きな状況から小さな状況へ〉〈全体から細部へ〉および〈抽象から具体へ〉という原則に則って書かれています。

⑵「分類・列挙」タイプ

例３　「黒人が集団として優れた身体能力をもつ」というステレオタイプな言説の登場を可能にした三つの前提を指摘したい。第一は、黒人アスリートの数的、比率的な増加である。第二は、スポーツ競技が国際化し、プレゼンスの高まった黒人アスリートを、白人が無視できなくなったことである。第三は、国際化にともなったナショナリズムの高揚である。これらが身体能力ステレオタイプを形成したのである。

出典：川島浩平（2012）『人種とスポーツ』中公新書

例 3 は、「三つの前提を指摘したい」と全体を示し、「第一に」「第二に」「第三に」と「三つの前提」を列挙しています。次の例 4 は、動物の飼い方を二つに分類して説明しています。

例４　ひとはさまざまな動物を飼ってきた。その飼い方は二つある。一つは、家畜として。一つはペットとして。前者はひとが使用するものであり、後者はひとが愛玩するするものである、とさしあたって言うこともできよう。

出典：鷲田清一「つかう―使用論ノート　第 5 回」（『月刊 本の窓』2015 年 9･10 月合併号、小学館

「二つある」と予告し、「一つは」「一つは」「前者は」「後者は」といったメタ言語で、分類を明確にしています。分類するときには、一定の基準や同次元（同階層）のカテゴリーで分類することが重要です。言い換えれば、相互にダブリがなく、全体としてモレがない分類でなければなりません。「ペット愛好家は犬派と猫派に分けられます。犬派は、…」という分類では、ウサギ愛好家やフクロウ愛好家はモレてしまいます。

例５　農林水産省のミネラルウォーターの品質表示ガイドラインでは、採水した水に殺菌処理をした容器入りの飲料水を「ミネラルウォーター類」と呼び、殺菌処理の方法により次の 4 つの品名に分類しています。ナチュラルミネラルウォーター、ナチュラルウォーター、ミネラルウォーター、ボトルドウォーターの 4 種類です。日本で販売されている商品としては、日本の天然水、森の水だより、エビアン、ボルヴィックなどがあります。

※出典を明記していない例文は創作です。

ミネラルウォーターは、カルシウムやマグネシウムといったミネラルの含有量を指標にして、硬度と硬水に分類することもできます。「農林水産省のミネラルウォーターの品質表示ガイドライン」であれ、「ミネラルの含有量」であれ、基準（指標）によって分類の仕方が変わってきます。したがって、どのような基準（指標）によって分類したのかも明示することが必要です。

前述したように、分類では相互にダブリがなく、全体としてモレがないことが必須の要件ですが、「日

本の天然水、森の水だより、エビアン、ボルヴィックなど」の列挙においては、代表的なもの（あるいは一般的なもの）があげられていればかまいません。

⑶「例示・引用」タイプ

例６　黒人を「天性のアスリート」とするイメージは、ネット上だけでなく、大学などの教育現場にもあるようだ。たとえば講義や演習で「黒人だから強い」「黒人は速い」という言葉をしばしば耳にする。その発言は人種差別になる可能性があると指摘すると、「ほめてなぜ悪い」「事実だから仕方ない」といった反論に出くわすことも少なくない。短距離種目のような陸上競技のコーチングの現場では、「日本人は『技能（スキル)』を磨かない限り、『黒人の天性』に対抗できない」という指導を受けると聞く。このように、「黒人の身体能力は生まれつき優れている」という主張にあふれている。

出典：川島浩平（2012)『人種とスポーツ』中公新書

例７　一九二〇年代はアメリカ国内でも白人スポーツ選手の黄金時代であった。黒人選手は依然として周縁的存在でしかなかった。しかし一九三〇年代に入ると様相は一変する。

新しい時代の到来をもっとも早く感知した一人エドウィン・Ｂ・ヘンダーソンは、一九三〇年に黒人紙『アフロアメリカン』で次のように述べ、期待のほどを伝えている。

> 黒人は天性の運動選手のようだ。彼らは白人と同じように足が速く、技能が高く、強い肉体を持っている。白人選手と競争しても堂々とふるまうことができる。極度の劣等感に苦しんでいるとき以外は、どんな運動競技でも勝利をめざして精一杯闘うことができる。

(Henderson, *Afro-American*, May31, 1930)

黒人選手が実際に彼の期待に応えるまでにさらに数年が必要であったが、この言葉は時代を先取りするものだった。

出典：川島浩平（2012)『人種とスポーツ』中公新書

例６は、「たとえば」という接続表現によって、「大学などの教育現場」における「黒人を『天性のアスリート』とするイメージ」の具体例を示しています。例７は、引用によって「一九三〇年代に入ると様相は一変する」事実を具体的に説明しています。

プラグマティズムの創始者であるパースが提唱した「プラグマティズムの格率（規則)」と呼ばれている定式があります。

> ある対象の概念を明晰にとらえようとするならば、その対象が、どんな効果を、しかも行動に関係があるかもしれないと考えられるような効果をおよぼすと考えられるか、ということをよく考察してみよ。そうすれば、こうした効果についての概念は、その対象についての概念と一致する。

出典：上山春平・山下正男訳（1968)「パース　論文集」上山春平責任編集『世界の名著　48』中央公論社、p. 89

この直後の段落で、パースは、このプラグマティズムの格率（規則）について、次のような実例をあげて説明しています。

> 以下、いくつかの実例をあげて、右の規則を説明してみよう。最初に、できるかぎり単純な実例からはじめるために、「ある物を硬い、という場合に、わたしたちが何を意味しているのか」を検討してみたい。

まず明らかなのは、硬いといわれる物が、多くの物に引っ掻いて傷をつけられるようなことはない、ということである。硬さという概念は、あらゆる他の性質にかんする概念の場合と同様に、この性質によるものと考えられる影響と一致する。

出典：前掲書、p. 89

「硬い」という概念は「その物で他の物を引っ掻いたとしても、傷つけられない」という意味で解される、というのです。つまり、「～とは何か」に答えるには、「～すれば、～する」というように、操作的行動とその効果で具体的に説明すればよい（と私は解釈してきました）。（私の解釈は誤りかもしれませんが）ここように「具体例・実例で考える」というのは、説明するときにきわめて有効です。パースも、「以下、いくつかの実例をあげて、右の規則を説明してみよう」と述べていますが、実例を示すことは、説明の基本かもしれません。

「外延」「内包」という概念があります。外延とは、ある概念の適用されるべき事物の範囲を指します。金属という概念の外延は金・銀・銅・鉄などです。内包とは、ある概念の適用される範囲（外延）に属する諸事物が共通に有する徴表（性質）のことです。　金属の内包は「常温で固体である（水銀を除く）」「塑性変形が容易で、展延加工ができる」「不透明で輝くような金属光沢がある」「電気および熱をよく伝導する」「水溶液中でカチオン（陽イオン）となる」の５つです。演繹と帰納、抽象と具体の往還が思考を深めると§10 で述べましたが、外延と内包においても同じことがいえます。内田樹さんが、外延で考えることについて、次のように語っています。

僕が言いたいのは、「大きさとか、広がりとか、深さとか、温度とか、速度とか、とにかく計測可能な手がかり（『取りつく島』）を持っているもの」（哲学用語では「外延」と呼びます）はなんとか制御できるけれど、「善」でも「悪」でも、抽象概念は具体的なかたちをとらない限り制御不能だということです。

（略）「現代人は愛しうるか」という問いをめぐって百万語を費やしても、たぶん「愛」の実感に触れることはできない。それより、「愛についての議論」を語りすぎてのどが渇いた相手に冷たい水の入ったグラスを「はい」と差し出す行為の方がはるかに「愛とは何か」について教えてくれる。そういうことです。

具体的で、限定的で、断片的なものの方がある概念をしっかりとかたちにしてくれる。その方が「腑に落ちる」。これは僕の直観です。観念を弄んでもどこにもたどりつけない。それよりは具体的なものから始める方がいい。

今の例で言えば、「愛とは何か」という不毛な議論の途中に「はい」と差し出す水については「水温は何度か」「グラスの清潔さはどれくらいか」「差し出す手の動きはどの程度か」「のどの渇きはどの程度か」というような定量的吟味が可能です。そして、「汚れたグラスに水道から数時間前に汲んできたぬるい水をまわりにびしゃびしゃこぼしながらぐいと差し出した」場合には、それはあまり「愛」について教えてくれないということもわかります。どこかに定量的な分岐点がある。そこを超えると差し出したグラスが「愛のしるし」であると解釈することがたいへんむずかしくなる。そういう損益分岐点のようなものがある。

出典：内田樹「戦争よりもひどいもの」『新潮 45』2013 年 7 月号、新潮社, p. 134

「具体的で、限定的で、断片的なものの方がある概念をしっかりとかたちにしてくれる。その方が『腑に落ちる』」というのは、先述したパースのプラグマティズムの格率（規則）に通じるものがあります。

私が教師になったばかりのころ、私の師匠から「あなたが具体例を思いつかないようなら、あなた自身がそのことを理解できていないということなのだから、そんなことは教えないほうがいい」と言われたことがあります。私の師匠の教えも、まったくおなじことを意味しています。何かを説明しようとするとき、まず具体例・実例を思い浮かべてください。

⑷「比較・対照」タイプ

比較は類似点について言及し、対照は相違点について言及するといったニュアンスが多少ありますが、厳密に区別する必要はないでしょう。ただ、どちらであっても、観点を明確にして比較や対照がなされなければなりません。

例８　「黒人」の境界線が恣意的であることは、文化が異なると人種の数え方がまったく異なることからもわかる。「世界にはいくつの人種が存在するのか」という問いに対して、日本人の大学生の多くが「三つ」と答えることがわかっている。それは日本の小学校や中学校の社会科教育で、白人・黒人・黄色人種からなる三人種区分が今日なお教えられているからである。

対照的にアメリカには、「人種は三つ」と数える大学生はほとんどいない。大学生の答えは「人類という種一つのみ」とするものから、「個人の数だけ人種がある」とするものまで、単純に整理できないほど実にさまざまである。これは、アメリカの小学校や中学校では「人種」が定義されたり、説明されたりすることがないからである。一人ひとりは、自分の経験や考えに基づいて答えている。

出典：川島浩平（2012）『人種とスポーツ』中公新書

例 8 は、「人種の数え方」という観点で、日本とアメリカの大学生の考え方を比較・対照し、「『黒人』の境界線が恣意的である」ことを明らかにしています。

例９　猫はまっすぐに舌を水面につけて引き上げるから、飛び散らかさない。これと比較して犬は舌の先端を曲げて水をすくい取るようにして飲む。それでピチャピチャ音がし、水があたりに飛び散るのである。

出典：今泉忠明（2014）『小さな生物たちの大いなる新技術』（KK ベストセラーズ）

例 9 は、舌の使い方という観点で、猫と犬の水の飲み方を比較しています。

例 10　彼（ドガ―引用者注）の画風は、モネやルノワールなど、ほかの印象派の画家たちの作風とは明らかに異なっている。たとえば、モネが描いた風景画の中では、時々刻々と移ろいゆく光が主人公となっていたし、ルノワールが描いた人物画は、ふわりとした淡いタッチが特徴だった。そのどちらも、ドガの作品の中にはない。

原田マハ「絶対絵画 第 9 回エトワール エドガー・ドガ」（『青春と読書』2015 年 9 月号、集英社

例 10 は、ドガを「モネやルノワールなど、ほかの印象派の画家たち」と比較・対照して説明しています。その観点は画風です。また、「たとえば」とあるように、例示によって比較・対照されています。こ

のように、説明する文章では、複数のタイプの組み合わせがよくみられます。説明する文章のタイプは一つの理論モデルであると考えてください。

次に示す例 11 は、国内産と欧州産のミネラルウォーターを比較・対照していますが、軟水か硬水か、殺菌・除菌の処理がされているか無殺菌・無除菌であるか、というように比較・対照の観点を対応させています。

例 11　ミネラルウォーターの国内産と欧州産には違いがある。それは、次のような点である。国内産は、ミネラル分の少ない火成岩が多い地質のため、軟水である。軟水は、香りや味を抽出しやすいので、昆布や鰹の出し汁に使えば旨みが出やすいという特性がある。また、汲み上げられた原水は砂などを取り除いた後、殺菌・除菌の処理がされている。一方、欧州産は、ミネラル分の多い堆積岩が多い地質のため、硬水である。硬水は、肉料理に使うと肉の蛋白質とカルシウムが結合し、アクとして抜けるという特性がある。また、水源周辺に家畜の立ち入りや農薬散布を禁じる対策をおこなっているため、無殺菌・無除菌である。以上がミネラルウォーターの国内産と欧州産の違いである。

⑸「定義・喩え」タイプ

説明する場合には、読み手に負荷をかけないために、できるかぎり理論語ではなく観察語を使います。観察語とは、〈感覚に訴えてきて、直接的にその有無を判断できる、そして感覚に訴えてくるものについてだけを記述すればそれで済んでしまう内容を示す語で、その使用にあたり顕性（感覚に訴えられる性質）化の条件をさほど明示しないで使用できる語〉のことです。たとえば、「ミネラルウォーターの国内産と欧州産には違いがある」と書いてあれば、「ミネラルウォーター」も「国内産」「欧州産」も、感覚で理解することが容易です。

一方、理論語とは、〈使用範囲と使用条件が明記されている必要がある語で、背景に理論的制約があり、使用にあたり顕性化の条件を明示しないと使用できない語〉のことです。理論語はキーワードとも呼ばれることもありますが、議論をするときに上記のような理論語（キーワード）を使わなければならないこともあります。その場合は。用いる理論語の「使用範囲と使用条件」を限定し（その語句の意味や概念内容を特定し）、読み手に明らかにしておく必要があります。そうしないと、読み手の理解に支障をきたしてしまいます。そして、この「使用範囲と使用条件」を限定する（その語句の意味や概念内容を特定する）ことを、「定義」と呼びます。

観察語か理論語かは、事前に決まっているわけではなく、議論の内容や文脈によります。「愛」という語句も、「ある種の人々にとって愛というのはすごくささやかな、あるいは下らないところから始まるのよ。そこからじゃないと始まらないのよ」（村上春樹『ノルウェイの森』上のなかの会話）というように日常生活で用いられるときには、「愛」の定義は不要です。しかし、「愛」をテーマに議論する場合には、それを定義しておかないと、議論がかみ合合わないことになりかねません。（1970 年公開の映画『ある愛の詩』に、「愛とは決して後悔しないこと」という台詞があったことを思い出しました。この「愛」も観察語です。高校生であった私は、「愛」が定義されなくても納得できました。）ただ、もう気づいたかと思いますが、この「定義」と先述した「例示」は、内向と外延、抽象と具体の関係にあります。定義にばかりこだわると抽象的な不毛の議論になりかねないので注意が必要ですが、逆にキーワードを大雑把に使うと思考を停止させるマジックワードになりかねません。「わかってるつもり」「あたりまえ」の罠に陥ら

ないためには、定義も重要です。

次に示すのは、新聞に載ったコメントの一節です。

東日本大震災と東京電力福島第 1 原発の事故から 1 年を迎えましたが、「放射線パニック」は収まる気配がありません。放射線被ばくによる健康被害は「今のところゼロ」です。

出典：出典：中川恵一（東京大学医学部付属病院准教授）「リスクを見る目を養う」『毎日新聞』2012 年 3 月 11 日

放射線被ばくによる健康被害は「今のところゼロ」だから「放射線パニック」には根拠がない、と主張しています。この主張は妥当でしょか。鍵になるのは「健康被害」あるいは「健康」という概念です。「健康」とは、どのように定義されるのでしょうか。WHO 憲章では、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、完結した状態にあることをいいます。」と定義しています。そして、多くの人が仮設住宅での避難生活を余儀なくされていた当時の状況は、「精神的にも、社会的にも、完結した状態」からはほど遠いといえます。つまり、WHO 憲章の定義からすれば、避難生活そのものが「健康」からはほど遠く、「放射線パニック」が起きていること自体が「健康被害」であり、「放射線被ばくによる健康被害」は「今のところゼロ」などとはいえないのです。このように、「健康」というキーワードを「病気ではない」程度の大雑把なとらえかたで済ましてしまえば、その時点で思考停止に陥ることになるのです。

例 12 では、「身体能力」が議論のキーワードとなるため、それをまず定義しています。

例 12　「身体能力」とは、スポーツを行う能力のうち身体に直接関連し、または由来する部分を強調した言葉である。「身体能力」は、「フィジカルな力」とも言い換えられる。概念としては、近年、アメリカ英語で頻繁に使われる「アスレティシズム」にきわめて近い。アスレティシズムは元来、19 世紀のイギリスで「運動競技熱」の意味で用いられ、そののちアメリカで知性的に劣ることをはじめ、人種差別的な含みを持った言葉として用いられている。つまり、「身体能力」とは測定不能な観念にすぎないのである。

出典：川島浩平（2012）『人種とスポーツ』中公新書

喩え（比喩）を使うとわかりやすくなることがあります。そのため、小学校や中学校の教科書ではよく使われています。たとえば、電流を水流に喩えて、「豆電球の直列回路を流れる電流はどこで計っても同じ大きさです。電流が流れて豆電球が光を出しても、電流は小さくなりません。これは主流の途中で水車を回しても、水の量は変わらないことと同じです」（中 2 理科）と説明しています。また、古典の係り助詞について、「『笛を腰にささりたり』に係り助詞『ぞ』を入れて『笛をぞ』とすると、笛が強調されます。こういう係り助詞が入ると、文末は『腰にさされたる』と変わります。係り助詞は、整列しているところに割り込むようなものです。割り込まれると、後ろの列はもう一度並び直して形を変えます」（中 2 国語）といった説明をしています。

例 13 は、関東大震災直後に起こった朝鮮人虐殺の事実を否定する説（虐殺否定論）について、「それも一つの説で、諸説あってもいいでしょう」という考え方が成り立たないことを、源義経とアポロ 11 号めぐる俗説を喩えにして説明しています。

例 13　世の中には、源義経は平泉で死なずに大陸に渡ってジンギスカンになったのだとか、アポロ 11 号は実は月には行っていないとか主張する人々がおり、そういう本がある。では、こうした主張が歴史学の世界で「学説」として認められているかといえば、そんなことはない。何でも主張さえすれば「学説」として認められるわけではないのだ。

「朝鮮人虐殺はなかった」とか「朝鮮人暴動はデマではなく事実だった」などという主張も同様だ。関東大震災直後、流言によって多くの朝鮮人が殺されたことを否定する「説」は歴史学の世界では存在しない。

出典：加藤直樹（2019）『トリック』ころから、p. 18

例 14　酪農家は以後、毎日、乳を搾っては廃棄せざるをえなくなった。まるでシジフォスが強いられたのとおなじ不条理な作業である。

出典：鷲田清一「つかう―使用論ノート　第 5 回」（『月刊 本の窓』2015 年 9･10 月合併号、小学館

例 14 は、福島第一原発事故で飼っていた牛が放射能汚染を被った、という記述につづく一節です。「まるでシジフォスが強いられたのとおなじ」が喩えですが、「シジフォスなんて知らないし、意味わからん」という人もいるかもしれません。そのとおりです。「シジフォス」のエピソードを知っているかどうかで、この文章の理解がちがってきます。だからこそ、文章を読むためには、古典の知識（それを教養と呼びます）も必要なのです。

ちなみに、シジフォスとは、ギリシャ神話に登場するコリントの王です。彼は、ゼウスの怒りを買い死に神を送られますが、死に神をだまして捕らえたため、しばらく死ぬ者が絶えたといいます。そうした重なる悪業の罰として、シジフォスは地獄で巨大な岩を山頂へ押し上げる苦行を課せられますが、押し上げた岩はすぐさま谷底に転がり落ちます。そこでまた岩を山頂へ押し上げるとまた転がり落ちる…という果てしない徒労の繰り返し（永遠のむなしい苦行）を課せられます。このシジフォスの喩えによって、「毎日、乳を搾っては廃棄せざるをえな」いという福島の酪農家の「不条理」が、よりリアルに伝わってきます。

戸田山和久さんが、「作り手が作品に隠した仕掛けがうまういくには、多くの人が『はいはい、あれでしょ』と理解でき、そのような理解が成り立つことを作り手も期待できるような、共通の知識基盤が必要になる。『古典（クラシック）』と呼ばれているものは、そういう知識基盤のコアだ。（略）ブッダの生涯と仏教についてある程度知識がないと『聖☆おにいさん』だって楽しめないぞ。（略）人生からより多くの楽しみを引き出すためには、それなりの知識が必要なのである」（戸田山和久『教養の書』筑摩書房、2020 年、pp. 45-51）と述べています。これは、映画や小説を楽しめるためには、その作品の外にある知識が必要であることを述べている一節です。

柳家喬太郎の落語『道灌』に、ご隠居が八っつあんに太田道灌がどういう人かを説明するくだりがあります。

隠：あるときこの道灌公が御家来と連れだって、山中に狩競にお出かけになったんだな。

八：あーそりゃてえへんだ。殿様だねさすがね。酒池肉林だ。ねー。この、奴隷なんか侍らして……食っちゃ寝、も一色んなことを……。

隠：……それは「カリギュラ」だな。なぜそういうことだけは知ってんのかな。不思議な男だな。

このくだりを例にして、戸田山さんは、「狩競（かりくら）とカリギュラを引っかけた駄洒落だが、ご隠居の諦念に満ちた口調と、長屋での会話にいきなりローマ皇帝の名前が出てくる意外性が相俟って、客席はドッと沸いていた。でもこれって、カリギュラを知らないと面白くもなんともないよね」（前掲書 p. 64）と述べています。

映画であれ、小説であれ、落語であれ、共通の知識基盤（そのコアとなる「古典」の知識）があるかどうかで、理解と楽しみの深浅は決まってくるのです。「ここはわかってね」と、ときには読み手の教養を信頼して書くことも必要であり、また逆に書き手からの信頼に応えられるような教養を身につけておく努力も必要でしょう。そうしなければ、わたしたちの書く文章はどんどん干涸らびたものになってしまいます。

例 15 では、本を読むときの「わくわく感」を、ラーメンを食べるときの「わくわく感」で喩えています。

例 15　電子書籍によって紙の本がなくなってしまうという人がいますが、そういうことを言う人は本をあまり読まない人じゃないかと思います。いや、最新の情報にキャッチアップするために、情報入力のために本を読むことはすうるけれど、わくわくどきどきしながら時間を忘れて没入するために本を読むという経験があまりない人じゃないかと思います。

ご飯を食べるのだってそうでしょう。真っ暗な部屋で、テーブルに置かれた大皿からラーメン啜ってたべても、ぜんぜん美味しくない。あれは、あとどのくらい汁が残っているとか、二枚目のチャーシューはそろそろ食べていいだろうかとか、最後の一口を口中に投じるときの麺とメンマのバランスは頃合いであろうかという、全体のプログラムの中で腹具合を按分しながら食べるから美味しいのであって、あとどれくらい麺や汁やチャーシューが残っているか「わからない」まま真っ暗なところで食わされても美味しくもなんともない。

僕たちは本を読むときにただ情報を取り入れるためだけに読んでいるわけじゃああありません。わくわくしたくて読んでいるのです。そのわくわく感というのは、ラーメンを食べるときに、つるつる食べ進むにつれて、食欲がしだいに満たされ、最後の一口をごくりと嚥下するときに空腹感がぴたりと収まるように計画しながら食べるときと同じで、自分で無意識のうちに「快楽の下絵」を描いているから得られるものなのです。

出典：内田樹（2016）『街場の文体論』文春文庫、pp. 63-64

例 15 のように、「喩え」は、曖昧模糊としたものごとの輪郭をくっきりとさせてくれたり、ときに複雑で難解なものごとをシンプルでわかりやすいものにしてくれたりします。しかし、シンプルにすることで、ものごとの本質的な部分を損なうこともあるので、注意してください。脳をコンピュータで喩えたり、コンピュータを脳のメタファーとしてとらえたりする説明もありますが、それはまちがった理解だと、下の文章は指摘しています。

以前、脳の機能はコンピュータになぞらえて考えられていた。脳は入力と出力をもつ装置であって、感覚情報をさまざまな処理段階に送り込み、最終的に終点まで伝えるというわけだ。

しかし、この流れ作業モデルに疑いの目が向けられるようになった。というのも、脳の配線は単純にＡからＢ、そしてＣへとつながっているのではなく、ＣからＢ、ＣからＡ、そしてＢからＡというフィードバックのループがあることがわかったからだ。脳のあちこちで、正方向に送るフィードフォワードと同じくらいフィードバックも起こる――専門用語で再帰、俗にループしているといわれる、脳の配線だ。

出典：デイヴィッド・イーグルマン著・大田直子訳（2016）『あなたの知らない脳』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、p. 75

したがって、喩えを使って説明するときには、次の 2 つのことに留意すべきです。

一つには、相手が知っていること（十分わかっていること）で喩えなければなりません。「知らないこと」を「知っていること」に結びつけるからこそ、「知っていること」のイメージを手がかりに「知らないこと」が理解できるのです。しかし、読み手も当然「知っている」という前提が通用しないこともあります。豆電球を水車に喩えても、相手が「水車」を知らなければ、説明は伝わりません。私も授業で、スイスの伝説の英雄「ウイリアム・テル」を喩えに使って失敗したことがあります。息子の頭の上にのっているリンゴをクロスボウから放った矢で射抜いたというエピソードを誰も知らなくて、「ウイリアム・テルの行為は、予防原則に適っていない」という説明が伝わりませんでした。

二つには、喩えはあくまで喩えであり、そのものではないということです。電流は電流であって、水流ではありません。係り助詞は係り助詞であって、行列に割り込みをする人ではありません。喩えのどのポイントが喩えられるものと共通しているのかを明確にしないと、思わぬ誤解を生んでしまいます。

⑹「原因・理由」タイプ

例 16 は、「黒人コミュニティの若者」にもたらされた「深刻な問題」を、その原因を示すことで説明しています。

例 16　身体の能力神話に支えられた運動競技熱は、黒人コミュニティの若者に深刻な問題をもたらした。多くの黒人は、出世するには運動選手になるしかないと、いとも簡単に思い込み（知的野心をきっぱり拒絶し）、プロスポーツ選手になるという見果てぬ夢を追い求める。しかし、もっとも成功の可能性が高いとされるフットボールでさえ、20 歳から 39 歳までの黒人男性でプロになれるのは、わずか 4 万 7,600 人に 1 人にすぎない。黒人男性で弁護士や医師を生業とするものが 6 万人いるのに比べ、プロアスリートとして生計を立てられる黒人男性は 3,000 人にすぎない。要するにスポーツへの執着は、黒人青少年を将来性のない袋小路へ追い立てることになったのである。

出典：川島浩平（2012）『人種とスポーツ』中公新書

以上、説明する文章のタイプについて述べてきました。これらのタイプはあくまで便宜的なものですが、みなさんが説明を工夫するときの手がかりとして活用してください。

✎まとめ（Summary）

1. 説明する文章は、 読み手の「なぜ？」「どういうこと？」といった予想される疑問・質問に答えるように書いていくことを基本としている。

2.〈大きな状況から小さな状況へ〉〈全体から細部へ〉〈抽象から具体へ〉〈既知から未知へ〉が説明するときの原則である。
3. 説明する文章には、説明を工夫する手がかりとなる「手順・過程」「分類・列挙」「例示・引用」「比較・対照」「定義・喩え」「原因・結果」などのタイプがある。

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

飯間浩明（2011）『伝わる文章の書き方教室－書き換えトレーニング 10 講』（ちくまプリマー新書）筑摩書房

福澤一吉（2010）『論理的に説明する技術－説得力をアップする効果的なトレーニング法とは』（サイエンス・アイ新書）ソフトバンク クリエイティブ

福澤一吉（2007）『科学的に説明する技術－その仮説は本当に正しいのか』（サイエンス・アイ新書）ソフトバンク クリエイティブ

§12:コピペと言われない(正確に引用する)

[1]剽窃・パラフレーズ・引用

学問・研究においては、自分の言葉と他人の言葉、自分の考え（アイデア）と他人の考え（アイデア）、自分の発見と他人の発見、それらを明確に区別しなければなりません。なぜなら、学問・研究には、独創性（オリジナリティ）が求められるからです。もし、他人の研究（言葉やアイデア、発見）を自分の研究のように偽った場合、それは「剽窃」「盗用」（簡単に言えば「盗み」）と呼ばれることになります。剽窃・盗用（plagiarism プレイジャリズム）は学問的な倫理に反するとともに、アカデミックな世界では非常に重大な犯罪です。また、何よりも先人たちの業績に対して敬意を逸した行為でもあります。

大学生はすでにアカデミックな世界の一員であって剽窃は絶対におこなってはなりません。インディアナ大学の「Plagiarism: What It Is and How to Recognize and Avoid It」 というガイドでは、「剽窃」を「情報の出所を明確に認めることなく、他者のアイデアや言葉を使用すること」として、剽窃を回避するには、次のことに注意しなければならないと述べています。

次のものを利用するときはいつでもクレジットをつけなければなりません。

- ・他人のアイデア、意見、または理論
- ・人びとが共通に知っていること（common knowlege）ではないような事実、統計、グラフ、図面など、あらゆる情報
- ・他者が話したことばや他者が書いた文章の引用
- ・他者が話したことばや他者が書いた文章のパラフレーズ（言い換え）

そして、「これらのガイドラインは、学生の権利、責任、および行動規範に基づいている」と述べています。ただ、「人びとが共通に知っていること」というのは、線引きがむつかしいといえます。何が「人びとが共通に知っていること」で、何が「オリジナルな主張・発見」かは、その専門分野に精通していないとわからないからです。「5 冊以上の本などで出典なしに挙げられている」ことをもって、「人びとが共通に知っていること」とする、という提案もあるようです。もう一つ厄介なのはパラフレーズですが、これは次のセクションで詳しく扱うことにします。

参考文献：“Plagiarism: What It Is and How to Recognize and Avoid It” Writing Tutorial Services,Indiana University,Bloomington https://wts.indiana.edu/writing-guides/plagiarism.html（参照日：2020.4.15）

[2] 参考文献の明示と正確な引用

学問・研究の成果物である論文・レポートにおいては、参考文献を明示し、引用を正確におこないます。これがなされていないと、先行研究の成果を踏まえていない独りよがりな「研究」とみなされてしまいます。もちろん、自分の言葉や考えと他人の言葉や考えを区別すべきなのは、論文・レポートに限るわけではありません。どのような文章であっても必要なことです。

中学生の次のような投書が新聞に掲載されました。

> 小学生から参考文献記そう
> 中学生　藤本俊（東京都　14）
> 僕は小学校 3 年生から 3 年間、中東カタールのアメリカンスクールで学んだ。そこでは、リポート提出の際、参考にした本やインターネットといった出典を書くことが求められた。タイトル、著者、

本の場合は刊行日、サイトなら最終更新日など。参考文献を書かないと高評価を得られず、場合によっては未提出とみなされた。当然だが、コピー・アンド・ペースト（コピペ）は盗作につながるため、やってはいけないと指導された。

6 年生の秋に日本に帰ってきたら、図書館で本を読み、情報を調べても、参考文献を書くように先生から言われなかった。コピペについての指導もなかった。僕は日本でも参考文献を書くように指導したほうがいいと思う。盗作防止の意識を持てるし、小学生のうちから参考文献を書くようにすれば、それが習慣になる。参考にした文献の著者を尊重することにもつながると思う。

出典：「（声）若い世代から」『朝日新聞』2014 年 5 月 26 日

文章を書くときに参考文献を明記することは、世界標準のルール（常識）なのです。だから、2017 年告示の小学校および中学校の学習指導要領解説国語編には、「情報の扱い方」の指導事項に「引用の仕方や出典の示し方」も提示されたのです。



Google の論文検索サイト Google Scholar（グーグル・スカラー）のトップページの下に「巨人の肩の上に立つ」ということばがあります。これは、アイザック・ニュートンがロバート・フックに宛てた書簡の中で使ったことばです。彼は「デカルトの成したことは、よき一歩でした。あなたはいくつかの方法で、特に薄膜の色を哲学的な考察の対象とした点で、多くをつけ加えました。もし私がさらに遠くを見ることができたとするならば、それは巨人たちの肩の上に乗ったからです」と述べたといいます（中島 1996、p. 222）。

参考文献：中島秀人（1996）『ロバート・フック ニュートンに消された男』（朝日選書）朝日新聞社

「巨人の肩」とは、「先人たちが積み重ねてきた知の業績」を意味しています。万有引力の法則や微積分法といった偉大な発見を成し遂げた天才・ニュートンでさえ、先人の功績に敬意を表し、その上に自らの業績があることを明言しているのです。引用とは、そうした先人への敬意を込めて、どのような先人の業績を踏まえているのかを明確に示し、さらに自分がどこまで先へと進めたのか（自分の新しい発見やアイデアは何か）を明らかにするためのものなのです。

自分の考えや主張・意見を書くのが論文やレポートであるのに、他者の考えや主張・意見を引用するのは、自分の論文やレポートと何らかの関連性のある論文やレポートが必ずあるからだともいえます。そして、その関連性には二つのパターンがあります。一つは自分の考えや主張・意見に「類するもの」であり、もう一つは自分の考えや主張・意見に「対するもの」です。

そこで、引用は機能的に 2 つに分類することもできます。

1. 自分の論述を裏づける「根拠・証拠」としての「引用」

   その分野の大家の主張であれば、そのバックには主張を裏づける膨大な研究の蓄積があるということが共通に認識されている。

2. その分野の「先行研究」あげて批判的に検討するための「引用」

   自分が主張しようとしている点は、過去のどの「先行研究」とどの点に異同があるのかを示さなくてはならない。

1. は、同じ立場の主張や権威者の言説、統計資料や図表を引用して自分の主張をアシスト・補強するための引用です。引用は自分の主張を支える証拠の信頼性を高めるうえできわけて重要です。すぐれた先行研究があり、その成果を踏み台にすれば。さらに先へと自分の考えを推しすすめていけるのであれば、それを活用しないという手はありません。2. は、異論や反論を提示することで、自分の考えや主張・意見の「新しさ（オリジナリティ）」を鮮明にするための引用です。いずれであっても、だからこそ引用は正確でなければならないし、引用元である参考文献も明記されなくてはならないのです。正確でなければ（また、引用元が明記されていなければ）「根拠・証拠」としての信頼性は担保されないし、的外れな批判にもなりかねません（引用のない批判は的外れな批判と思ってまちがいありません）。なぜなら、正確な引用と引用元である参考文献の明示がなければ、読み手による検証・追認も困難だからです。

［3］引用の作法

1．直接引用

「直接引用」とは、他人の著作物から、そのままのかたちで文章などの内容を取り入れることです。狭義の引用とは、直接引用のことです。

〈直接引用のルール〉

- 本文と引用した部分が明確に区別できるように、引用した部分は一重カギ括弧「　」で明示します。長くなるときには、引用文の前後一行をあけ、文頭を下げる等の方法もあります。
- 引用は必要な部分のみにしましょう。質的にも量的にも、本文が「主」、引用した部分が「従」という関係であることが引用の条件の一つです。
- 引用は正確にしましょう。表現を変えたり、文脈を無視したりする引用は認められません。
- 引用する文章に誤植や誤記があっても、表記されているとおり忠実に引用しましょう。ただし、誤植・誤記等にあたる語には（原文ママ）あるいは（ママ）と付記します。

〈引用例〉

引用の始まり

アンパンマンは子ども向けアニメの中でも、きわめてユニークなヒーローである。それはヒーローが自分の顔を食べさせるところにある。やなせ（2008）も「子どもたちにいちばんウケたのは、アンパンマンが頭をかじらせるところでした」（p. 18）と語っている。では、なぜアンパンマンがかじられるところがウケたのだろうか。

引用の終わり

著者の名字（発行年）と引用頁を「　　」の直前・直後に書き、出典を簡潔に明示します。

- （やなせ 2008、18）というように、著者の名字と発行年と頁を「　　」の直後に書く場合もあります。
- 頁は引用元の文献の何頁から引用したかを記します。
- 発行年と頁は、半角英数字を用います。（18 頁）と書くこともあります。
- 頁が複数にまたがる場合は、（pp. 18-19）というようにハイフンでつないで記します。
- 書名や出版社等の詳細については、本文の後ろに掲載する引用文献表や参考文献表に書きます。

２．間接引用

「間接引用」とは、著作物の内容を自分のことばで要約して取り入れることです。広義の引用で、「参考」ともいいます。

〈間接引用のルール〉

・間接引用する場合は、引用が始まったことを明示する文言を入れます。

〈引用例〉

そして、大平（2003）によれば、この『赤ずきん』という童話は、「食う・食われる」攻撃的な関係は「食べさせる・食べさせてもらう」という交流の関係に勝てないというお話であるという（p. 69）。

著者の名字（発行年）と引用頁を要約の直前・直後に書き、出典を簡潔に明示します。

・（大平 2003、69）というように、著者の名字と発行年と頁を要約の直後に書く場合もあります。また、要約が引用文献全体の要旨である場合は頁を記さなくてもよい。
・頁は引用元の文献の何頁から引用したかを記します。
・発行年と頁は、半角英数字を用います。（69 頁）と書くこともあります。
・頁が複数にまたがる場合は、（pp. 69–70）というようにハイフンでつないで記します。
・書名や発行所等の詳細については、本文の後ろに掲載する引用文献表や参考文献表に書きます。

３．特定の書籍の記述に依拠して論を展開する

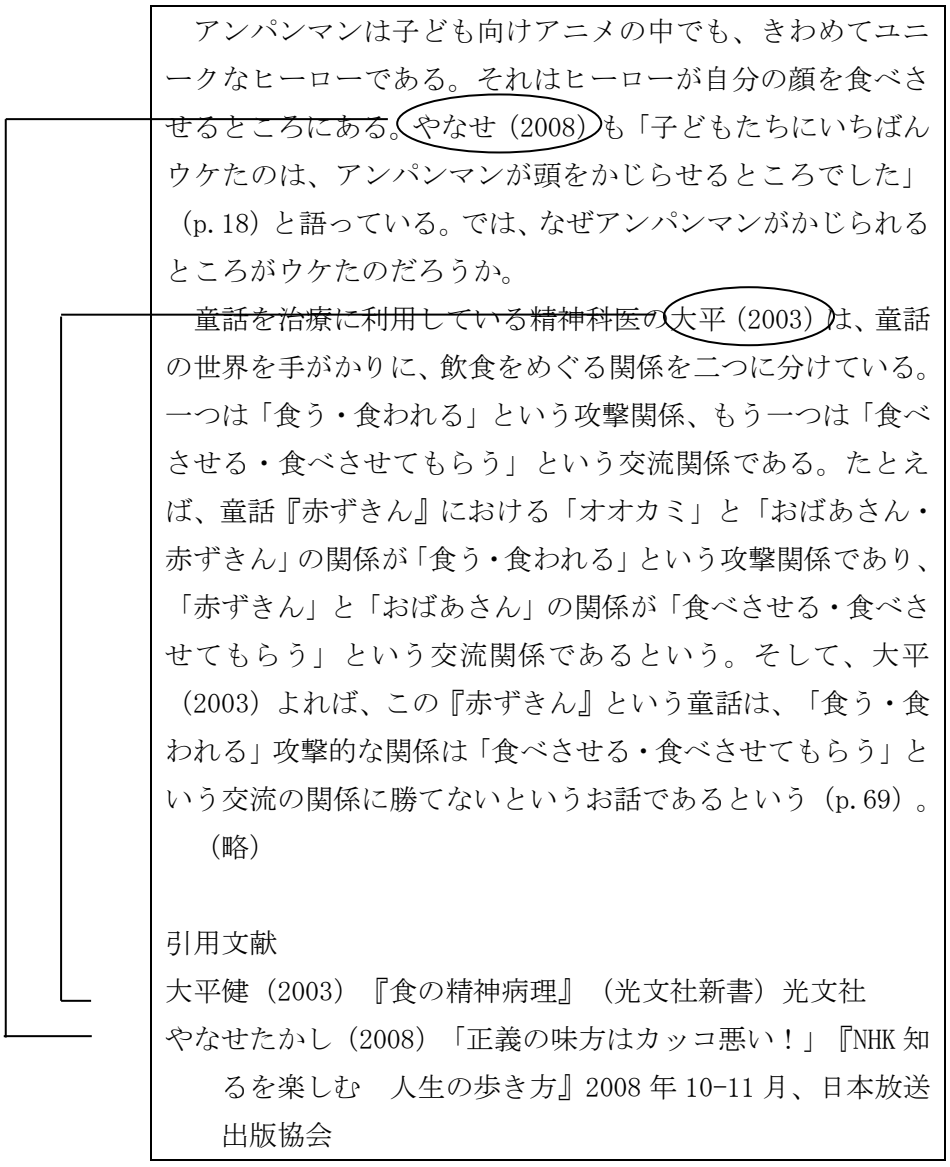
以下の記述は、事実関係については、概ね眞並恭介の『牛と土　福島、3.11 その後。』（2015 年、集英社）に依ることをお断りしておきたい。

事故後、牛たちが生き延びられるような畜舎から放牧場に放って土地を離れた飼い主がいた。近所に

この奇怪な理説については、これからしばらく宮澤正典、デイヴィッド・グッドマンの『ユダヤ人の陰謀説－日本の中の反ユダヤと親ユダヤ』（1999 年、講談社）の記述に従って解説してゆきたい。もともと、私自身の日本の反ユダヤ主義についての知識の過半はこのお二人の年来の研究に依拠しているので、以下の記述のうちに私のオリジナルな知見というのはほとんど含まれていない。

４．参考文献・引用文献（出典）の示し方

本文中の引用部分では簡略な出典情報だけを注記し、本文終了後に詳細な出典情報を引用文献表・参考文献表としてその一覧を掲載します。



アンパンマンは子ども向けアニメの中でも、きわめてユニークなヒーローである。それはヒーローが自分の顔を食べさせるところにある。やなせ（2008）も「子どもたちにいちばんウケたのは、アンパンマンが頭をかじらせるところでした」（p. 18）と語っている。では、なぜアンパンマンがかじられるところがウケたのだろうか。

童話を治療に利用している精神科医の大平（2003）は、童話の世界を手がかりに、飲食をめぐる関係を二つに分けている。一つは「食う・食われる」という攻撃関係、もう一つは「食べさせる・食べさせてもらう」という交流関係である。たとえば、童話『赤ずきん』における「オオカミ」と「おばあさん・赤ずきん」の関係が「食う・食われる」という攻撃関係であり、「赤ずきん」と「おばあさん」の関係が「食べさせる・食べさせてもらう」という交流関係であるという。そして、大平（2003）よれば、この『赤ずきん』という童話は、「食う・食われる」攻撃的な関係は「食べさせる・食べさせてもらう」という交流の関係に勝てないというお話であるという（p. 69）。

（略）

引用文献

大平健（2003）『食の精神病理』（光文社新書）光文社

やなせたかし（2008）「正義の味方はカッコ悪い！」『NHK 知るを楽しむ　人生の歩き方』2008 年 10-11 月、日本放送出版協会

出典が明示してあっても、引用が多すぎると問題になります。引用部分は、最大でも論文・レポートの 2 割程度にとどめましょう。

［4］参考文献表・引用文献表の作り方

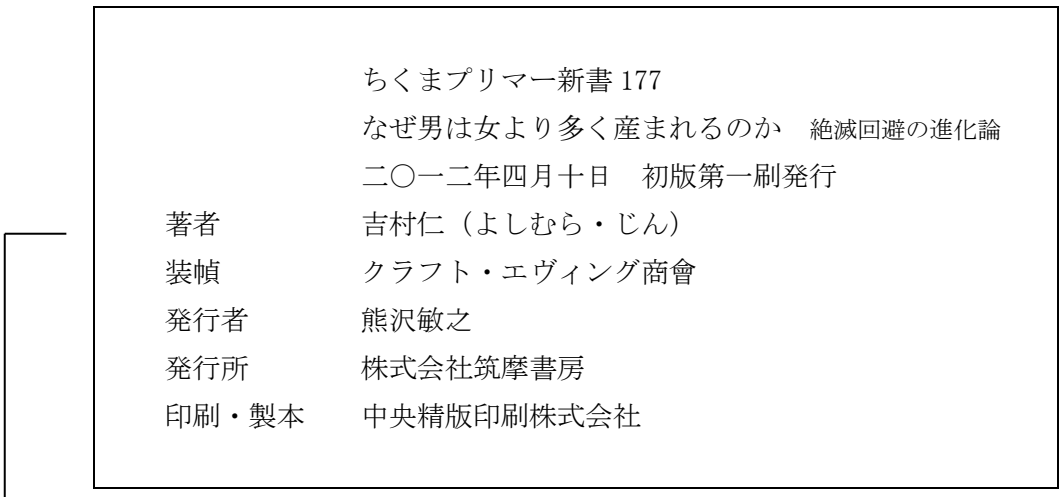
1．参考文献表・引用文献表の作成ルール

- 文献表は本文末にまとめて掲載します。
- 日本語文献は著者の名字の五十音順に記載します。
- 英語文献は著者の名字（ラストネーム）のアルファベット順に記載します。
- 名字が同じ著者の場合、日本語文献は名前の五十音順、英語文献は名前（ファーストネーム）のアルファベット順に記載します。
- 一つの文献情報が 2 行以上になる場合は、2 行目以降を全角スペース二つ分下げます。
- 同じ著者の複数の文献を掲載する場合は、発行年の古いものから先に掲載します。

２．書誌情報の書き方

文献表を作成するときに必要な著者名・出版年・発行所などの書誌情報は、本の最終頁付近にある奥付に書かれています。

奥付



ちくまプリマー新書 177
なぜ男は女より多く産まれるのか　絶滅回避の進化論
二〇一二年四月十日　初版第一刷発行

著者	吉村仁（よしむら・じん）
装幀	クラフト・エヴィング商會
発行者	熊沢敏之
発行所	株式会社筑摩書房
印刷・製本	中央精版印刷株式会社

参考文献

吉村仁（2012）『なぜ男は女より多く産まれるのか　絶滅回避の進化論』（ちくまプリマー新書）筑摩書房

a.論文の場合

著者名（出版年）「論文題名」編集者名『論文の掲載された本』出版社名、掲載ページ

村野井均（1997）「子どもはテレビをどう読んでいるか」鈴木みどり編『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』世界思想社、pp. 15-20

※2 行以上になるときは、2 行目以降を全角スペース二つ分下げる。

著者名（出版年.月）「論文題名」編集者名『論文の掲載された雑誌』巻数-号数、掲載ページ

b.単行本の場合

著者名 or 編集者名（出版年）『本の題名』（文庫・新書・叢書の表記）出版社名

大庭健（2004）『所有という神話』岩波書店

石原千秋（2009）『国語教科書の中の「日本」』（ちくま新書）筑摩書房

※同作者の同年の著作を 2 冊以上記載する場合は、年号の後に a、b とアルファベットを付す。

石原千秋（2013a）『近代という教養』（筑摩選書）筑摩書房

石原千秋（2013b）『教養として読む現代文学』（朝日選書）朝日新聞社

c.翻訳書の場合

原書者（原著の出版年）*原著の書目*. 原著の出版地：出版社. 翻訳者『翻訳書の書名』（翻訳書の出版年）翻訳書の出版社

Bruner, J. S. (1996) *The Dulture of Education*. New York：Harvard University Press. 岡本夏木他訳『教育という文化』(2004) 岩波書店

原著者（翻訳書の出版年）『翻訳書の書名』（翻訳者）翻訳書の出版社

デューイ,ジョン（2010）『公衆とその諸問題』（植木豊訳）ハーベスト社

※翻訳書の場合も著者名は姓名の順番で書く（「ジョン,デューイ」ではなく「デューイ,ジョン」とする）。

d.新聞の場合

執筆者名「記事名」『新聞名』記事分類（編集局所在地）発行年/月/日・朝夕刊の別 版数（ページ）：引用段

沢木耕太郎「銀の街から　ハート・ロッカー」『朝日新聞』文化（大阪）2010/3/9・朝刊 13 版（19）：5 段

e.インターネットで発表・公表されている論文・資料

著者名「ページのタイトル」『サイト名』最終更新日、サイト運営者（サイト名と著者名が同一でない場合）〈ＵＲＬ〉（閲覧日）を記載する。

厚生労働省大臣官房統計情報部「平成 24 年人口動態統計月報年計（概数）」『厚生労働省ホームページ』〈http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai12/index.html〉（2014 年 2 月 1 日閲覧）

✎まとめ（Summary）

1. **学問・研究においては、自分の言葉と他人の言葉、自分の考え（アイデア）と他人の考え（アイデア）、自分の発見と他人の発見、それらを明確に区別しなければならない。**
2. **学問・研究の成果物である論文・レポートにおいては、参考文献を明示し、引用を正確におこなわなければならない。**

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

今野真二（2015）『盗作の言語学－表現のオリジナリティーを考える』（集英社新書）集英社

藤田節子（2009）『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』日外アソシエーツ



§13:パラフレーズする

［1］「パラフレーズ」とは何か

パラフレーズとは、「キーワードや重要なフレーズや文を別の言葉でわかりやすく言い換えること、あるいは段落など文章の一部または全体を、テキストの主旨、物事の経緯や理由など、ある観点に沿って再構成することです。要約では、もとの文章を忠実に圧縮することで、ものとの文章のキーワードはそのまま使います。一方、パラフレーズでは、自分がその文章をどのように理解したかを、自分の言葉に置き換えて再構成します。

したがって、要約とはちがって、テキストの内容や構成について検討するとき、パラフレーズには自分がそのテキストをどう読んだかが表れるため、お互いの理解が明らかになります。では、どのような文章であれば、パラフレーズとして認められるのか。実例で説明しましょう。

［2］パラフレーズの実例

次の文章はソースティン・ヴェブレンの『有閑階級の理論』(高哲男訳、ちくま学芸文庫、1998、p. 129-130）の一部です。

> 人目につく消費を支持するこのような差別化の結果生じてきたこと、それは、衆目の前で送られる生活の公開部分がもつ輝かしさに比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、ということである。同じ差別の派生的な結果として、人びとは自らの個人的な生活を監視の目から守るという習慣を身につける。何の批判も受けず秘密理に遂行しうる消費部分に関して、彼らは隣人との接触を完全に断ち切ってしまう。こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる。したがってまた、かなり間接的な派生物ではあるが、プライバシーと遠慮という習慣――あらゆる社会の上流階級がもつ礼儀作法の規範体系のなかでも、きわめて重要な特徴――が生じることになった。なんとしても面目を保てるような支出を実行しなければならない羽目に陥っている出生率の低さは、同様に、顕示的消費にもとづいた生活水準をみたす、という必要性に起因している。子どもの標準的な養育に要する顕示的消費や結果的な支出はきわめて大きく、強力な抑止力として作用する。おそらくこれが、マルサスが言う思慮深い抑制のうちで、最も効果的なものであろう。

この文章を、ある人が次のように書き換えて、レポートを作成しました。

> 人目につく消費を支持するこのような差別化の結果、他者から見られる生活の公開部分に比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、ということが言える。また、派生的な結果として、人々は自らの個人的な生活を他人の目に晒されることから守る、と言う習慣を身につける。こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになるのである。そして、間接的な派生物ではあるが、プライバシーと遠慮という習慣も生じることになった。顕示的消費に基づいた生活水準を満たすことを考えた際に、子どもの養育に要する支出の増加は極めて大きく、面目を保つための支出に追われているような階級での出生率の低下も考えられる。現代日本の出生率の低下に関しても、原因の一つとして当てはまるのではないだろうか。

たとえ、レポートの冒頭で、「本稿はヴェブレンの『有閑階級の理論』(1998 年、ちくま書房、ソースティン・ヴェブレン著、高哲男訳）をもとに、この顕示的消費と、顕示的消費における……」と書いてい

たとしても、この文章は剽窃とみなされます。その理由の 1 つは、ヴェブレンの『有閑階級の理論』のどのページに書かれている内容かが明記していないからです。じかし、それ以上にもっと重要な問題があります。下は、原文をどのように書き換えたかがわかるように示したものです。取り消し線を付している箇所は。書き換えるときに原文から省いている箇所です。ゴシック体の箇所は、書き換えるときに書き加えた（あるは言い換えた）箇所です。

人目につく消費を支持するこのような差別化の結果~~生じてきたこと、それは、衆目の前で送られる~~**他者から見られる**生活の公開部分がもつ輝かしさに比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、~~ということである~~**ということが言える**。~~同じ差別の~~**また、**派生的な結果として、人びとは自らの個人的な生活を~~監視の目~~**他者の目に晒されること**から守るという習慣を身につける。~~何の批判も受けず秘密理に遂行しうる消費部分に関して、彼らは隣人との接触を完全に断ち切ってしまう。~~こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる**のである**。~~したがってまた、~~かなり間接的な派生物ではあるが、プライバシーと遠慮という習慣~~――あらゆる社会の上流階級がもつ礼儀作法の規範体系のなかでも、きわめて重要な特徴――~~がも生じることになった。~~なんとしても面目を保てるような支出を実行しなければならない羽目に陥っている出生率の低さは、同様に、~~顕示的消費にもとづいた生活水準をみたす**ことを考えた際に**、~~という必要性に起因している。~~子どもの標準的な養育に要する顕示的消費や結果的な支出はきわめて大きく、~~強力な抑止力として作用する。おそらくこれが、マルサスが言う思慮深い抑制のうちで、最も効果的なものであろう。~~**面目を保つための支出に追われているような階級での出生率の低下も考えられる。現代日本の出生率の低下に関しても、原因の一つとして当てはまるのではないだろうか。**

ほとんどヴェブレンの記述の順番そのまま、細かいところを自分で入れかえただけです。語順さえも直っていません。このように、このレポートを書いた人は、ヴェブレンの文章の重要な語句のまわりにある細かい語句を変えているだけなのです。 これは剽窃とみなされます。

§12 でインディアン大学のガイドを紹介しましたが、同ガイドは次のようなパラフレーズは剽窃であるとしています。

・オリジナルの文章の一部の語句を変更しただけか、あるいは語順を変更しただけである
・アイデアや事実の出典を示していない

また、インディアナ大学のガイドは、次の点に注意したパラフレーズは正当だと述べています。

・オリジナルの情報に正確に依拠する
・自分自身の言葉を使う
・読者が情報源を理解できるようにする
・オリジナルの文章を正確に記録する
・文章におけるアイデアにクレジットをつける
・引用記号をつけることで、どの部分がオリジナルのテキストからとられたもので、どの部分が自分で書いたものか判別できるようにする

インディアナ大学のガイドは、剽窃を避けるためもっと具体的に次のような方策を提示しています。

・テキストから直接に書き写したものには常に引用記号（「」）を付ける。
・パラフレーズする。しかし、いくつかの単語を書きかえただけではだめ。次のようにします。
  1. まずパラフレーズしたい文章をよく読む。

2. 手でその部分を隠したり、本を閉じたりしてテキストが見えないようにする（テキストをガイドにしちゃだめ）。

3. 覗き見せずに自分の言葉でそのアイデアを書いてみる。

・最後に、オリジナルの文章と自分の文章をつきあわせてみて、まちがった情報を書いてしまってないか、同じ言葉を使ってしまってないかの二点をチェックする。

・忘れないうちに出典をつける。

ヴェブレンの文章の前半を、実際に上の方法 1. と 2. にしたがってやってみると、下記のようになります。

> ヴェブレンの『有閑階級の理論』によれば、プライバシーという規範は顕示的消費と関係がある。ひとびとが他の人々に見せつけるために消費するのであれば、他人に見えない部分ではそれほど消費する必要がない。むしろ、顕示的消費を行なうため、見えない部分に費やす費用はより少なくなる。そのため、生活の他人に見えない部分は相対的に貧弱でみすぼらしいものになる。そういう貧弱な部分を他人に見せないために、プライバシーを守るという習慣が発生するのである。（ヴェブレン『有閑階級の理論』高哲男訳、ちくま学芸文庫、p. 129）

ちゃんと内容を理解しないと適切にパラフレーズすることはできません。逆に言えば、パラフレーズを見ればその人がどの程度内容を正しく理解しているのかがわかります。大学でレポートを書いてもらうのは、授業内容を理解してもらうためであり、「適切にパラフレーズ」してもらうことによって内容を把握してもらいたいたいと思っているからです。

［2］パラフレーズの実戦的手順

ヴェブレンの前半部分を使って、実戦的なパラフレーズの手順の一つを説明しましょう。

> 人目につく消費を支持するこのような差別化の結果生じてきたこと、それは、衆目の前で送られる生活の公開部分がもつ輝かしさに比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、ということである。同じ差別の派生的な結果として、人びとは自らの個人的な生活を監視の目から守るという習慣を身につける。何の批判も受けず秘密理に遂行しうる消費部分に関して、彼らは隣人との接触を完全に断ち切ってしまう。こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる。

まず、自分で疑問文を書きます。

> 市民社会でのプライバシーの問題について、ヴェブレンはどう考えているのだろうか。

次に、ヴェブレンの文章を引用し、さらに疑問文をつけます。

> 彼は「産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる」(p. 119)と述べている。しかし、なぜ産業的に発達することと家庭生活が排他的なものになることが関係しているのだろうか。

ここで、ヴェブレンの「顕示的消費」について説明します。

> ここで重要なのがヴェブレンの注目した「顕示的消費」である。顕示的消費とは、生活上の利便性や商品の必要性を目的とした消費ではなく、それによって得られる周囲からの羨望のまなざしや社会的地位の見せびらかしを意識して行う消費行動を指す。

そして、こうつづけます。

> ヴェブレンの指摘によれば、近代的な共同社会では、この顕示的消費のために他人に見えないところに費やす費用を抑えるという動機がはたらく。したがって、家庭の内部での生活はみすぼらしい。

最後に、具体例を示します。

> たとえば、驚くほど華美な服を着ている女子大生が、アパートに帰るとケバだったジャージ姿でカップラーメンをすすっている、などという光景はいまでも見られるだろう。しかし、そういう格好は他人には見られたくない。だからプライバシーが重視されるようになるのである。

このようにパラフレーズでは、文章が原文から遠く離れます。しかし、それが文章を書くということであり、何かを学び理解するということなのです。



パラフレーズとは、伝える手段、目的、相手等に応じて表現を言い換えることでもあります。講義で聴いたことをレポートに書く際にも、聴いた表現をそのまま使うのではなく、要点をまとめながら書くことになります。話す内容、もしくは話された内容を文章化するにも、話しことばの冗長性を軽減し、簡潔にまとめていくことになります。こうしたときに、パラフレーズが必要となります。

パラフレーズは、単に別の表現に置き換えるといった表層的なものではありません。繰り返し読むことをとおして、文章の再解釈を求めてくるのがパラフレーズです。

最後に、見本となるパラフレーズの例を 2 つ紹介しましょう。

> 「労働時間短縮のためのもっとも強力な手段が、労働者およびその家族の全生活時間を資本の価値増殖にりようされうる労働時間に転化するための、もっとも確実な手段に一変する。」（エンゲルス編・向坂逸郎訳『マルクス 資本論』第二分冊、岩波文庫、p. 383）
>
> ここで言う「労働時間短縮のためのもっとも強力な手段」とは、機械の導入です。
>
> 機械を導入すれば生産性は上がって、これまでより少ない時間で同じだけの量を生産できるようになる。これは事実です。そして、そうなれば、労働時間は減りそうなものです。
>
> ところが実際はそうではない。それどころか機械の導入が、「労働者およびその家族の全生活時間を資本の価値増殖にりようされうる労働時間に転化」してしまう。むしろ機械の導入が、そのための最も確実な手段となることさえある。
>
> いい例がコンピューターです。一九八〇年代ぐらいには。「コンピューターの導入によって、事務の効率、能率は驚異的に上がる」と言われていました。実際にそうなったと思います。そうやって能率が上がったら、みんなすることがなくなって、仕事が減って楽になるはず。そう思われていました。ところが現実はまったく逆でした。職場へのコンピューター導入以降、むしろ労働時間はどんどん長くなっていったのです。

出典：白井聡（2020）『武器としての「資本論」』東洋経済新報社、pp. 107-108

『資本論』の一節が、みごとにパラフレーズされています。

もう一つは、カントの『実践理性批判』の一節をパラフレーズした竹田青嗣の文章です。

> 《君の意志の格律が、いつでも同時に普遍的立法の原理として妥当するように行為せよ。》（『実

践理性批判』72 頁 波多野精一ほか訳）

パラフレーズすると、君の行為のルールが普遍的な善悪のルールに合致するように行為すれば、君の行為はつねに道徳的だといえる、となる。では普遍的な善悪のルールとは何か。カントの意を汲んで言えば、ある行為が必ず誰かに善（益）をなし、同時に誰にも悪（害）とならないような行為、これが普遍的な道徳のルールである、と考えればよい。

出典：竹田青嗣（2020）『哲学とは何か』（NHKBOOKS）NHK 出版、pp.47-48

✎まとめ（Summary）

1. **パラフレーズでは、自分がその文章をどのように理解したかを、自分の言葉に置き換えて再構成することである。**
2. **パラフレーズにおいても、出典は明示すべきである。**
3. **講義を聴いてレポートを書いたり、話をまとめたりするときにも、パラフレーズする力が必要である。**
4. **具体例を示すことで、自分の理解が確かなものとなる。**

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

鎌田美千子・仁科浩美（2014）『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

§14:クリティカル・リーディングの技法

[1]アカデミック・リーディング（学術的読解：ＡＲ）

専門書や論文、レポートなどアカデミックな日本語の文章を読むことを、アカデミック・リーディング（AR）といいます。AR は、次の 3 つのステップで構成されます。

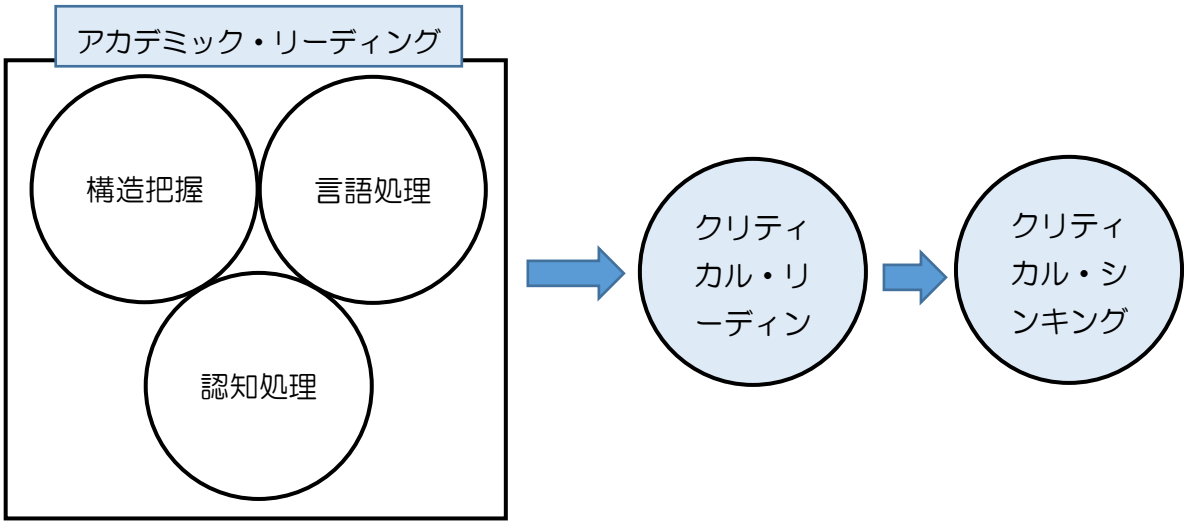
1. **全体把握**：メタ・コンテンツとテキストの種類を把握すること。テキストを読んで、そこに書かれたことはつまり何なのか、というメタ・コンテンツの形にまとめる力は、レジュメやレポートを書くときにも必要です。

> メタ・コンテンツとは、コンテンツ（内容）そのものではなく、内容をメタ（meta-）に（ひとつ上のレベルから）捉え直し、名詞句で端的にまとめたものです。要点や要約ではありません。
>
> （例）
>
> 環境のために自動車の使用を制限すべきだ。←コンテンツ
>
> 自動車の使用に関する意見←メタ・コンテンツ

2. **言語処理**：ことばの意味や用法、文法などの知識を使って、文章を文字通りに理解すること。
3. **認知処理**：テキストに書かれたことから合理的な推論の範囲で確実に言えることを筆者の意図に沿って読みとること。文字通りの意味を理解する（言語処理）だけでなく、「この文章で一番大切なことは？」「筆者が言いたいことは？」「これとこれの関係は？」「わかりやすく整理するとどうなる？」「この例は何を説明している？」などを考えて理解すること。

[2]クリティカル・リーディング（批判的読解：ＣＲ）

テキストを読んで何が書かれているかを正確に理解したうえで、複眼的な視点から、その内容や構成を検討することを、クリティカル・リーディング（CR）といいます。異なる視点からの分析や推論、自分の経験や考えに照らした検討など、書き手の書いていることを無条件に受け入れるのではなく、判断を保留して吟味する視点を持って読むことです。一つの見方に囚われない柔軟な思考、つまりクリティカル・シンキング（批判的思考）の土台を作るのに役立ちます。



【参考資料】「アカデミック・リーディング・スキル」一覧表

構造把握と認知処理のスキルを一覧したものであり、アカデミックな日本語の文章を読むために身につける必要のあるスキルです。

メタ・コンテンツを把握する	メタ・コンテンツとは、内容をメタに(ひとつ上のレベルから)捉え直し、名詞句で端的にまとめたものです。内容の要約ではありません。
全体の流れを把握する	文章全体をひとつの話として理解することです。話のつながりがわかり、段落を正しい順序に並べ替えることができます。
論点を把握する	論点とは、そこに書かれた主張やその根拠の核心(一番中心的なポイント)です。つまり、「要するに何が言いたいか」です。
論理展開を予測・把握する	書かれたことを論理的に追い、「なぜそう言えるのか」を理解すること、論理的に考えて前後の展開や結論を推測することです。
明示的な主張・意図を把握する	文中に筆者の主張(意見)や意図(言いたいこと)がはっきり表れているときに、それが読み取れることです。
結論を把握する	筆者の最終的な判断を一言でまとめるとどうなるかがわかることです。結論ははっきり書かれている場合とそうでない場合があります。あとの場合は、書かれたことをもとに推測する必要があります。
特定の情報のみを抽出する	必要な情報がどこに書かれているか見つけ出すことです。要らないものを捨て、必要な部分だけを取り出します。
比較・対照する	「Aはこうだが、Bはこうだ」と何かを比べたテキストを理解することです。分類の視点が筆者独特の場合、何と何を対比しているのかを的確に捉えることがポイントになります。
原因と結果の関係を把握する	因果関係を理解することです。文中で原因と結果が離れている場合や、直接的に書かれていない場合もあります。
構造・法則性を把握する	書かれている内容について論理的な構造や法則性(こういう場合はこうなるなど)を整理して、理解することです(ここでいう「構造」は、テキストの文法的・言語的構造ではありません)。
何の例かを把握する	例を挙げて何かを説明しているとき、「それが何を説明するための例なのか」を理解することです。「どんな例か」ではありません。
非明示的な背景・意図を推測する	書かれたことの背景や意図が直接的ではないが推測できるように書かれている場合に、それを捉えることです。
複数の情報を関連付ける	書かれている複数のことが互いに関連している場合に、その関係を正しく理解し、関連するものどうしを結びつけることです。

アナロジー・比喩がわかる	アナロジー(類推)というのは、新しい物事や考え方を説明するときに、すでに知っていることと比べてみることです。「ああ、こういうことかな」と類推してわかってもらうための説明の手法です。 比喩は、「太陽のように明るい人」や「人生は旅だ」のように、一つのものを何か他のものに喩えることです。「人生は旅だ。計画してもその通りには行かない。だが、そこがおもしろい。」のように、喩えるものの間に共通の物語や関係や構造があるものは、比喩でもあり、同時にアナロジーでもあります。 ［アナロジーを使った説明の例］ 「過去にこだわらずに前に進むこと」を説明するために、下線部のコップの話を、アナロジーとして使っています。 ときどき、これまでのやり方や過去の成功体験にこだわって、新しい方法や考え方を受け入れられない人がいる。だが、それでは進歩も成長もない。過去にこだわらすに前に進もう。コップに新しい水を入れるには、今、入っている水を棄てなければならないのだ。
句・文単位での言い換えを把握する	文中で同じ意味を表す複数の表現が使われているとき、それを把握することです。もとの言葉が一語でも、言い換えが句(フレーズ）や文になる場合があります。
スキミングする	速読のスキルの一つで、全体をさっと読んで、概要・主旨・要点など、そこで重要な情報は何かをつかむ読み方です。何が書かれたテキストか、自分の目的に合うかをごく短時間で知りたいときに使います。
スキャニングする	速読のスキルの一つで、全体を見渡して、必要な特定の情報が書かれた部分を探し出す読み方です。自分が求める情報があらかじめ決まっていて、それだけを把握したいときに使います。
抽象的記述と具体的記述を関連付ける	文中で関連のある事柄が、抽象的なレベルと具体的なレベルの両方で書かれているとき、両者を結び付けることです。「移動手段」と「徒歩」や「電車」のような関係です。

[3]クリティカル・リーディング（CR）の手順

CR をおこなうためには、まず対象となる文章を理解し分析する必要があります。文章の分析とは、主張の種類を見分け、どのような論証が行われているかを明らかにすることです。

１．主張（結論）の種類を見分ける

主張には、以下の 3 つの種類があり、まずこれを区別することが大切です。

① **意味規定（定義づけ）**：これは何かの意味を規定し、定義を与える主張です。意味規定には次の 2 種類があります。

(a) 辞書的定義：辞書や百科事典、専門辞典などに即して定義を与えること。

例：「大学は高等教育機関である」。「人間の内臓とは、循環器、消化器、呼吸器、泌尿生殖器、内分泌器の総称である」。

(b) 独自の定義：筆者自身が独自にある事柄に定義を与えること。

例：「こうした教育方針のことを“全人格”教育と呼ぶことにしよう」。「就業、就学、職業訓練のいずれもしていない人のことを。以下では“ニート”と名づけることにする」。

② **事実命題**：命題とは真偽や妥当性を確かめられる文章をいいます。事実に関する命題は事実命題と呼ばれます。

例：「今年の大学生の就職率は約 90％である」。「カバは、草食性で、多くは夜に陸上で草を食べ、アフリカのサハラ砂漠以南の川や湖の付近にすんでいる」。

③ **価値命題**：価値にかかわる命題で、その妥当性や正否を問うことができ、以下の 2 つの種類に分けることができます。

(a) 選好命題：「～のほうがよりよい／好ましい」という選好を表した命題。

例：「勉強しないより、したほうがよい」。「安全よりも自由のほうが大切だ」。

(b) 当為命題：「～すべきだ／すべきでない」という義務や政策を表した命題。

例：「人の嫌がることをしてはならない」。「金融の自由化をもっと進めるべきだ」。

２．根拠・証拠の分析

主張は根拠から正しく論証（導出）されていなければなりませんが、いま述べた主張の種類に応じて、どのような理由、さらには根拠・証拠が必要であるかが異なってきます。

① **意味規定の場合**：意味規定は定義づけであるために、通常、「なぜそう討えるのか」を示す理由は不要です。ただし、それが妥当な定義であるかどうかは問題になりえます。たとえば、「大学は高等教育機関である」が妥当な定義であるかどうかは、教育関係の法令や教育学辞典などを証拠として示すことで確かめられます。「私は大学は中等教育機関だと思う」は常識からはずれた定義づけであり、そのような定義をする理由を説明する必要があります。

② **事実命題の場合**：事実命題を主張するには、根拠として証拠（データ）が必要なときがあります。たとえば、「近年、少年の凶悪犯罪が増えている」という主張をするためには、「凶悪犯罪」を意味規定し（どの程度の犯罪が「凶悪」と呼べるのか）、それが「近年増加している」ことを示すデータを出す必要性があります。そうでない事実命題は、ただの風聞や俗説にすぎず、まともな学術的な議論の対象とはなりません。あるいは、「夏目漱石の小説『坊つちやん』では、主人公は最後に山嵐と再

会する」という主張は、文学作品についての事実命題であり、原典から引用したり参照ページを示したりすることがデータとなります。あるいは、「A氏は原子力発電に批判的な立場をとっている」という事実を示すには、A氏の著作やインタビュー集からそれに該当する発言を正確に引用する必要があります。ただし、あまりに常識的な事実命題にはデータは不要です。たとえば、「日本海側の冬は太平洋側よりも雪が多い」には、証拠となるデータはいらないでしょう。

③ **価値命題の場合**：価値命題の根拠には、事実を示すデータと、同意できるより一般的な価値命題が必要です。たとえば、「タバコは吸うべきではない」という当為命題については以下の二つが根拠となります。

・「タバコは吸うべきではない」

・「なぜなら（根拠）、(a)タバコは健康に有害であり、(b)健康に悪いことはやめるべきだからである」

(a)は事実命題であり、その証拠となるデータが必要かもしれません（あるいはすでに常識なので不要かもしれません）。(b)の「健康に悪いことはやめるべき」は、「タバコは吸うべきではない」よりも一般的な価値について言及した命題です。読者は、(a)が事実どおりで、(b)に同意できれば、「タバコは吸うべきではない」という主張に納得できるのです。逆に、「タバコは吸うべきではない」という当為命題に反対したければ、タバコは健康に有害ではないことを証明するか、「健康に悪くても禁止は強要できない」などと主張すればよいでしょう。

言い換えれば、次のような質問（問い）をすべきです。

・「法で制限する」とは、どの程度か。全面的な禁止か。課税を増やすのか。

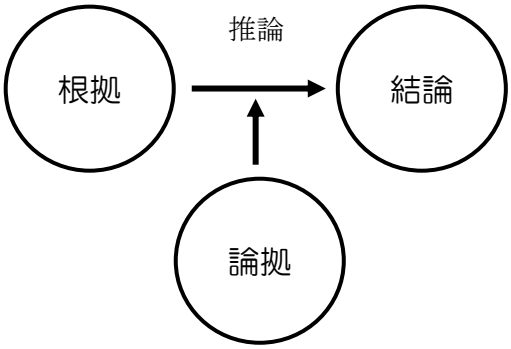
・「健康に害がある」という医学的証拠はどのようなものか。

・なぜ健康に害があると法で制限する必要があるのか。害があるからといっても法で取り締まる必要があるか。

・「健康に害がある」からといっても、やってはならない悪いことか。選択の自由のほうが価値があるのではないか。

３．論証の特定と吟味

CR とは、ここまで述べてきたように、ある論文・レポートの論証（立論ともいいます）が納得できるものかどうかを検討しながら読むことです。論証の型を知っておくと、そのことが比較的容易にできるようになりま。下に示した図は、その典型モデルです。



結論（主張）：その議論で最終的に主張されること

タバコは全面的に法で禁止すべきである

根拠（証拠）：その結論（主張）を支持するために持ち出される事実や要因

これがタバコの有害性を示すデータである。

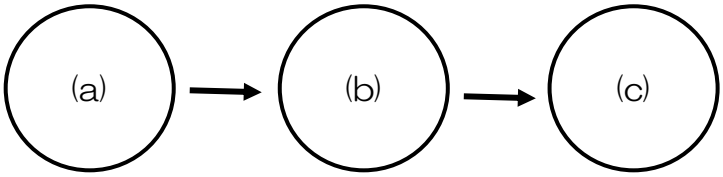
論拠：根拠（証拠）と結論（主張）をつなぐ暗黙の前提（フレーミング）

有害性のあるもの（人の健康を害するもの）は法的に規制すべきである。

そして、論証の型としては、次のような 3 つがあります。

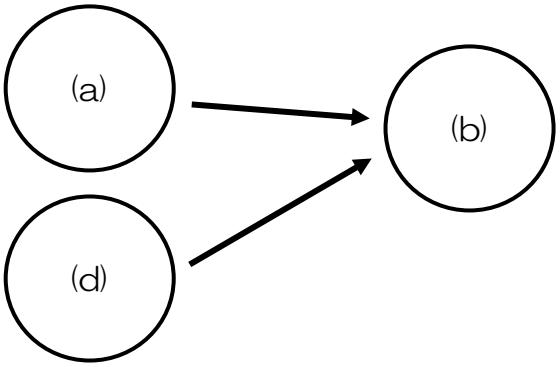
①直列型

天気予報で晴れると言っていた(a)から明日は晴れるはず(b)だ、だから明日は傘はいらない(c)。



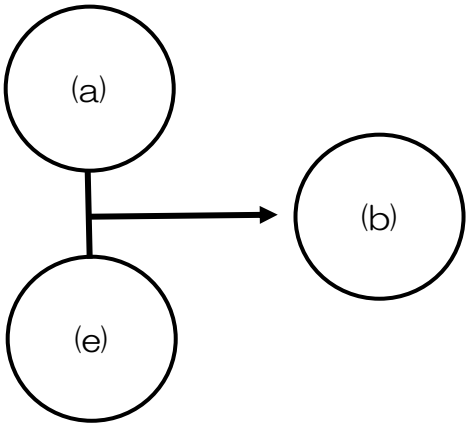
②並列型

天気予報で晴れると言っていたし(a)、空を見ても雲ひとつない(d)、だから明日は晴れるはずだ(b)。



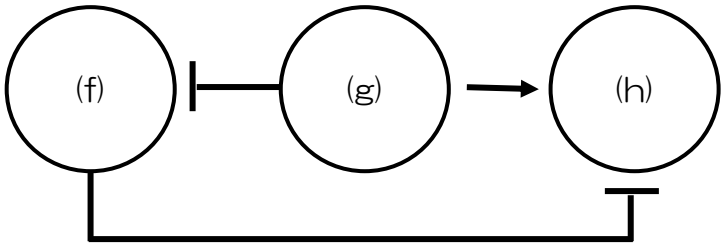
③組み合わせ型

天気予報で明日は晴れると言っていて(a)、天気予報は信用できる(e)、だから明日は晴れるはずだ(b)。



④再反論型

たしかに天気予報は明日は雨だと言っていたのだが(f)、しかし天気予報は外れることの方が多い(g)、だから明日は晴れるだろう(h)。



４．根拠の種類と吟味

根拠（証拠やデータともいいます）には、次の 3 つの種類があります。

①実証的データ：実験、観察、社会調査（アンケート法、インタビュー法、心理テスト、観察法)、質的研究などの科学的方法によって収集されたデータや事例報告。

②引証：専門家の著作や論文からの引用や証言。信頼できる組織・機関が発表した意見。

③常識：いわゆる常識や社会的通念、多くの人が同意していると思われる主張。

学術的な証拠としては、①や②が望ましく、③はやや証拠能力が弱いといえます。②についても再検討の余地があるかもしれません。ある分野の専門家がまったく関係のない他の分野で発言していることがありますが、知的な慎みに欠けた態度であり、信頼しないほうがよいでしょう。また、個人的な経験や体験、あるいは風聞は一般化するにはあまりに根拠が弱い場合が多いといえます。ひとつの事例以上に考えるべきではないでしょう。しかし事例であっても、一定の方式で詳述され、複数の人間によって記録された質的研究は信用できる記録です。繰り返しますが、学術的文書は、論証から構成されている文書です。したがって、CR とは、何よりも理由と証拠が正しく主張を導出しているかどうかを検討することなのです。

理由・原因・根拠

理由……「なぜ？」という問いに対する答えのすべて

原因……あるものごとが何によって引き起こされたのかを説明する理由（「なぜその結果が引き起こされたのか？」の答え）

根拠……ある主張の説得力を増すために示される理由（「なぜそう主張できるのか？」の答え）

論証のチェックポイント

✐根拠は誤っていないか

✐循環論法[注]（論点先取り）になっていないか

注：論証すべき結論を論証の根拠とする論法。例「彼は嘘を言わない。なぜなら、彼は正直者だからだ」

✐根拠と結論の関連性は弱すぎないか

✐仮説形成で、他のもっともらしい仮説を無視していないか

✐少数の事例、偏った事例からの一般化（帰納）になっていないか

［4］「読み」の方法としての質問（問い）

「問うこと」や「質問すること」の重要性については、さまざまな人が繰り返し言及しています。

たとえば、ノーベル賞受賞者の野依良治博士はインタビューに答えて次のように語っています。

> 科学者として成功するには、何が必要なのか分かりますか。（中略）ものすごく単純なんです。自分でいい問題を見つけて、それに正しく答えるということです。この生き方を貫くのです。
>
> （中略）
>
> 考える力、答える力が落ちていると言いますが、最も心配なのは「問う力」がほとんどないこと。誰かに作ってもらった問題に答える習慣が染み付いている。幼い子供たちは好奇心を持つが、学校教育が疑いを持つことを許さないのではないか。発展につながるいい問題を作るのは、与えられた問題にいい答えを出すよりも、ずっと難しいのです。平凡な既成の問題に答えてもまったく意味を成さないはずで、なぜこんなことが分からないのか。

出典：ノーベル賞受賞者が見る教育の未来 野依博士に聞く（1）「教育新聞」2019.1.1
https://www.kyobun.co.jp/commentary/cu20190101/（2019.6.26 参照）

また、『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問づくり」』の中では、さまざまな分野の専門家が述べている「質問の重要さ」を、次のように紹介しています。

> **・小学校から高校までの生徒たち**
>
> 「私たちがもっている知識は質問の結果です。実際、質問することは人間がもっているもっとも重要な知的ツールです。にもかかわらず、このもっとも大切な知的ツールを学校で教わらないというのは不思議なことだとだと思いませんか？　繰り返します。人間にとってもっとも大切な知的ツールを学校では教わらないのです」ニール・ポストマン※
>
> **・大学生**
>
> 2002 年、〈ニューヨーク・タイムス〉は何校かの大学の学長に、学生たちが在学中に学ぶべきこと、という質問をしました。バード・カレッジのレオン・ポットステイン学長は、「基本的なスキルは、解釈と探究に必要となる分析力です。言い換えると、どのように質問したらいいかを知っていることです」と答えています。また、シラキュース大学のナンシー・カンター学長は、世界はとても複雑なので「私たちが学生たちのためにできるベストのことは、よい質問ができるようにしてあげることです」と言っています。
>
> ※ニール・ポストマン＝1931～2003。アメリカの教育批評家。翻訳されている著書は『子どもはもういない』（新樹社、2001 改訂）『愉しみながら死んでいく-思考停止をもたらすテレビの恐怖-』（三一書房、2015）他。（引用者による注）

出典：ダン・ロスステイン他著・吉田新一郎訳（2015）『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問づくり」』新評論、pp. 28-29

「問うこと」や「質問すること」の重要性への言及は枚挙にいとまがありません。そして、この「問うこと」「質問すること」が、文章をクリティカルに読むときに、たいへん有効なのです。

野矢茂樹さんも、「質問を考えようとすることによって読み方が能動的になり、活性化してくる。ここに、質問の練習をすることの第一のポイントがある。質問の練習をすることで、文章を読むときの（あるいは話を聞くときの）想像力と論理力が鍛えられるのである」（『【増補版】大人のための国語ゼミ』筑摩書房、p. 210）と述べています。そして、文章を読むための「質問の形」を次の 3 つのタイプに分けて説

明しています。

文章を読むための質問（３つのタイプ）

✐**情報の問い**（もっと知りたい）

もっと詳しく知りたいことはないか

関連する話題でさらに知りたいことはないか

真偽を確かめたいことはないか

「具体例はあげられているだろうか、データはあるだろうか」：事実命題を支える証拠（データ）があるか。どんな証拠（実証的データ、引証、常識、個人的体験、逸話）があげられているか。証拠は十分に主張を支えているか、正確か、信用できるか、古くないか。

✐**意味の問い**（もっと分かりたい）

分からない言葉はないか

曖昧な言葉はないか

「それはどういう意味だろうか」：主張に含まれる用語に意味規定（定義）がなされているか。その規定は妥当で、常識的なものか。文章内での意味規定が一貫しているか。意味のぶれや多義性、曖昧さがないか。

✐**論証の問い**（きちんと納得した）

独断的なところはないか

飛躍はないか

「なぜ、そう言えるのか」：主張に根拠があるか。主張と根拠が関連しているか。根拠から主張が論理的に導出（論証）されるか。

出典：野矢茂樹『【増補版】大人のための国語ゼミ』筑摩書房の pp. 211-216 をまとめた。

自分やほかのひとの見解の真偽を問い直すとして、次のようなチェックリストも使えるツールです。

真理探究のための質問

①ある問題点に対して、論者の見解が理解できているかどうか自問しなさい。

②議論の中心になっていると思われる言葉を吟味しなさい。

③論点を支えている根拠はなにか自問しなさい。

④論点と根拠はどんな前提の上になりたっているかを問うてみなさい。

⑤その議論が表しているあるいは含意している価値について自問しなさい。

⑥根拠がきちんとあげられているか自問しなさい。

⑦アナロジー（類比）と比較を考えなさい。

⑧論者の意見の偏りと背景を考えてみなさい。

⑨含意していることを自問してみなさい。

⑩議論が対立意見を考慮しているか自問しなさい。

出典：クルーシアス・チャンネル（2004）『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会、pp. 58-61

質問は対話のツールでもあり、読むことが文章や書き手との対話であるとすれば、次のような「質問例」も読みのツールとして有効だといえます。これは GTTK（The Good Thinker‘s Tool kit ）、哲学する人の道具箱というもので、子どもの哲学（P4C：Philosophy for Children ）をハワイで実践しているトーマス・ジャクソンという人が考えた対話のツールです。

思考の道具箱（The Good Thinker's Toolkit）：探求的な対話をするための質問例

①What：意味（それはどういう意味ですか）

「～ってどういう意味ですか」「～はどう定義しますか」

②Reasons：理由（その理由を教えていただけますか）

「なぜですか」「どうしてそう言えるのですか」

③Assumptions：前提（それは～を前提としていませんか）

「その考えには何か前提があるのではないですか」「どうして、そういう考えが生まれるのですか」

④Inferences/Implications：推論（もしそうだとすると、～ということになりませんか）

「そうだとすると、どういうことになるのでしょうか」「その主張通りだと、最終的にどうなるのでしょうか」

⑤Truth：真実・真偽（それは本当でしょうか）

「それは本当ですか」「どうやったらそれが真実だと確かめられますか」（真偽）

⑥Examples/Evidence：例・証拠（それの具体的な例を挙げてくれますか）

「そう言える証拠がありますか」「何か具体例はありますか」

⑦Counter-Examples：反例・一般化（それには～のような例外もあるのではないですか）

「それはいつも当てはまりますか」「反例はないのですか」

こうした質問（問い）のツールを活用して、文章をクリティカルに読めるようになりましょう。そうすることで、考える力も身についてくるのですから。

［５］「読み」の方法としての反論

カール・ポパーは、「科学的精神」とは自分の立てた仮説が「うまく適合しない」事例を探し出し、その反証事例によっておのれの仮説が論駁されうるかどうかを吟味することを最優先するような知のはたらきのことであると定義しました。「私の理論がうまく妥当する事例」の列挙にはあまり興味がなく、むしろ「私の理論がうまく妥当しない事例」に興味を引かれ、それによって自分が立てた仮説を自分自身の手で書き換えることを優先的に考えられるタイプの人のことを、ポパーは「科学者」と呼んだのです。

将来、もしあなたがいかなる分野であれ、創造的な仕事を成し遂げたいと希望するなら、後述するような反論の基本的スキルをしっかりと身につけていくべきです。反論に耐えられる（防衛力が高い）かどうかが、ほかのひとの見解に同意できるか（自分の見解が説得性をもつかどうか）の決定的なメルクマールとなるのですから。

論証に反論するときには、次のような方法を用いることができます。

①根拠か論拠の虚偽・矛盾を突く
②根拠か論拠に論証責任を求める
③論証を認めた上で、「そうは思わない」という新たな論証を立てる

たとえば、上記の方法を適用すると、

主張：生物を創ったのは全能の神である（創造説）。
根拠：生物は非常に多様で精巧に作られている。
論拠：非常に多様で精巧に作られた生物が自然に生まれることはない。

といった論証には、次のような反論が可能です。

方法①の適用例

［根拠に対して］いや、生物には不必要な退化した器官（痕跡器官）も存在している。

［論拠に対して］いや、多様であるとみえる（成長した姿はまったく似ていない）生物も、発生の初期

の姿はよく似ている。
いや、品種改良によっても生物の形質は変わりうる。

方法②の適用例

［論拠に対して］なぜ、非常に多様で精巧に創られた生物が自然に生まれることはないといえるのか。

方法③の適用例

［主張］：なるほど。しかし、「創造説」には同意できない。
［根拠］：痕跡器官（クジラの後ろ足の骨など、痕跡だけは残っているものの実際には機能していない退化した器官）が存在している。
［論拠］：神が全能であるなら、不要な退化した器官を作る必要などない。

補足：脳研究者の池谷裕二氏が次のように語っています。「脳の機能はつぎはぎだらけなんですよ。お世辞にもよくできたシステムとは言いがたい。進化の過程で、これも要る、あれも要ると、後からその場その場の必要によってパーツを継ぎ合せてきたから、全体としては必ずしも上手くオーガナイズされていない」（森達也「ではけっこう無駄やロスが多くて、回り道していると」）「私にはそう思えます。ゼロからデザインし直したら、もっといい脳ができただろうと思います」（出典：森達也「私たちはどこから来て、どこへ行くのか 24　なぜ脳はこんな問いをするのか(1)」『ちくま』NO.516、2014.3、筑摩書房、p.59）。池谷氏に依拠すれば、③については、「人間の脳は無駄やロスが多く、上手くオーガナイズされていない」という根拠と「神が全能であるなら、完璧にデザインされたものを作るはずである」という論拠を立てることもできます。

［６］デマやうわさに騙されないために

新型コロナウイルスの感染拡大にともなって、「次世代高速通信『5G』が新型コロナウイルスの感染拡大に影響している」「花崗岩がコロナウイルスに効く」など、さまざまなデマやうわさがインターネットや SNS でながれました。「ウイルス感染予防に効果」などとうたって食品を紹介する、根拠のないうわさや商品広告もインターネット上で続出しました。そうしたデマやうわさに対して、健康情報を読み解く力「ヘルスリテラシー」の浸透に取り組む中山和弘聖路加国際大教授（看護情報学）は、情報に接した際に確認すべき 5 点を、頭文字から「かちもない」の合言葉で紹介しています。



5 点は以下の通りです。

(1) 書いた人は誰で、専門知識があるか。匿名だと無責任な発信の場合がある。
(2) 違う情報を探し、比べる。特定の情報だけをすぐに信じてはいけない。
(3) 元ネタは何か、根拠を示す文献がなければ、個人の考えで勝手に言っているだけの可能性がある。
(4) 何のために書かれたか。商品やサービスを売る目的のことがある。
(5) いつの情報か。古い情報だと、現在では当てはまらない可能性がある。

こうした点が確認できなければ「価値がない情報」と判断する考え方で、「商品の買い占めや、病院や検査に駆け込む前に、情報を見極めることこそが自分や周りの健康につながる」と指摘しています。CR は、メディア・リテラシーの要件でもあるのです。

出典：「根拠のないうわさや広告…健康情報、見抜くためのポイント５つ」2020.4.5 9:30 配信西日本新聞（https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200405-00010001-nishinpc-sci　参照日：2020.5.1）

Glossary　精読

精読というのは、ちょっと結論的な感覚で言うと、読み終わった時に「その人以上にその人になっているんじゃないか」という気分になることですよね。「この人の考え方の筋はわかった」みたいなね。たとえば向こうにすごいピッチャーがいて、速い球投げて、時々スライダーが来て、スプリットフィンガーファーストボールとかいろんな配球でくるので、最初はきりきり舞いさせられる。でもそのうちに、その人がどういうつもりで投げてくるかわかるような気分になる。「必ず次はスライダーでくるだろうな」みたいなことがわかる。これと似ている。本当に精読すると「あなたの考え方でいけばこういうことになるはずだ」くらいのところまでいく。本当に著者がそう考えるかわかりませんが、少なくとも読んだこちらとしては、そういう感じになるんです。そういう域に達する時は、僕はたいていノートをつくったりしていますけれどもね。……その本の論理の筋は自分の中に受肉している感じがあって、そうするとそこからさらにどこにいかなければならないかもわかる。あるいは現在の知見を前提にした時、どこにさらに次の一歩があるのか、自分がその論に内在して思考しているから余計にわかるという気がするわけです。

出典：小林康夫・大澤真幸（2014）『「知の技法」入門』河出書房、p.87-88

✎さらに学びたい人へ（Further reading）

伊勢田哲治（2005）『哲学思考トレーニング』（ちくま新書）筑摩書房
福澤一吉（2012）『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』（NHK 出版新書）NHK 出版
福澤一吉（2012）『論理的に読む技術』（サイエンス・アイ新書）ソフトバンク クリエイティブ
大出　敦（2015）『クリティカル・リーディング入門』慶應義塾大学出版会

【参考資料】テクスト分析（クリティカル・リーディング）の具体的な手順

次のような手順で文章をクリティカルに読むこともできます。参考にしてください。

1. 主張を見つける

著者の最終的・中心的な主張（結論）は何だろうか。文中から書き出（引用）しなさい。

2. その主張に至る議論の過程をまとめる

著者の中心的な主張に至るまでが、どのような議論展開になっているか、結論までの節の内容を、それぞれ２～３行で手短にまとめなさい。

3. 理由をリストアップして検討する

著者の中心的な主張を支える理由を本文中から探し出し、箇条書きにしなさい。また、その理由から主張がきちんと導出できているかどうか、検討しなさい。

4. 根拠・証拠を見つけて検討する

必要なデータや事例は挙げられているか、検討しなさい。

5. 隠れた前提（論拠）を見つけて検討する

筆者の主張には隠れた前提（論拠）があるだろうか。もしあるなら、あなたはそれに同意できるだろうか、検討しなさい。

6. 反論と反駁を検討する

①著者自身が、テクストの中で自分への反論を取り上げて、それに反駁している場合は、それについて検討しなさい。

②あなたは、著者の主張への批判につながるような質問が思いつくだろうか。あるいは、著者への反論が思いつくだろうか。また、筆者の立場に立って、その反論への反駁を考えなさい。

7. 主張への態度を決定する

最終的にあなたは、著者の主張に賛成か反対か保留か。自分がそう思う理由と根拠を示しなさい。

付録【レポート見本】

小学生が iPad を学習活動に利用することについて

△△学部※※学科〇回生　学籍番号〇〇〇
氏名　□□ □□

1. iPad 利用教育実践と本レポートの目的

近年、教育現場で iPad（タブレット型コンピュータ）を活用させようとする実践が増えている。文部科学省の調査によれば、全国の公立学校でタブレット型コンピュータが占める台数は、2014 年度の 7 万 2678 台から 2015 年度は 15 万 6356 台へと、2 倍以上に増加している。しかし、iPad の活用が子どもの思考や学習活動に及ぼす影響については十分に検討されていない。本レポートでは、iPad を学習活動で利用することに問題はないかを考察していく。

そこで、本レポートでは、小学生の学習活動において iPad を全教科で利用することには問題があることを、三つの理由を挙げて明らかにする。そのために、先行論文に記載されている関連研究を調べて検討する。

2. iPad 利用の問題点

一つ目の理由は、iPad で文章や資料を読むスピードは紙媒体に比べて早いということである(坂井, 2011, 山内・永岡, 2011)。坂井(2011)は、iPad と紙で文学的文章と説明的文章を読んだ際の、速度の違いを実験した。その結果、文学的文章では有意な差が出なかったものの、説明的文章においては iPad の方が読み速度が速くなることがわかった。また山内・永岡(2011)は、ビジュアルイメージが大部分を占めている漫画を使用することで、実際に使用されている教科書と似た環境で実験を行なった。その結果、電子書籍を読んだ経験の有無に関わらず、iPad は書籍よりも有意に読書スピードが速くなった。この二つの実験から、iPad は紙媒体よりも負担が少なく読めることが分かる。これは一見、メリットのように感じられる。しかし、小林・池内(2012)の実験によると、説明的文章を読んだ際に記憶に残りやすいのは紙である。負担が少なく読めてしまうということは、それだけ内容も頭に残りにくい。特に小学生にとって、文章から重要な内容を抜き出すのは容易な課題ではなく、文章理解を求める場面で iPad を用いると、ほとんど理解できないと考えられる。

二つ目の理由は、iPad は学習者に「学習している」という感じを与えないということである。赤堀・和田(2012)は、iPad、PC、紙の各メディアを用いた教材学習の実験を行い、その際の飽きや疲れについてアンケートを実施した。その結果について、「最も飽きやすいメディアは紙であり、最も飽きにくいメディアは iPad であった。また、最も疲れやすいメディアは PC であり、もう一度やってみたいと思うメディアは iPad であった」と報告している。つまり、iPad を利用して学習を行なうと、楽々と本文や資料に目を通すことができ、「学習している」という感じを与えずに、もう一度やってみたいとさえ思うのである。だが、もの珍しさでの意欲の高まりは、そのうち飽きてしまう(坂井, 2011)。学習者に「学習している」という感じを与えないことは、学習の継続性に影響を与えるといえる。

三つ目の理由は、学習教材として紙に劣る部分があるということである。赤堀・和田(2012)は、紙の教材について「章末問題、多肢選択問題、基礎的問題、知識・理解の問題に優れていることから、教材内容

を忠実に記憶したり理解したりすることに有効なメディア」と述べている。一方、紙に勝る部分として「iPad は自分の意見や考えを伝える際に有効である」という意見もあるだろう。石原(2012)は、小学校で iPad を用いた実践教育を行ない、プレゼンテーションの授業において「半数以上の児童が肯定的な意見を持っている」としている。なぜなら、iPad は動画や音声を手軽に取り入れることができるためだと考えられる。確かに、このようにプレゼンテーションや発表において自分の意見を伝えるという点に特化しているというのは、iPad を学習活動に利用する点で、最大のメリットである。しかし、文部科学省の現学習指導要領には、「学校の教育活動を進めるに当たっては、(中略)基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ(中略)教育の充実に努めなければならない」とある。このことから小学生にとって、最も基礎・基本的な教材内容の記憶や理解は重要な学習活動であると考えられる。つまり、現時点で学習教材として適切なメディアは iPad よりも紙媒体であるといえる。

3. 結論

以上三点の理由から、小学生の学習活動において iPad を全教科で利用することには問題があるといえる。ただ、プレゼンテーションのように、iPad の利点を生かすこのできる学習活動もある。そこで今後は、学習活動の特性を調べ、その特性に応じた適切な iPad の利用方法についても研究したい。

参考文献

文部科学省「平成 26 年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）平成 27 年 3 月現在」（平成 27 年 10 月）『文部科学省ホームページ』
（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1361390.htm）参照日：2017 年 11 月 5 日

赤堀侃司・和田泰宜(2012)「学習教材のデバイスとしての iPad・紙・PC の特性比較」『白鷗大学教育学部論集』6(1)、15-34

石原一彦(2012)「附属小学校におけるタブレット PC の環境構築と教育実践」教育学部編『岐阜聖徳学園大学紀要』51、51-62

小林亮太・池内淳(2012)「表示媒体が文章理解と記憶に及ぼす影響―電子書籍端末と紙媒体の比較―」『情報処理学会研究報告』29、1-7

坂井岳志(2011)「小学校でのスマートフォンの活用」『年会論文集』27、158-161

山内悠輝・永岡慶三(2011)「電子書籍と印刷物の読書行動における満足感と速度の比較」『電子情報通信学会技術報告』110(453)、27-32

文部科学省「小学校学習指導要領」『文部科学省ホームページ』
（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/）参照日：2014 年 6 月 9 日

おわりに

吉見俊哉さん（社会学・都市論・メディア論専攻）のことばを紹介して、このテキストの締めくくりとします。書くこと、読むことについて、あらためて考えてみてください。なお、蛇足ですが、このテキストそのものが、他者との対話の賜ものであることを言い添えておきます。

私が信じるところでは、知的創造というのは決して自分、つまり私の頭の中にあるアイディアを外へ表出していく行為ではありません。そうではなく、それは根本的に対話的な行為だと思っています。つまり、他者との対話、コミュニケーションの中から生じるものなのです。ここで言う他者とは、具体的な友人でも、教師でも、編集者でもいいですし、研究会や学会で出会った論争相手でもいいでしょう。場合によっては、それはすでにこの世にいない思想家や実践者、時には預言者であっても構いません。いずれにしても、何らかの自分ではない他者との実際の、あるいは想像上の対話が、知的創造には必要なのです。

レポートを書く、あるいは卒業論文や修士論文を書く、あるいは本や学会誌への投稿論文を書く、いろいろな形でテキストを知的に制作していくように迫られることがありますね。そういう行為、つまり何らかの学問的な文章を書くということは――アーティスティックな文章でも本当はそうだと思うのですが――、他者との対話の中で、他者との関係性の線分上に言葉を成立させる行為です。それは、少なくとも創造的であろうとするならば、モノローグでは絶対にあり得ないということです。自分の発話の聞き手、あるいは読み手として想定される他者が常に必要なのです。そのような他者の視点から、自分が考えようとしていることが捉え返され、ある意味では、叩きつぶされなければなりません。

私はよく学生に、論文は、単に自分が言いたいことを書くのではないと言い続けています。言いたいことをそのまま書いても、中身がなんであれ、それだけでは創造的な行為にはなり得ないということです。そのような自己表出の言明は、本人がいくら自分はオリジナルなことを言っていると思っていても、得てして相手には伝わらず、議論が空回りします。話し上手は聴き上手、下記上手は読み上手なのであって、相手の視点に立って自分が言おうとしていることや書こうとしていることを聴き、読むことができなければ、その内容は単なる思いを超えた客観的な言葉として定着していくことができないのです。

出典：吉見俊哉（2020）『知的創造の条件　AI 的思考を超えるヒント』（筑摩選書）筑摩書房、p. 16



日本語文章作成の技法［テキスト］（β版）
2021 年 3 月　初版
9 月　二版
編　著　　薄井 道正
イラスト　高山 亨